

目 次

1 大口町の概要

1	町の位置及び紹介	1
2	大口町医療機関等分布図	2
3	人口	2
4	人口動態統計年次推移	5
5	選択死因別死亡数年次推移	5
6	大口町組織図	7
7	保健センターの概要	8
8	保健活動の変遷	10

2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み	17
2	母子健康手帳の交付・妊婦相談	19
3	妊婦・乳児健康診査	20
4	パパママ教室	21
5	フレッシュママの会	24
6	低体重児の状況	24
7	乳幼児健康診査	25
8	子育て相談室	30
9	家庭訪問	32
10	たんぽぽ教室	33
11	離乳食教室	34
12	子育て支援	36
13	一般不妊治療費助成事業	40

3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み	41
2	健康手帳の交付	43
3	基本健康診査	44
4	各種がん検診	47
5	わかば健康診査	54
6	骨密度測定	56
7	健康教育	58
8	健康相談	71
9	介護予防事業	74
10	保健師活動報告	76
11	栄養士活動報告	78
12	家庭訪問	79

4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み	81
2	幼児期歯科健康診査	82
3	妊婦歯科健康診査	84
4	わかば健康診査時歯科健診	85
5	歯周病予防健診	87
6	口腔機能向上モデル事業	90
7	歯の健康センター	92
8	8020・9018運動	92

5 健康推進事業

1	健康推進員活動	93
2	「健康おおぐち21」計画推進	100

6 感染症予防事業

1	予防接種	114
2	結核予防	118

7 救急医療

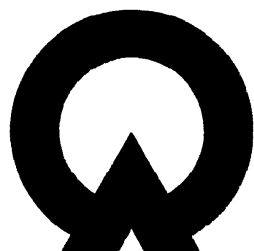
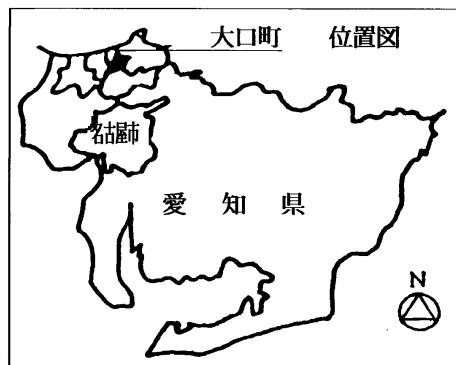
1	救急医療の取り組み	120
2	第一次救急医療	120
3	第二次救急医療	120

8 調査・研究等

1	学生実習指導	121
2	研究・発表等	121
3	健康おおぐち21 中間評価アンケート調査	122

1 大口町の概要

1 町の位置及び紹介



大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積13.58平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか18キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道41号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。また、近隣には県営名古屋空港があるなど国内外の地域や国々との交流条件が充実しています。

2 大口町医療機関等分布図



3 人口

(1) 地区別世帯数 (単位：世帯)

地区	区分	世帯
秋田		697
豊田		572
大屋敷		526
外坪		239
河北		477
余野		1,680
上小口		562
中小口		693
下小口		1,328
垣田		373
さつきヶ丘		293
合計		7,440

(2) 地区別人口 (単位：人)

地区	区分	人口		
		総数	男	女
秋田		2,195	1,100	1,095
豊田		1,936	955	981
大屋敷		1,535	757	778
外坪		803	396	407
河北		1,535	747	788
余野		4,737	2,452	2,285
上小口		1,603	851	752
中小口		2,065	1,039	1,026
下小口		3,543	1,832	1,711
垣田		924	415	509
さつきヶ丘		801	399	402
合計		21,677	10,943	10,734

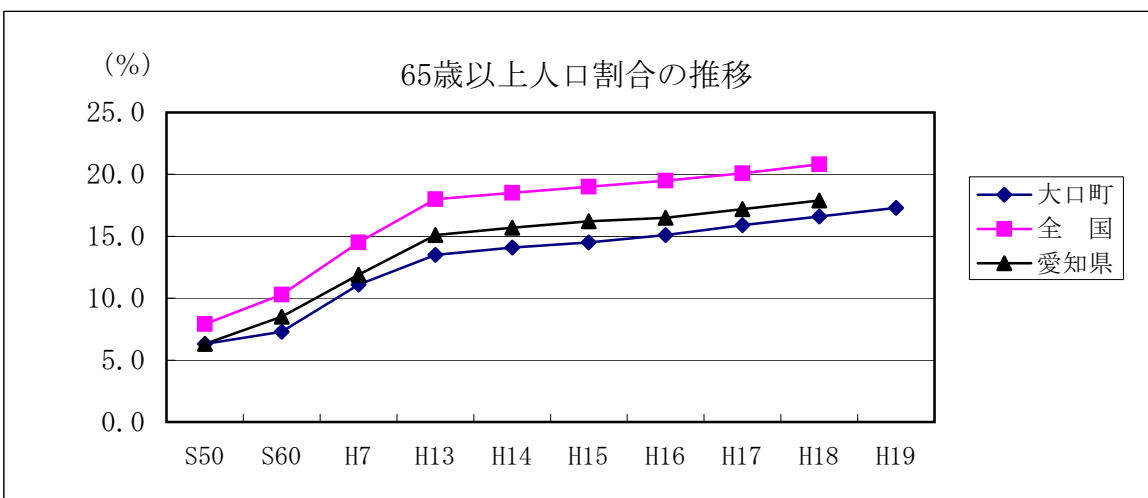
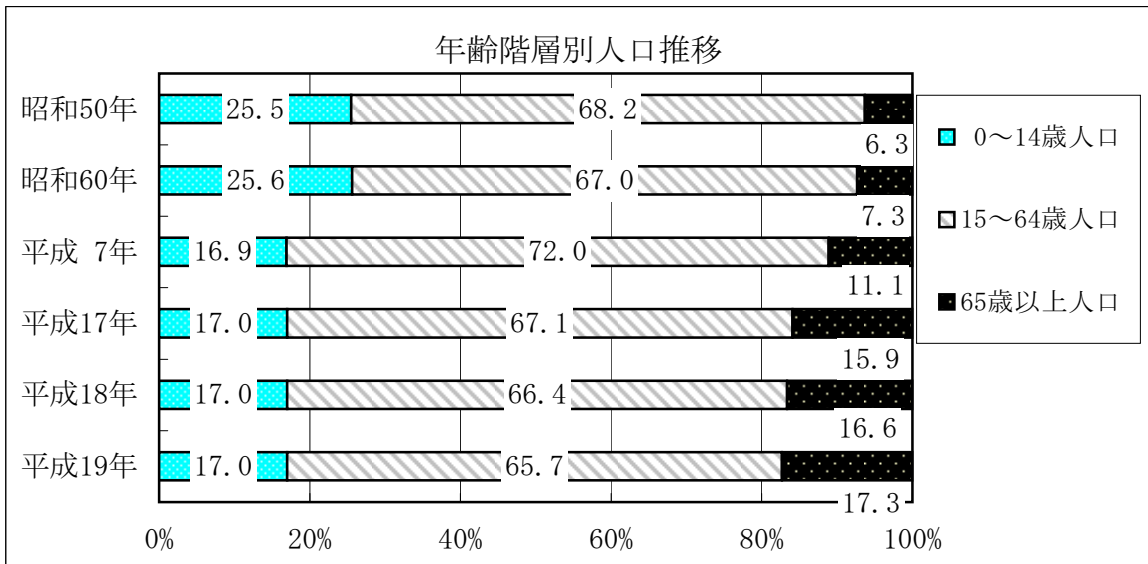
(平成19年10月1日現在 住民基本台帳より)

(3) 年齢階層別人口の推移

(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成18年	平成19年
総人口		15,894	16,195	19,031	21,261	21,451	21,677
年齢階層区分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,616	3,647	3,675
	比率	25.5	25.6	16.9	16.9	17.0	17.0
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,257	14,235	14,240
	比率	68.2	67.0	72.0	66.5	66.4	65.7
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	3,388	3,569	3,762
	比率	6.3	7.3	11.1	15.9	16.6	17.3
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	10,189	10,303	10,548
	比率	28.1	32.2	45.4	47.5	48.0	48.7
	75歳以上	308	421	873	1,364	1,426	1,503
比率	1.9	2.6	4.6	6.4	6.6	6.9	
全国 65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	20.1	20.8	-	
愛知県 65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	17.2	17.2	-	

資料：全国・愛知県は、国勢調査及び「国民衛生の動向」より



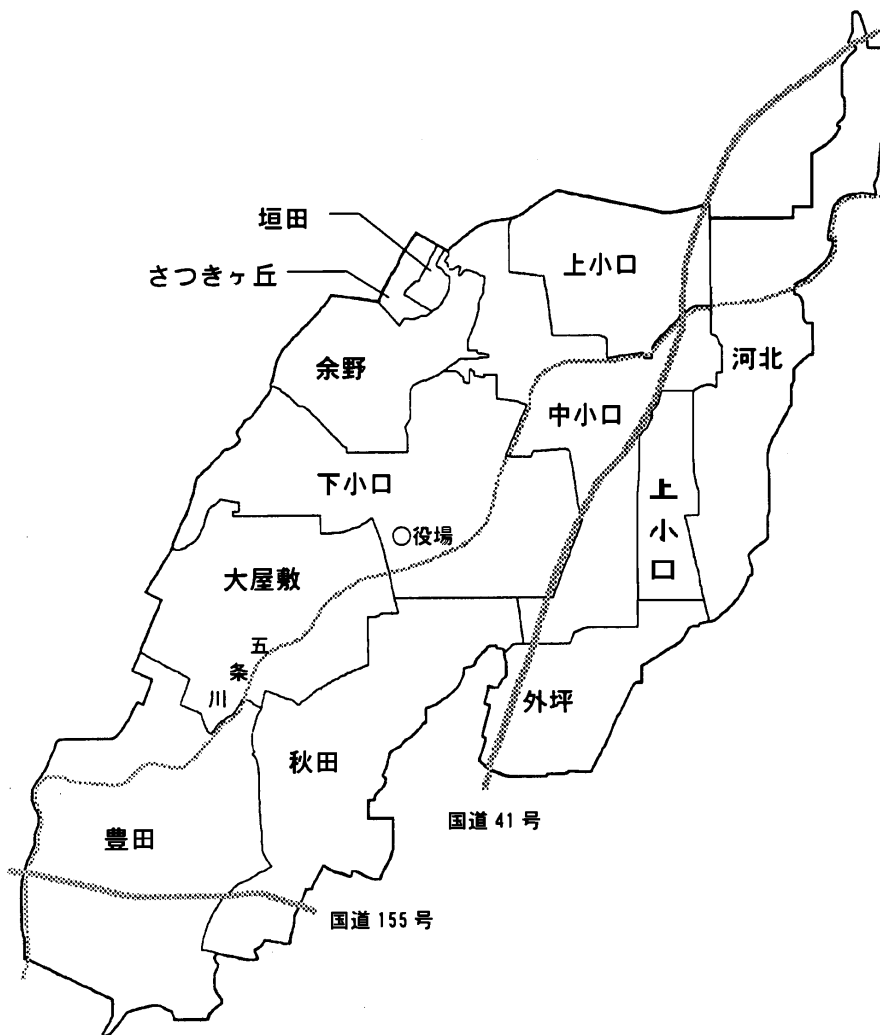
(4) 地区別高齢化率

(上段：人 下段：%)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,195	1,936	1,535	803	1,535	4,737
65歳以上人口	370	396	350	193	259	558
比 率	16.9	20.5	22.8	24.0	16.9	11.8
地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,603	2,065	3,543	924	801	21,677
65歳以上人口	295	338	637	157	209	3,762
比 率	18.4	16.4	18.0	17.0	26.0	17.3

(平成19年10月1日現在 住民基本台帳より)

〈行政区域図〉



4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000 対)

種別 年	人口	出生				死亡				自然増加		乳児死亡(再掲)				新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
昭和 55	16,195	226	120	106	14.0	100	53	47	6.2	126	7.8	3	2	1	13.3	-	-	3	13.3	7	30.0	98	6.1	16	1.0
60	17,247	199	111	88	11.5	86	42	44	5.0	113	6.6	-	-	-	-	-	-	-	-	9	43.3	88	5.1	14	0.8
平成 元	17,184	162	97	65	9.4	85	48	37	4.9	77	4.5	1	-	1	6.2	1	6.2	-	-	8	47.1	83	4.8	20	1.2
6	18,822	233	127	106	12.4	103	58	45	5.5	130	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8.5	131	7.0	23	1.2
15	21,275	254	134	120	11.9	141	80	61	6.6	113	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3.9	145	6.8	37	1.7
16	21,254	250	140	110	11.8	138	73	65	6.5	112	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	16.0	125	5.9	44	2.1
17	21,602	229	123	106	10.7	157	83	74	7.4	72	3.3	1	1		4.4	-	-	-	-	9	37.8	139	6.5	44	2.1
18	21,750	253	124	129	11.6	124	62	62	5.7	129	5.9	2	-	2	7.9	1	3.9	1	3.9	3	11.9	150	6.9	51	2.3
19	22,040	249	130	119	11.2	153	76	77	6.9	96	4.4	-	-	-	-	-	-	3	11.9	5	19.6	129	5.9	26	1.2
愛知県 H18	7,296,527	69,999	35,935	34,064	9.8	52,294	28,543	23,751	7.2	17,705	2.4	188	105	83	2.7	72	1.0	297	4.2	1,700	23.7	46,374	6.4	13,861	1.9
全国 H18	126,154,000	1,092,674	560,439	532,235	8.7	1,084,450	581,370	503,080	8.6	8,224	0.1	2,864	1,556	1,308	2.6	1,444	1.3	5,100	4.7	30,911	27.5	730,971	5.8	257,475	2.0

※人口は、大口町及び愛知県が愛知県企画振興部統計課発表の総人口、全国が厚生労働省大臣官房統計情報部試算の日本人人口で各年 10 月 1 日現在である。

< 率算出式 >

$$\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} = \frac{\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生+死産)数}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡・新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠満 22 週以後の死産数+早期新生児死亡数}}{\text{出生数+妊娠満 22 週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$$

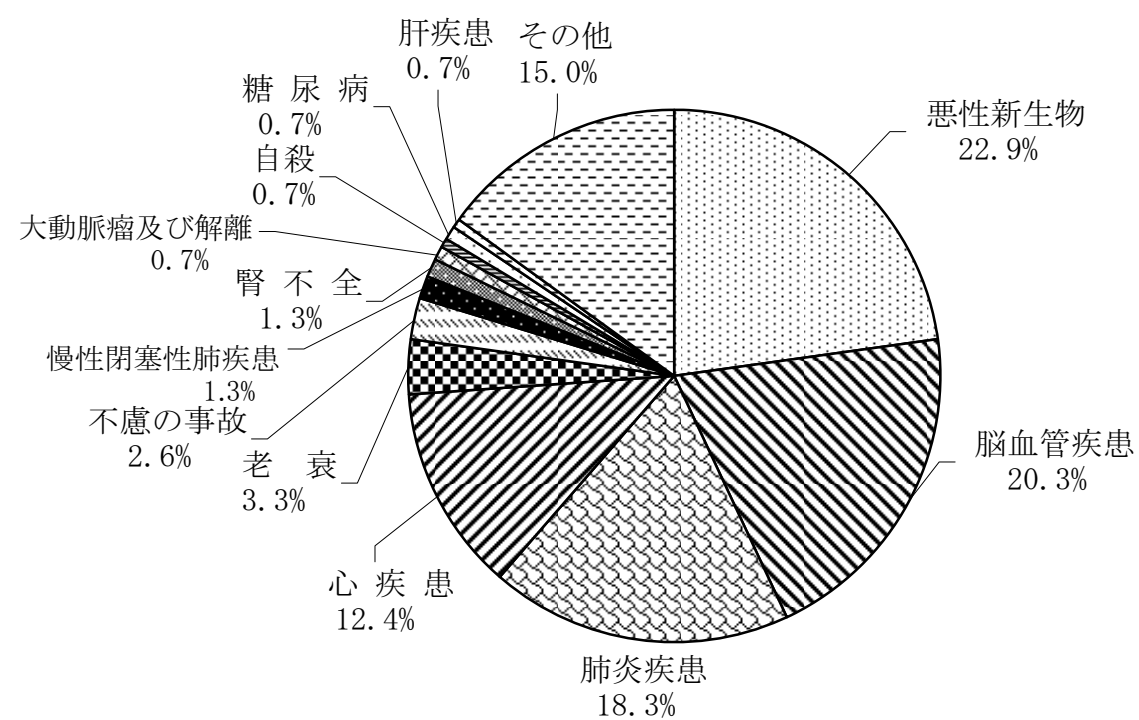
5 選択死因別死亡数・率(人口 10 万対)年次推移

(単位：人)

死因 年	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		脳血管疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎疾患		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
平成 7 年	119	5.3	1	5.3	37	194.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	-	12	63.1	1	5.3	-	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3
14 年	117	-	-	-	32	151.2	2	9.4	1	4.7	16	75.6	11	52.0	2	9.4	13	61.4	2	4.8	-	-	2	9.4	3	14.2	4	18.9	6	28.3	2	9.4	21	99.2
15 年	141	-	-	-	44	206.8	2	9.4	-	-	21	98.7	25	117.5	-	-	12	56.4	1	4.7	-	-	2	9.4	2	9.4	4	18.8	7	32.9	4	18.8	17	79.9
16 年	138	1	4.7	4.7	43	202.3	1	4.7	-	-	27	131.7	15	70.6	-	-	13	61.2	-	-	-	-	3	14.1	2	9.4	4	18.8	5	23.5	3	14.1	20	94.1
17 年	157	-	-	-	46	216.4	2	9.4	-	-	30	141.1	19	89.4	-	-	19	89.4	3	14.1	-	-	1	4.7	4	18.8	4	18.8	6	28.2	2	9.4	21	98.8
18 年	124	-	-	-	39	179.3	1	4.6	-	-	15	69.0	13	59.8	2	9.2	13	59.8	-	-	1	4.6	1	4.6	1	4.6	5	23.0	4	18.4	3	13.8	27	124.1
19 年	153	-	-	-	35	158.8	1	4.5	-	-	19	86.2	31	140.7	1	4.5	28	127.0	2	9.1	-	-	1	4.5	2	9.1	5	22.7	4	18.1	1	4.5	23	104.4
愛知県 H18	52,294	116	1.6	1.6	15,929	218.3	538	7.4	214	2.9	8,294	113.7	6,097	83.6	601	8.2	4,989	68.3	559	7.7	101	1.4	704	9.6	1,037	14.2	1,334	18.3	2,027	27.8	1,455	19.9	7,999	109.6
全国 H18	1,084,450	2269	1.8	1.8	329,314	261.0	13,650	10.8	5,810	4.6	173,024	137.2	128,268	101.7	11,665	9.2	107,242	85.0	14,357	11.4	2,778	2.2	16,267	12.9	21,158	16.8	27,764	22.0	38,270	30.3	29,921	23.7	162,693	129.0

※愛知県及び全国の人口動態・選択死因別死亡数は、厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課発表の「平成 18 年人口動態統計(確定数)」より抜粋。また、大口町の数値は概数である。

(1) 選択死因別死亡割合 (平成19年)

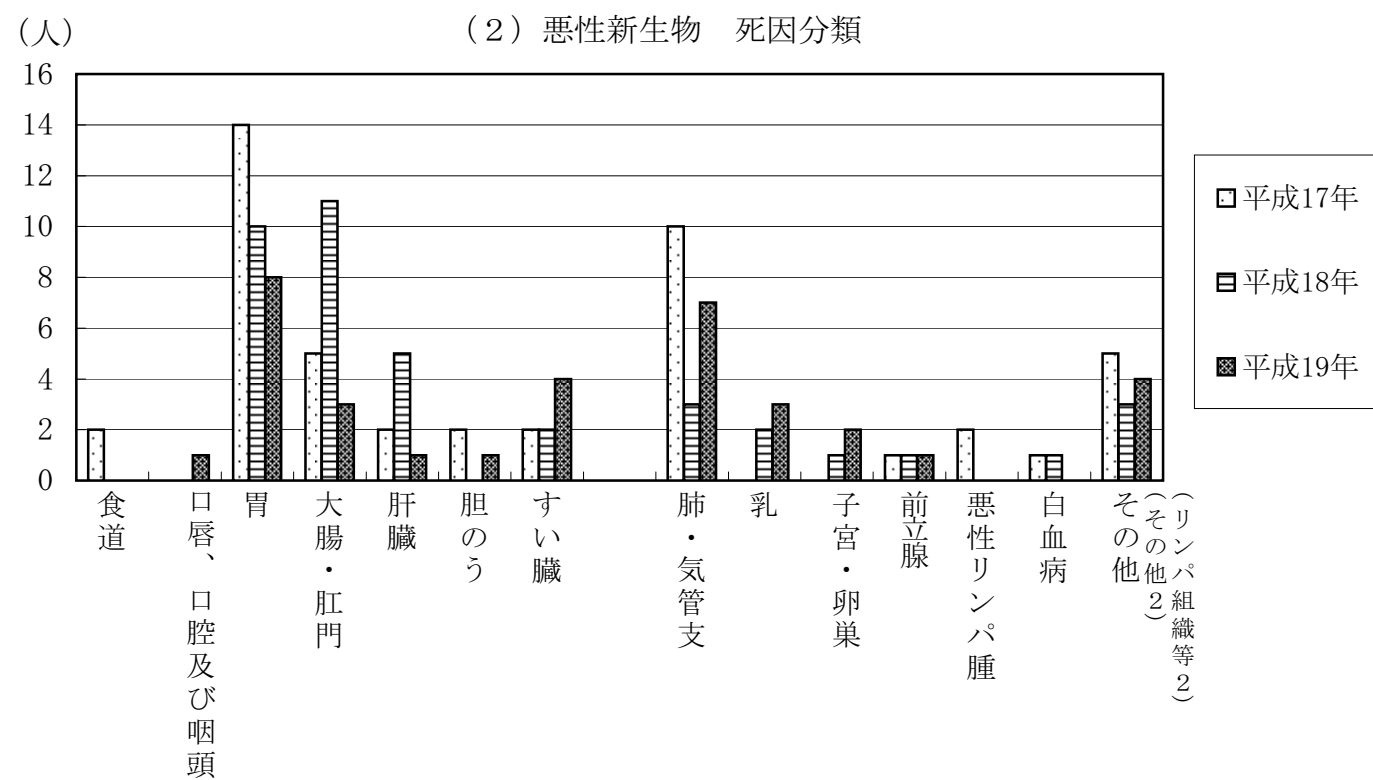


(3) 年齢別死亡数・死亡原因 (平成19年)

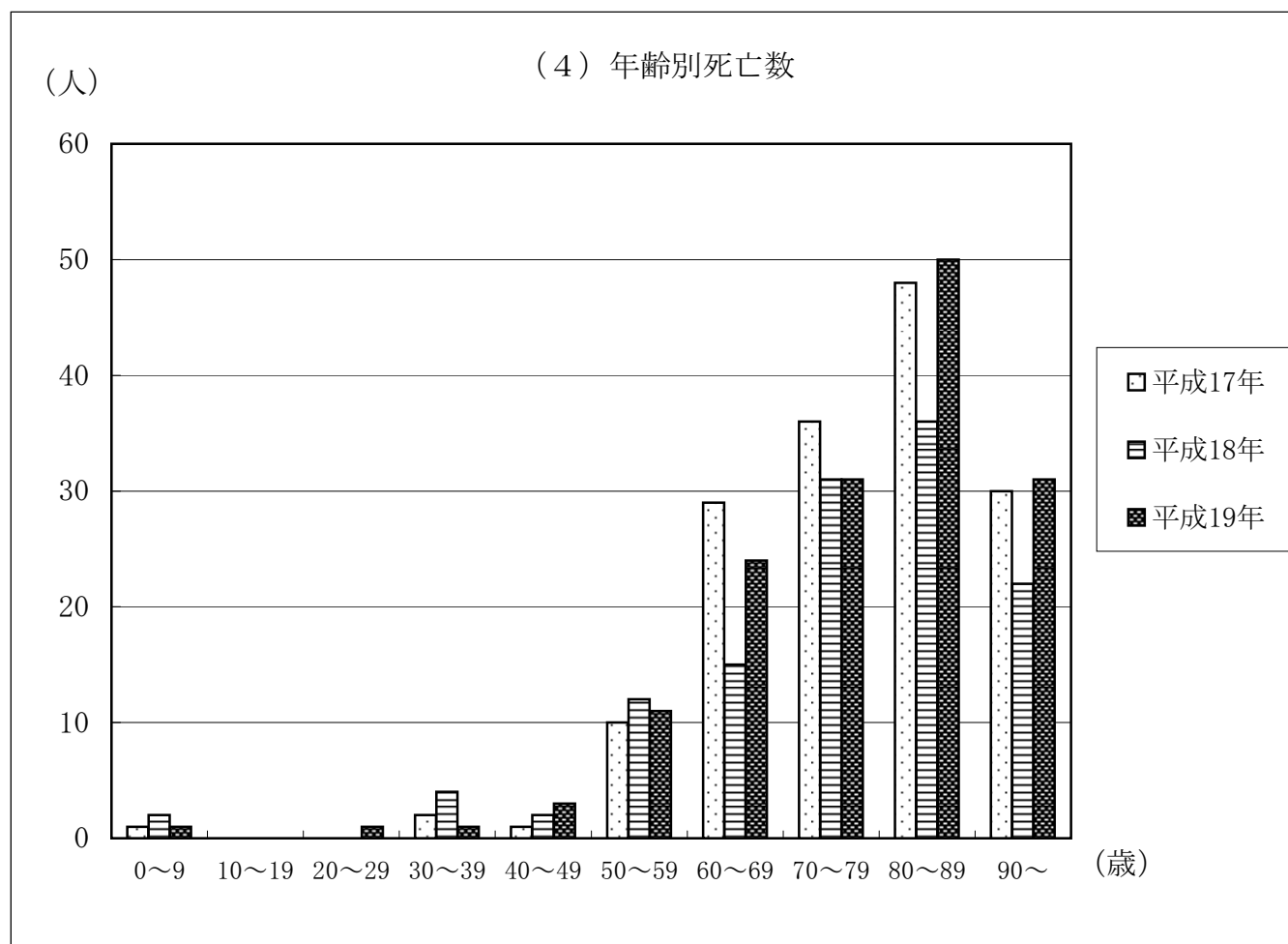
(単位:人)

年齢(歳)	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤及び解離	肺炎疾患	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺	その他
0~9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
10~19	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20~29	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
30~39	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40~49	3	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
50~59	11	-	4	-	-	2	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
60~69	24	-	9	-	-	3	5	-	1	-	-	-	2	-	1	-	3
70~79	31	-	9	1	-	4	7	-	2	2	-	-	-	-	2	-	4
80~89	50	-	11	-	-	6	9	1	11	-	-	-	-	1	1	1	9
90~	31	-	1	-	-	2	7	-	13	-	-	-	-	4	-	-	4

(2) 悪性新生物 死因分類



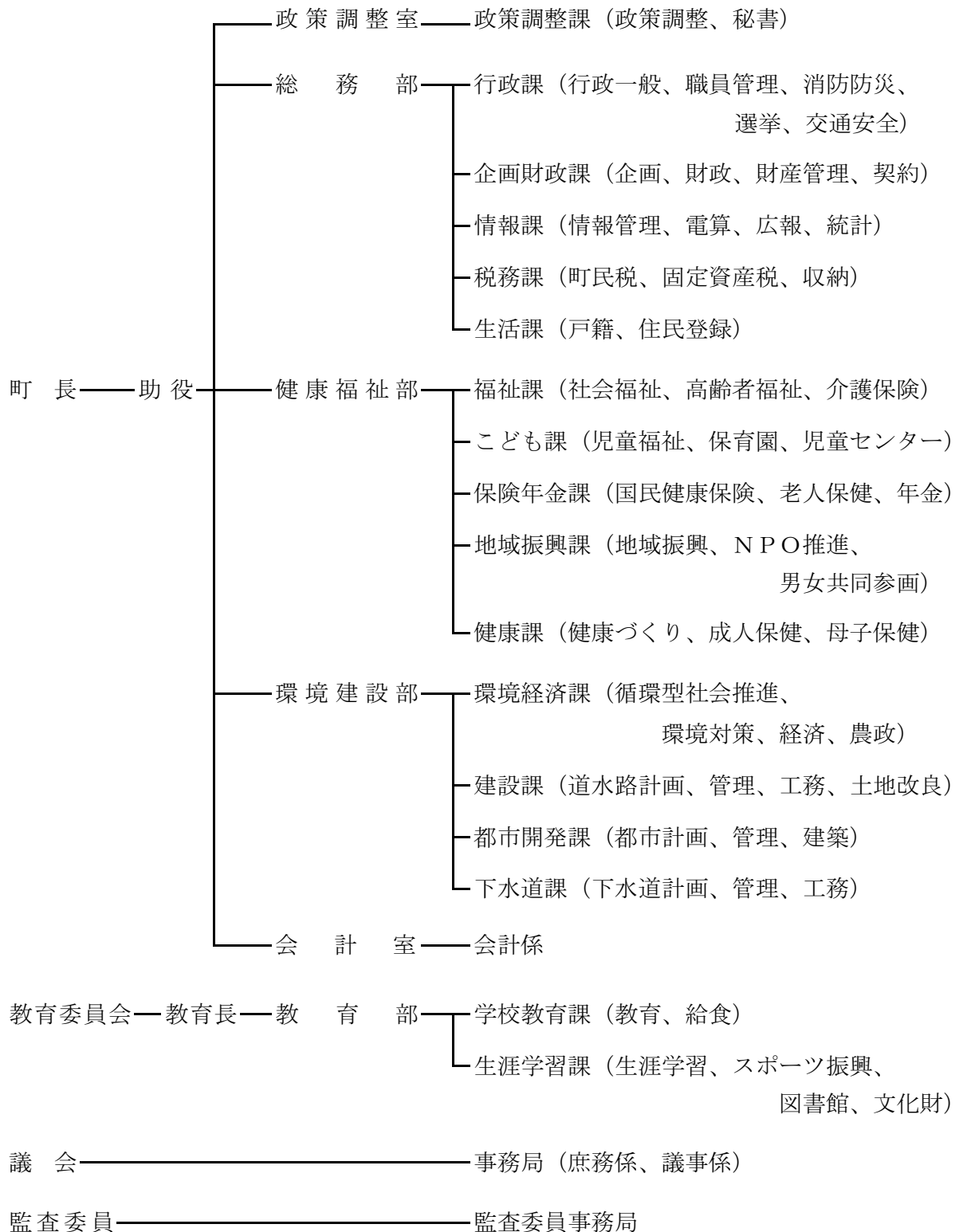
(4) 年齢別死亡数



※グラフ中の%については小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しません。

6 大口町組織図

(平成19年4月1日現在)



7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成10年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

(1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目35番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造5階建
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)

1階	1,847.40 m ²	保健センター（専用面積 974.78 m ² ）
2階	1,639.98 m ²	保健センター（専用面積 611.92 m ² ） 社会福祉協議会
3階	1,106.63 m ²	歴史民俗資料館
4階	1,106.63 m ²	研修センター
5階	1,106.63 m ²	トレーニングセンター
- PH階（機械室） 167.04 m²
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造
床面積 168.00 m²
- ・駐輪場 構造 鉄骨造
床面積 40.00 m²
(延床面積 7,182.31 m²)
- ・敷地面積 10,413.95 m²
(内訳) 本体施設 5,069.95 m²
ふれあい広場、駐車場 5,344.00 m²

- ・本体施設の工期
着工 平成9年6月24日
竣工 平成10年9月24日
- ・使用開始年月日
平成10年11月9日

(2) 保健センターの主要施設

- | | |
|----|---|
| 1階 | 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室 |
| 2階 | 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室 |

(3) 事務分掌

- (1) 予防接種に関すること。
- (2) 感染症に関すること。
- (3) 救急医療に関すること。
- (4) 保健センターの管理運営に関すること。
- (5) 地域保健対策に関すること。
- (6) 医療団体等に関すること。
- (7) 母子保健に関すること。
- (8) 成人保健に関すること。
- (9) 老人保健に関すること。
- (10) 健康増進に関すること。
- (11) 健康推進員に関すること。
- (12) 健康おおぐち21計画の推進に関すること。
- (13) 介護保険等の認定調査に関すること。
- (14) 健康文化センターの維持管理に関すること。
- (15) その他保健衛生に関すること。

(4) 主な事業内容

母子保健…母子健康手帳交付説明会、妊婦相談、妊婦・乳児健康診査、妊婦歯科健診、
パパママ教室、プレママ交流会、フレッシュママの会、乳幼児健康診査（4
か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児）、離乳食教室、子育て相談室、
たんぼぼ教室、2歳3か月児歯科健診、一般不妊治療費助成事業、子育て
サークル等支援

成人保健…住民結核検診、基本健康診査（肝炎ウイルス検診）、がん検診（胃・子宮・
肺・乳・大腸・前立腺）、わかば健康診査、骨密度測定、健康手帳交付、健
康相談、栄養相談、歯周病予防健診、わかば健診事後指導、生活習慣病予
防教室、高齢者の健康づくり教室（しなやかお達者教室、ひだまりの会）、
生き生き体操教室、健康づくり自主グループ支援、依頼による健康教育

予防接種…集団接種：急性灰白髄炎（ポリオ）、BCG接種

個別接種：麻疹・風疹混合、三種混合、二種混合、日本脳炎、麻疹、風疹、
インフルエンザ（65歳以上等）

家庭訪問…第1子出生児全員及び第2子以降の希望者、低出生体重児（2000g以上）及
び里帰り等の希望者、乳幼児健診事後フォロー、虐待予防、精神障害者、
介護保険認定調査等

健康推進事業…健康おおぐち21計画推進事業、健康推進員活動（OB会も含む）、
健康まつり等

その他…健康文化センター維持管理

8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
平成 元年		<ul style="list-style-type: none"> ・成人歯科相談開始 ・大腸がん検診・肺がん検診を町内医療機関にも委託 ・健康（パネル）展をミニ健康展に改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用（4月） ・国の高齢者保健推進「10年戦略ゴールドプラン」策定 ・高齢者サービス調整チーム会議開始 ・保健福祉調整会議 ・保健婦1名退職（3月）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科相談開始 ・キッチンカー（県）による離乳食教室開始（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練教室としてひまわり教室開始(年6回) ・身体障害者を訪問しひまわり教室を紹介 ・乳がん検診町内医療機関に追加委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用（4月）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診に視力検査追加（10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室毎月1回となる ・ひまわり教室スタッフに作業療法士加わる ・送迎用リフトバス配置（1月） ・地区巡回健康相談廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月議会に「健康の町宣言」について一般質問
4	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室スタッフに栄養士加わる ・3歳児健診に聴力検査追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室毎月2回となる ・生命の貯蓄体操開始 ・80歳以上老人及び要介護者の全戸訪問実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により、保健センターに本庁より衛生係移転、センター職員が課長補佐兼衛生係長1名として加わり6名となる（4月） ・8020運動推進対策事業開始（県） ・東保育園に障害者保育「うさぎ組」開設 ・事務職雇1名採用（7月）
平成 5		<ul style="list-style-type: none"> ・生命の貯蓄体操、国保とタイアップし前期・後期の2教室とする ・ひまわり教室野外活動導入 ・作業療法士、年間18回となる ・家庭介護教室（10回コースで実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町老人保健福祉計画を策定 ・大口町健康づくり企画推進委員会及び担当者部会設置 ・大口町議会定例会にて「大口町健康の町宣言」議決（12月） ・老人福祉センター内にデイサービスセンター（D型）開設

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室半日から一日となる。作業療法士24回となる ・男の料理教室開始・家庭介護教室（6回コース）で実施 ・家庭訪問に作業療法士加わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦活動業務が母子、成人の業務分担制となる ・保健所法の一部改正により地域保健法に改名（7月） ・母子保健法の一部改正（7月） ・予防接種法及び結核予防法の一部改正（10月） ・「健康の町宣言」記念式典記念講演会及び第1回健康まつり実施（11月12日・13日） ・国保人間ドック開始
7	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談スタッフに助産婦、栄養士加わる（各6回） ・保育園・保健センター連絡会開始（12月に1回） ・日本脳炎・三種（二種）混合・風しんが個別接種となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきウォーキング講座開始（8回コース） ・ひまわり教室に理学療法士加わる（年2回） ・家庭訪問に理学療法士（2回） ・家庭訪問に作業療法士（6回） ・骨検診開始（11月・1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用（4月） ・特別養護老人ホーム「御桜乃里」開設（4月）、在宅介護支援センター・デイサービスセンター（B型）が併設される（7月） ・老人福祉センター内デイサービスセンターがC型に変更 ・大口町健康推進員設置（6月）
平成 8	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室4回コースとなる（妊婦歯科相談を母親教室の中に組み入れる） ・町で離乳食教室開始 ・「乳幼児相談」を「子育て相談室」に改名し、同時に2階にて「親子ふれあい広場」（生涯学習課）を開設 ・自主子育てサークル誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室理学療法士、年6回になる ・ひまわり教室、花見交流会で豊山町来町・岩倉市来町 ・8020 運動歯の健康コンクール開催 ・歩く健康教室を歩く健康のつどいに改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関するアンケート実施 ・母子保健計画策定 ・精神保健法の一部を改正する法律公布 ・健康まつりを「ふれあいまつり」に統合 ・管内栄養士会設立（1月） ・老人保健施設「さくら荘」開設 ・保健センター内に健康課新設 ・（仮称）健康文化センター基本設計、実施設計 ・公衆衛生審議会で「生活習慣病」の概念を提言

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・パパママ教室開始 (年2回) ・子育てサークル支援 ・3歳児健康診査、妊婦・乳児健康診査等、県より委譲される ・歯科健診の対象者を2歳、2歳6か月児とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング教室中止 ・ステップアップ教室開始 ・生命の貯蓄体操前期のみで終了 ・後期より太极拳教室開始 ・基本健康診査実施要領改正によりヘモグロビンA1c加わる(平成5年より町は実施) ・町民歩け歩け大会開始(生涯学習課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健法全面施行(4月) ・母子保健法全面施行(4月) ・保健サービス評価事業開始 ・地域福祉サービスセンター開設(4月1日) ・健康推進員要綱改正 ・(仮称)健康文化センター建設工事着手(6月24日) ・臓器の移植に関する法律施行(10月) ・介護保険法制定(12月) ・予防接種電算化
10		<ul style="list-style-type: none"> ・大口町健康文化センター竣工記念「ウォーキング大会」開催(11月8日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町が医師会関係を取りまとめる(4月から) ・栄養士1名採用(4月) ・訪問看護ステーション開設の準備、看護婦1名採用(4月) ・介護保険モデル事業実施 ・大口町介護保険事業計画及び新高齢者保健福祉計画策定のための町民意識調査実施 ・大口町健康文化センター竣工(9月24日) ・大口町健康文化センターの1・2階部分に保健センター移転(11月9日) ・保健センター内に機能訓練室、栄養実習室等整備される ・がん検診に係る経費が一般財源化される ・精神保健福祉法施行
平成 11	<ul style="list-style-type: none"> ・歯みがき教室時母親に対しても染め出しブラッシング指導開始 ・子育て情報コーナーを設置 ・乳幼児の救急蘇生と応急処置の講習会開始 ・離乳食教室(前期)を隔月実施に増設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室を半日とし、毎週実施 ・健康情報コーナー設置 ・健康手帳発行を老人医療窓口の一部移管する ・介護保険認定調査訪問開始(10月) ・基本健康診査の広域化(扶桑大口医療機関) ・機能訓練自主活動発足を支援 ・地域リハビリ教室実施に向けて、ボランティアの研修会を実施 ・ひまわり教室(A型機能訓練)廃止(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用(4月) ・「精神薄弱」の用語が「知的障害」に改められる(4月) ・訪問看護ステーション開設(4月) ・伝染病予防法廃止(4月) ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行(4月) ・西児童センター開設(5月) ・大口町障害者福祉計画実施 ・男女共同参画社会基本法公布(6月) ・結核非常事態宣言(7月) ・精神保健福祉法一部改正 ・大口町新高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定(3月) ・愛知県市町村保健行政栄養士連絡協議会設立(3月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュママの会を母親教室時に開催(4月から) ・児童センターでの赤ちゃん広場支援開始 ・乳幼児健診(4か月・9か月・1歳6か月)時の集団指導をグループ指導に変更 ・1歳6か月児健診時、歯の染め出し開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだまりの会(B型機能訓練)を大屋敷学共にて開始 ・ひまわり教室(A型機能訓練)自主活動開始 ・成人歯科相談の名称を大人のための歯みがき教室と改める(後半) ・介護者の健康実態調査実施 ・2か所目のB型機能訓練実施に向けボランティア研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター事務室に他課(地域振興課)入る(4月) ・介護保険スタート(4月) ・地方分権一括法(4月) ・21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」がスタートし2010年度をめぐりとした目標値を定めた ・県が「健康日本21あいち」を策定(3月) ・児童虐待の防止等に関する法律の施行(11月)
平成 13	<ul style="list-style-type: none"> ・はみがき教室廃止 ・母子保健計画策定のための「子育てに関するアンケート」実施 ・貧血予防セミナー開始 ・もぐもぐ教室(後期離乳食教室)開始 ・小児肥満予防教室開催 ・歯科健診時の染め出し実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小口地区ひだまりの会開催 ・介護者の健康実態調査をまとめ、介護保険説明会時、地区にて報告また、愛知県公衆衛生研究会にて発表 ・高齢者(65歳以上)のインフルエンザワクチン接種開始 ・ステップアップ糖尿病教室のまとめを県で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター事務室に地域振興課と入れ替えに福祉課が入る(4月) ・国保人間ドック時に脳ドックを導入 ・総合健康指導事業と高齢者健康指導事業(国保補助事業)を実施し、健康に関する実態調査、健康教育を実施(13年、14年度) ・大口町在宅医療等推進支援情報提供システム等、介護保険支援訪問事業実施 ・保健師2名産休(11月～) ・保助看法の一部改正に伴い、保健師、助産師、看護師となる(3月1日) ・大口町母子保健計画(見直し)策定(3月) ・予防接種法の一部改正があり、二類疾病としてインフルエンザが追加される(11月7日) ・健康推進員OB「ほほえみ会」3部会(ウォーキング、食、劇)となる

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健推進連絡会議開催 ・貧血セミナー廃止 ・母親教室第4回にパパママ教室を組み込む(年3回→年6回) ・1歳6か月児、3歳児健診時、保育士配置 ・妊婦・乳児健康診査の県外受診も可とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス検診を基本健康診査に加える ・基本健診の期間変更(8月～10月)となる ・福祉講演会・健康まつり時健康劇発表 ・ひだまりの会やろまい大祭に参加 ・(仮)健康おおぐち21策定に向けての準備 ・健診関係の電算化に向けての準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・町制40周年 ・健康文化センターの管理が健康課担当となる ・医師会関係事務の担当が犬山市になる(4月から) ・栄養士法改正に伴い、管理栄養士・栄養士は別免許となり、管理栄養士が免許制となる(4月) ・保健師2名育休(4月～12月)(4月～3月) ・健康保険法等の一部を改正する法律施行(10月1日～)に伴い健康手帳の交付についての一部改正 ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正(4月)
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゅーりっぷの会開催(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかば健康診査開始(20歳～39歳対象) ・8020運動歯の健康コンクールに9018表彰を追加 ・住民検診時の検尿・身長体重計測等廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・結核予防法施行令の一部改正により、小中学生のツベルクリン反応・BCG接種廃止(4月) ・肝炎ウイルス検診等実施要領の一部改正により、HCV抗体検査で中力価及び低力価とされた検体に対してHCV抗原検査等実施となる ・健康増進法施行(4月30日) ・受動喫煙防止対策について通知(4月30日) ・重症急性呼吸器症候群(SARS)、高病原性鳥インフルエンザで対応マニュアル、連絡会議等実施 ・健康日本21大口町計画策定委員会設置(7月1日～3月31日) ・訪問看護ステーション看護師7月退職 ・次世代育成支援対策推進法(7月) ・大口町巡回バス試行開始 ・大口町庁内グループウェア開始 ・市町村合併について任意の三市二町合併検討協議会を設置したが解散となる(3月) ・第2次障害者福祉計画策定(3月) ・「健康おおぐち21」策定(3月) ・保健師2名産休育休(4月～3月)(11月～) ・管理栄養士産休(3月～) ・保健師1名退職(3月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
16	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査に対する補助金一般財源化される(4月) ・愛知県特定不妊治療費助成事業開始(7月1日) ・赤ちゃん訪問を、第1子全員と第2子以降の希望者に実施(11月～) ・母子保健システム、予防接種電算化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団がん検診に、前立腺がん・乳がん(MMGを導入)を実施し、自己負担金を徴収する ・住民検診時・わかば健診時に簡易体力測定を実施。まとめを愛知県公衆衛生研究会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制運営補助金一般財源化(4月) ・保健師2名・看護師1名採用(4月) ・保健師1名嘱託採用(4～3月)(訪問看護ステーション) ・保健師1名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名育休(4月～3月) ・愛知県広域災害救急医療情報システムの設置及び運営に関する協定書変更(6月) ・児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の施行(10月) ・健康おおぐち21「元気体操」作成(2月) ・「健康おおぐち21」推進イベント「春だ!笑顔だ!元気まつり」を大口町元気な町づくり事業(協働事業)で実施(3月5日) ・健康おおぐち21シンボルマーク公募し決定(3月) ・大口町次世代育成支援行動計画を策定(3月) ・大口町訪問看護ステーション廃止(3月) ・虐待防止連絡会担当者会議開始(3月) ・愛知万博「愛・地球博」開催(3月)「おおぐちデイ」(3月28日)
17	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に関する連絡会開催(月1回) ・BCG直接接種となる(4月) ・日本脳炎予防接種の積極的接種勧奨を見合わせる(5月) ・日本脳炎予防接種第3期接種を廃止(7月) ・二種混合予防接種第1期接種を廃止(7月) ・ちゅーりっぷの会中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査を除く各種検診を有料とする ・歯周病予防健診(節目年齢)を医療機関委託で実施(8月～10月) ・わかば健診時歯科健診実施 ・8020運動表彰を「健康ウォーク&元気まつり」時に実施 ・介護予防教室(しなやかお達者教室)をあいち健康プラザとタイアップで実施 ・大屋敷ひだまりの会休止(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行(4月) ・発達障害支援法施行(4月) ・医療観察法施行(7月) ・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会を1本化し協働事業で実施 ・健康おおぐち21シンボルマーク愛称公募し決定(11月) ・第6次大口町総合計画策定(3月) ・保健師1名退職(3月) ・大口町母子通園事業試行(4月～3月) ・在宅介護支援センター廃止(3月) ・看護師1名育休(1月～3月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん混合ワクチン接種施行(4月) ・個別予防接種が二市二町共通要領にて実施となる(4月) ・麻しん及び風しんの単抗原ワクチンも法定内接種となる(6月) ・パパママ教室を育児編・栄養編として実施(各年6回) ・たんぽぽ教室を月2回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室(しなやかお達者教室)を豊田地区で実施 ・男性のための健康づくり教室元気UPヘルシーライフ教室実施 ・住民結核検診の対象が40歳以上となる ・ひだまりの会(中小口)の健康チェックをハートフルへ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターを町直営で開始(保健師1名福祉課へ異動) ・看護師1名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名産育休(9月～3月) ・改正介護保険法の施行 ・がん対策基本法の制定(6月) ・障害者自立支援法の施行(4月) ・高齢者・障害者等の移動等の円滑化に関する法律(新バリアフリー法)の制定(6月) ・健康保険法等の一部改正法(医療制度改革関連法)制定・公布(7月) ・歯科衛生士(臨時)1名常勤採用(4月) ・母子通園事業本格実施
19	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科健康診査を医療機関に委託で実施 ・プレママ交流会(栄養編・育児編)の実施 ・歯科健診の対象者を2歳3か月児とする ・子育て相談室に心理相談員を組み入れる ・西小学校区連絡会発足(健康部会に参加) ・妊婦健康診査の公費負担を4～9月までは4回、10月から7回で実施 ・一般不妊治療費の助成を実施(10月) ・予防接種法施行規則の一部を改正する省令施行(12月) ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令(20年1月) ・麻疹に関する特定感染症予防指針(20年1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん健診の医療機関での視触診のみを廃止、集団での超音波による健診を導入 ・国保連合会事業として「ヨーガ」教室を実施 ・介護予防事業のための人材育成(貯筋体操ひろめ隊)講座を実施 ・介護予防連絡会開始(地域包括支援センターより発信) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師1名育休(4月～3月) ・管理栄養士1名育休(4月～3月) ・保健師1名育休(9月～3月) ・がん対策基本法の施行(4月) ・健康おおぐち21中間評価を実施 ・健康まつり運営事業を「健康クラブ笑顔21」と協働契約で委託実施 ・老人保健法の改正(20年3月)

2 母子保健活動

1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業は、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛され、かつ心身ともに健やかに育つことを目指している。

平成19年度は①健診後のフォロー体制の整備・充実 ②軽度発達障害の体制整備を重点課題に取り組んだ。

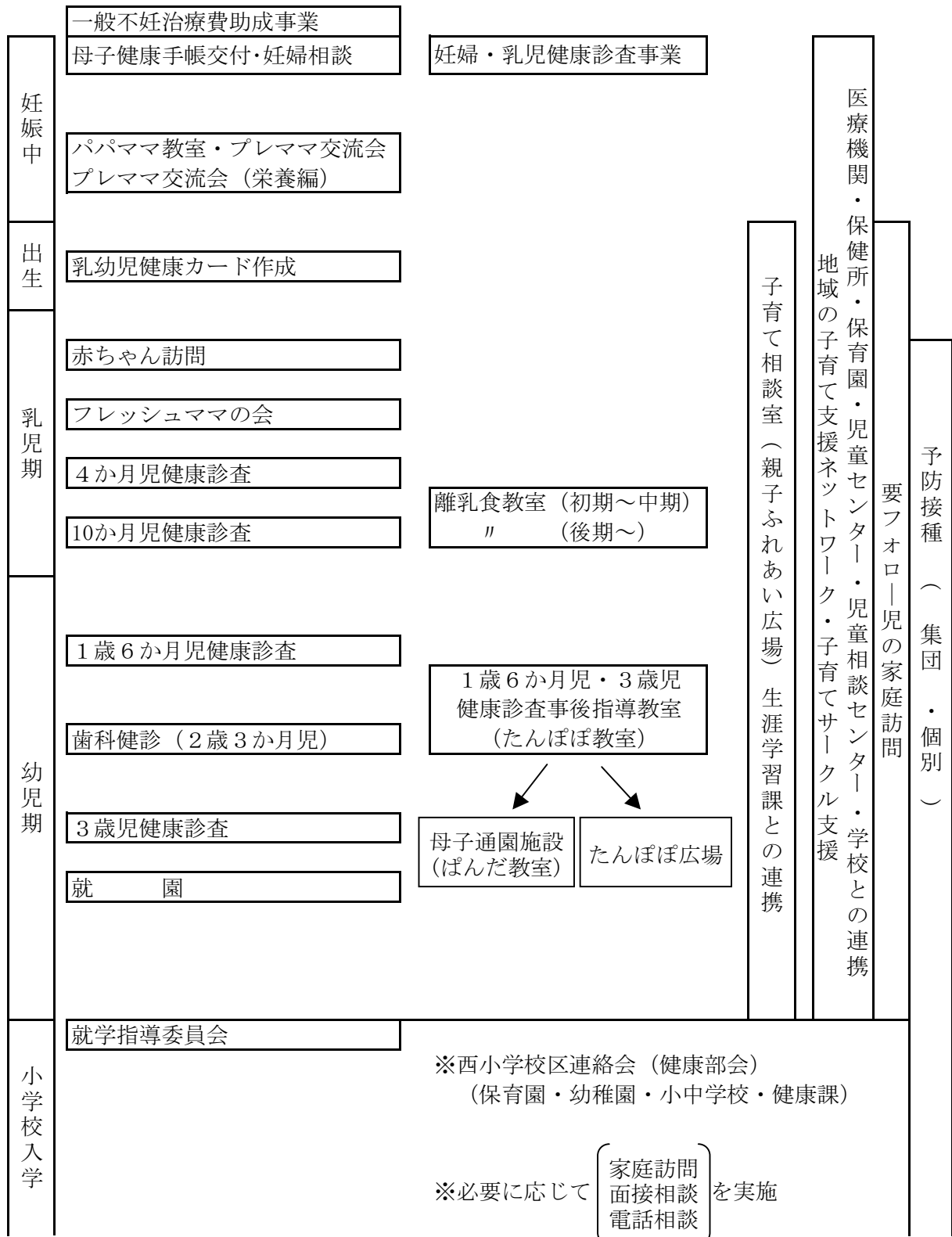
乳幼児健診事後教室については、発達に心配のある子どものスクリーニングの場として位置づけをし、教室参加後に必要な支援につながるよう相談体制を整え、継続的な支援体制をこども課、関係部署と共に進めてきた。相談を充実するため、子育て相談室時に年6回心理相談員を配置した。歯科健診については対象年齢を2歳3か月とし、歯の健康を体全体の一部として捉え、歯科健診と合わせて発達及び育児の確認を行なう場となるよう内容や問診票等を変更した。

妊娠期からの取り組みでは、夫婦で赤ちゃんを迎える心構えや妊婦自身が自分の体を見つめなおすきっかけづくりとなる内容にし、妊婦同士が交流する時間を重視した。

少子化対策の一つとして、平成19年10月から特定不妊治療（体外受精・顕微授精が対象）の前段階として実施される一般不妊治療費助成事業の開始と、妊婦健診費用の公費負担を平成19年4月に2回から4回へ、10月に7回へ増やした。

様々な取り組みの中、子どもを取り巻く体制を整えていくには関係機関が共通認識のもと、連携していくことが不可欠である。今年度より、西小学校の呼びかけにより西小学校区連絡会が立ち上がった。幼児から中学生までの子どもたちを取り巻く問題に対して3部会（健康・支援・学習）に分かれ関係者が情報を共有する中で、系統的にそれぞれの部署での方向性を見出していく場となっている。今年度は健康部会へ参加し、大口町の子どもたちの健康課題として生活リズムの確立が取り上げられた。子どもの健康を考える連絡会などの経過も踏まえ、今後も話し合いを重ねながらよりよい体制ができるよう取り組んでいきたい。

母子保健 管理体系



2 母子健康手帳の交付・妊婦相談

(1) 目的

妊婦の健康を守り健全な児を生ま育てることができるよう保健指導する。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

第1・3月曜日 午前10時～ ・ 随時（希望により）

(4) 内容

ア 母子健康手帳の交付及び活用方法の説明

イ 保健センターの行事内容説明と案内

(5) 妊娠届出状況

ア 届出時の妊娠週数

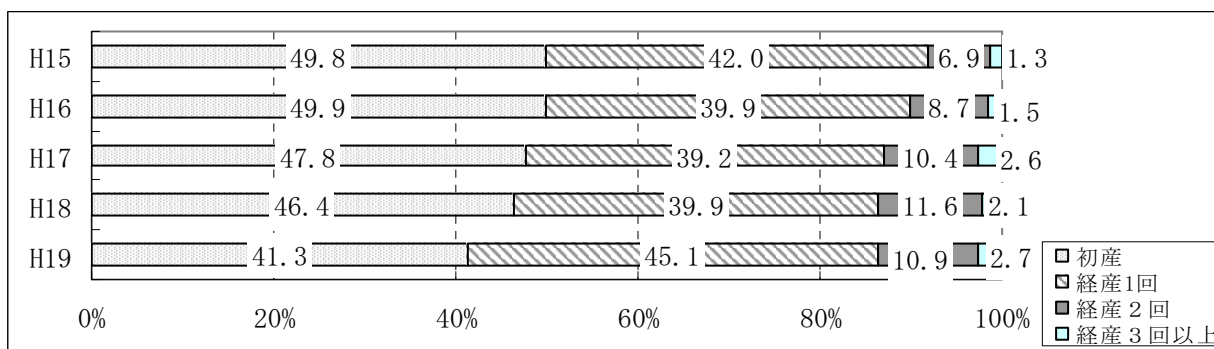
（単位：上段・人 下段・％）

区分 年度	総数	妊 娠 週 数					就業	喫煙	飲酒	年齢	
		11週以内	12～21週	2～27週	28週以降	不詳				20歳未満	40歳以上
15	233 (100.0)	72 (30.9)	157 (67.4)	3 (1.3)	1 (0.4)	0 (0.0)	85 (36.5)	5 (2.1)		5 (2.1)	5 (2.1)
16	263 (100.0)	79 (30.0)	177 (67.3)	3 (1.2)	4 (1.5)	0 (0.0)	97 (36.9)	9 (3.4)		2 (0.8)	1 (0.4)
17	268 (100.0)	98 (36.6)	166 (62.0)	2 (0.7)	2 (0.7)	0 (0.0)	100 (37.3)	9 (3.4)		2 (0.7)	6 (2.2)

区分 年度	総数	妊 娠 週 数					就業	喫煙	飲酒	年齢	
		11週以内	2～19週	20～27週	28週以降	不詳				20歳未満	40歳以上
18	233 (100.0)	81 (34.8)	148 (63.5)	4 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	95 (40.8)	8 (3.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.4)
19	257 (100.0)	100 (38.9)	152 (59.1)	3 (1.2)	2 (0.8)	0 (0.0)	93 (36.2)	4 (1.6)	5 (1.9)	4 (1.6)	3 (1.2)

※母子手帳発行時のアンケートにおいて「喫煙していたがやめた」と答えた妊婦は28名、「飲酒していたがやめた」と答えた妊婦は43名いた。

イ 年次別経産・初産の割合



3 妊婦・乳児健康診査

(1) 目的

妊婦・乳児に対し異常を早期に発見し適切に対処することで妊娠の正常な経過や安全な分娩、乳児の個々にあった発達を支援する。

(2) 対象

妊婦および乳児（平成19年4月～平成20年3月受診者）

(3) 内容

母子健康手帳発行時に、妊婦健康診査受診票7枚*（第1～7回）、乳児健康診査受診票2枚（第1回・第2回）を発行し、医療機関委託で実施している。

※平成19年4月より2回から4回へ、10月より4回から7回へ増やした。

(4) 結果

ア 妊婦健康診査受診結果

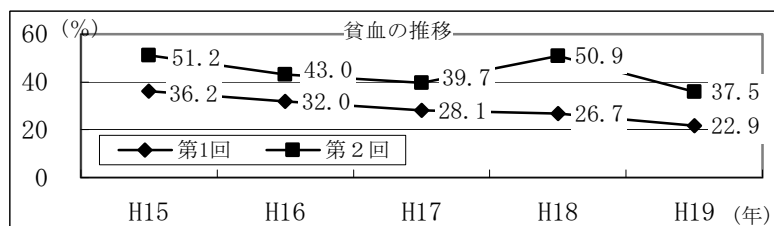
（単位：人・％）

	受診票 交付数 ※1	受診 人員	受診率	受 診 結 果					
				異常なし	所見あり（延件数）				
					高血圧 蛋白尿	尿糖	貧血	HBs抗原 陽性	その他
第1回	271 (13)	253(12)	93.4	188	4	2	58	1	0
第2回	277 (15)	256(14)	92.4	154	2	2	96		2
第3回	288(18)	310(17)	107.6	210	9	1	93		0
第4回	293(22)	264(18)	90.1	175	3	1	86		1
第5回	263(12)	140(10)	53.2	100	2	1	37		0
第6回	264(13)	119(11)	45.1	83	2	1	32		1
第7回	266(15)	93(10)	35.0	71	1	1	20		0
計	1,922(108)	1,435(92)	74.7	981	23	9	422	1	4

※1 平成19年4月～平成20年3月の交付数（ ）内は県外受診の再掲

所見あり基準

高血圧：140/90mmHg
 貧血：11.0g/dl未滿
 尿蛋白：++以上
 尿糖：++以上



イ 乳児健康診査受診結果

（単位：人・％）

	受診票 交付数	受診人員	受診率	受診結果	
				異常なし	所見あり (延件数)
第1回	277(24)	226(17)	81.6	219	7*①
第2回	302(2)	204(0)	67.5	202	2*②
計	579(26)	430(17)	74.3	421	9

（ ）内は県外受診者の再掲

*①体重増加不良2、ダウン症候群1、脳腫1、口蓋垂短縮1、黄疸1、臍ヘルニア1

*②口蓋裂1、体重増加不良1

4 パパママ教室・プレママ交流会

(1) 目的

- ア 子どもを生み育てることを夫婦のこととしてとらえ、妊娠期から夫婦が互いに尊重しあい、コミュニケーションを図りながら親となる心構えを育む。
- イ 妊娠中から母親同士が交流する機会を持ち、地域での子育てが安心できる基盤をつくる。
- ウ 母親として現状の食生活を振り返り、今後の食生活にいかすきっかけとなるようにする。

(2) 対象

妊婦及びその夫

(3) 日時

パパママ教室 : 6・10・2月第4土曜日 午前9時30分～12時00分

プレママ交流会 : 4・8・12月第4金曜日 午後1時30分～3時30分

プレママ交流会(栄養編) : 奇数月第4金曜日 午前9時30分～11時45分

(4) 内容及び従事者

	内 容	従事者	実施回数
パパママ教室	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師からのメッセージ ・タッチリラックス法 ・実習 赤ちゃんのお風呂 ・妊婦疑似体験(妊婦シミュレーター使用) ・赤ちゃん人形を使って抱き方の練習 ・先輩ママと生後1～3か月児との交流会 ・ビデオ『お父さんへ～赤ちゃんからのメッセージ～』 	助産師 保健師	3回
プレママ交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・妊娠経過と出産準備&赤ちゃんを迎える準備 ・赤ちゃん人形を使って抱き方の練習 ・先輩ママと赤ちゃんとの交流会 ・座談会 	保健師	3回
プレママ交流会(栄養編)	<ul style="list-style-type: none"> ・見直してみよう自分の食生活 ・簡単料理のポイント ・妊娠中の栄養 ・調理実習 ・会食「わいわいランチ」及び交流会 	管理栄養士 在宅栄養士 保健師	6回

(5) パパママ教室・プレママ交流会参加状況

(単位:人・%)

年度	対象者	パパママ教室			プレママ交流会			プレママ交流会(栄養編)		
		妊婦参加数	妊婦参加率	父親参加数	妊婦参加数	妊婦参加率	父親参加数	妊婦参加数	妊婦参加率	父親参加数
17	268 (128)	28 (28)	10.4 (21.9)	16						
18	233 (108)	48 (39)	20.6 (36.1)	31						
19	257 (106)	40 (32)	15.6 (30.2)	36	30 (24)	11.7 (22.6)	1	36 (21)	14.0 (19.8)	0

※参加数の()内は初産婦を再掲

(6) パパママ教室

ア 父親の参加動機の内訳

すすんで参加した	21人 (58.3%)
あまりその気はなかったが、ママに誘われ参加した	13人 (36.1%)
ママに誘われたので仕方なく参加した	1人 (2.8%)
未記入	1人 (2.8%)

イ 参加者の感想

〈母の感想〉

- ・夫婦2人の協力がとても大切だと思った。自分1人でがんばりすぎない。
- ・赤ちゃんののにおいに癒された。
- ・普段から協力的な主人がさらにパワーアップした様子。
- ・赤ちゃんが抱けたり、先輩ママの妊娠中からの話が聞けて参考になった。
- ・マニュアル通りでなくても、子どもにあわせて一緒に楽しんで子育てしたいと思った。

〈父の感想〉

- ・赤ちゃん中心に生活することに共感した。
- ・早く自分の子を抱きしめたいと思った。
- ・産まれる前も後も赤ちゃんとのふれあいを大切にしたい。
- ・大変そうだけど毎日お風呂に入りたい。
- ・おやじもいろいろしないといけないとわかった。
- ・赤ちゃんの表情の多さに驚きました。
- ・妊婦体験をして、想像以上に重かった。
- ・手伝いや子どもへの考え方を変えないといけないと思った。

(7) プレママ交流会

ア 事後アンケート結果

生まれてくるお子さんとの生活をイメージできましたか

(できた 22人 ・ どちらでもない 7人 ・ できなかった 0人)

ご自身がどのような親になりたいかイメージできましたか

(できた 17人 ・ どちらでもない 12人 ・ できなかった 0人)

イ 参加者の感想

- ・ママ友がいなかったけど、できそうでよかった。
- ・楽しく気分転換になった。
- ・分娩について聞くことができ、参考になった。
- ・赤ちゃんに触れることで、自分の赤ちゃんもこんな感じなのかなとすごく楽しみになった。早く赤ちゃんに会いたい。
- ・今まで不安のほうが大きかったのですが、今回参加して楽しみも増えました。
- ・本も勉強になるけれど、生の声がやっぱり一番よいと思った。
- ・先輩ママには、体験したことを率直に話してもらえて疑問が解決できた。
- ・病院などでも母親教室はやっていると思うけど、住んでいる所が近くだったりすると、親近感が湧いてよい。

ウ まとめ

今年度より、保健センターで伝えたい内容に絞り、夫婦で赤ちゃんを迎えるという心構えと家族で子育てをしていくという意識を持ってもらえるよう実施した。また、妊娠期からの子育て支援として、地域での子育てが安心してできるよう妊婦同士が交流する時間を重視した。1回の平均参加者数10名と交流を行なう上でちょうど良い参加者数であり、参加した方は気分転換になった、よい交流ができたなどの感想が聞かれた。

(8) プレママ交流会（栄養編）

ア 食生活チェックの結果

食事バランスガイドに基づき行った結果、食事のバランスが偏っている人が参加者の83.3%であった。1食のうち野菜の摂取量が少ない人は63.3%、主菜（肉・魚・卵・大豆料理）の不足または全く摂取していない人が53.3%であった。また主食（ご飯・パンなど）を食べていない人は13.3%であった。

イ 参加者の感想

- ・妊娠前にあまり朝食を摂ってなく、クセで少ししか食べていなかったのが明日からはしっかり食べようと思った。
- ・野菜の摂取が少ないと感じた。バランスよくとる事が大切だと思った。
- ・1食の適量・塩分量などがわかってよかった。毎日の食事にいかしたい。
- ・体験者の話が聞けると安心できる。情報が多すぎて迷っている部分があったのですごく役に立った。
- ・上の子がいてなかなか食生活を見直せなかったので良い機会になった。
- ・日頃から食塩を摂りすぎていることがわかった。うす味にしようと思う。

ウ まとめ

今年度から『教室』から『交流会』に形に変え、妊婦同士が日々の食生活や体に関する不安を語り合いながら、自分の食生活チェックをし、みんなでバランスのよいランチを作って、実際食べて味わう機会とした。また、妊娠期だけでなく出産・育児を見通した上での食事や栄養を考えてもらうことができた。

今年度より妊婦健康診査の結果が貧血だった人へプレママ交流会の勧奨通知を送付し、貧血予防のため不足している栄養素、過剰に摂っている食品について知識を持ってもらえるようにした。

今後は、より多くの妊婦に妊娠期の食生活の大切さについて考えてもらえる機会を検討していきたい。



5 フレッシュママの会

(1) 目的

出産をして間もない時期は、外出する機会も少なく、母親が1人で育児の悩みを抱えやすい。同じ立場の母親たちと集うことにより、母親同士が共感し前向きに育児に取り組めるよう支援する。

(2) 対象

生後1～3か月頃の乳児と母親

(3) 日時

偶数月第4金曜日 午後2時～3時30分（パパママ教室と一部同時開催）

(4) 内容及び従事者

内 容	従事者
<ul style="list-style-type: none"> ・座談会 ・予防接種の説明 ・赤ちゃんの計測（希望者） ・ベビーマッサージ ・妊婦さんとの交流 	保健師 助産師



(5) 参加状況

年度	実施回数	参加者数（初産）
17	6	68組（55組）
18	6	71組（52組）
19	6	80組（58組）

6 低体重児の状況

（単位：人・％）

分類 年度	出生 児数	低体重児 出生数	率	1,300g 未満	1,300～ 1,499g	1,500～ 1,799g	1,800～ 1,999g	2,000～ 2,299g	2,300～ 2,499g
15	253	28	11.1	1	1	0	6	6	14
16	250	22	8.8	3	0	0	0	4	15
17	229	29	12.7	1	2	0	1	9	16
18	253	21	8.3	1	0	0	3	5	12
19	254	20	7.9	2	0	0	0	4	14
愛知県 (H18)	69,999	6,805	9.7	329	162	382	509	1,927	3,496

※2,000g以上の低体重児は町の保健師が訪問している。

7 乳幼児健康診査

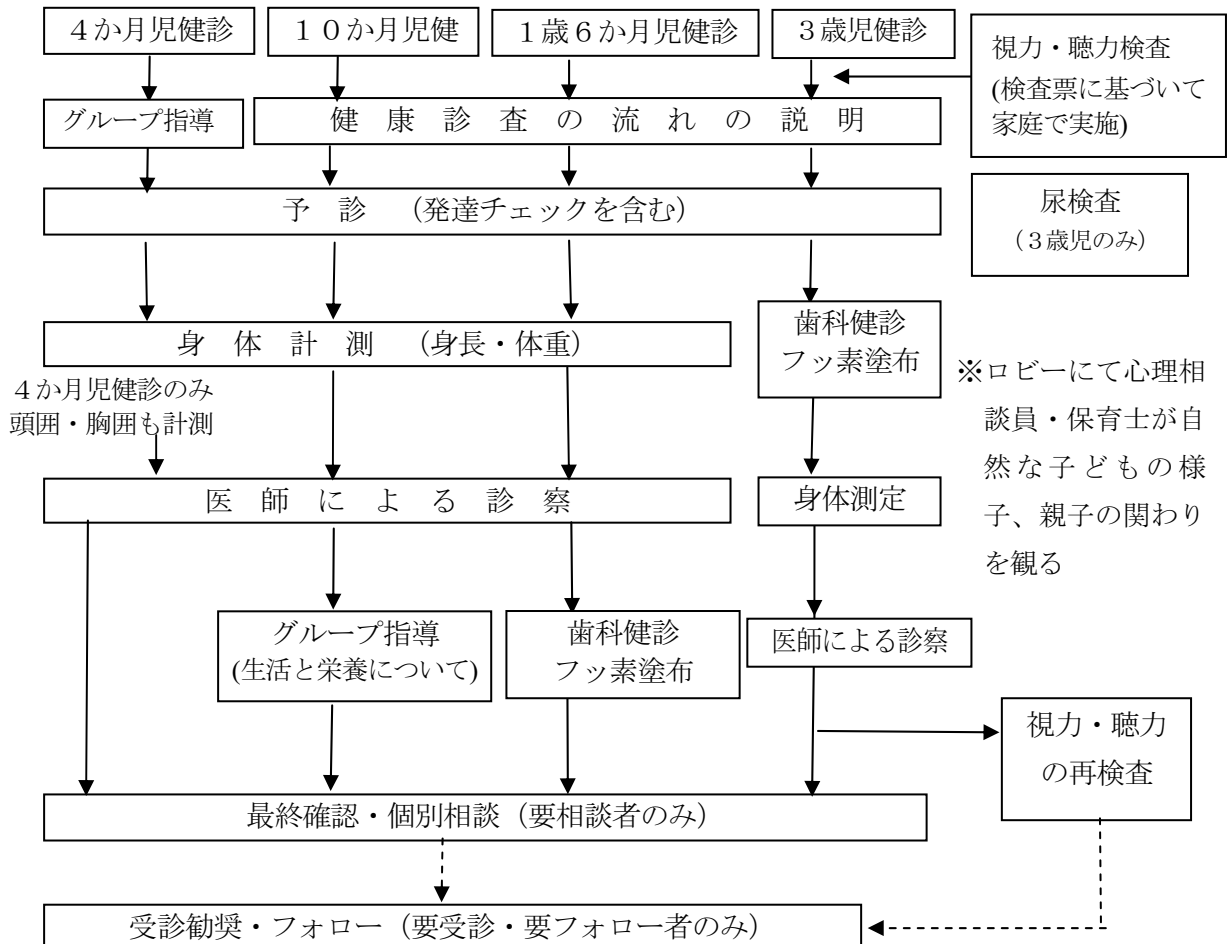
(1) 目的

乳幼児期の大切な節目である時期に、発育発達状況を確認することで、疾病や心身障害の早期発見に努める。また、個々の成長、育児に合わせた保健指導を行い、子育てを支援する。

(2) 対象・日時・従事者等

事業名	対象児	実施日	従事者	個人通知
4か月児健康診査	4か月児	毎月第4水曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・歯科衛生士 事務	有
10か月児健康診査	10か月児	毎月第2火曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・歯科衛生士 事務	有
1歳6か月児健康診査	1歳6か月児	毎月第3火曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・看護師・管理栄養士 心理相談員・保育士・事務	有
3歳児健康診査	3歳児	毎月第1水曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・管理栄養士 看護師・保育士・心理相談員 事務	有

(3) 内容



(4) 実施状況

ア 4か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
15	12	249	245	98.4	174	45	24	18			
16	12	245	238	97.1	177	31	22	11	3	3	0
17	12	230	227	98.7	155	13	40	11	8	11	0
18	12	254	246	96.9	186	9	43	15	4	0	0
19	12	254	253	99.6	192	6	35	18	8	6	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
運動・感覚器発達異常	13	7	6	1	12	0	0	0
聴覚障害(疑)	10	7	3	7	3	0	0	0
体重増加不良	9	6	3	0	8	0	0	1

◆保育・家庭環境分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	6	1	5	3	3	0
環境	3	1	2	1	2	0
哺乳	3	0	3	3	0	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成18年7月～平成19年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	58	43	15	7	10	33	12	3
聴力障害(疑)	14	14	0	0	0	14	0	0
運動・感覚器発達異常	10	10	0	0	0	8	2	0
体重増加不良	10	10	0	0	0	4	4	2
開排泄制限	6	0	6	5	2	2	2	0
その他の疾患	18	9	9	2	8	5	4	1

◆保育・家庭環境分類(降順) ※平成18年7月～平成19年6月受診者

(単位：人)

保育環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	2	2	0	0	0	2	0
育児能力	1	1	0	0	0	1	0
食事・おやつ	1	1	0	0	0	1	0

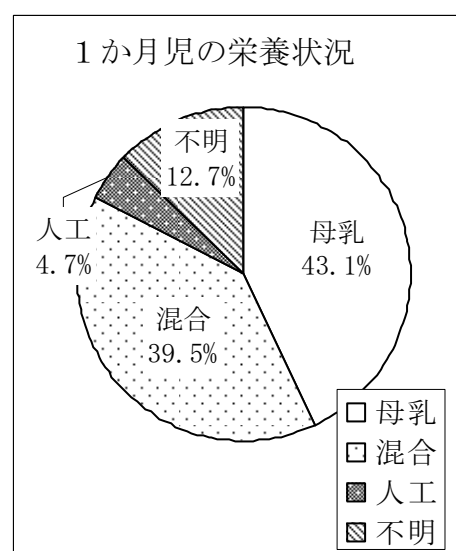
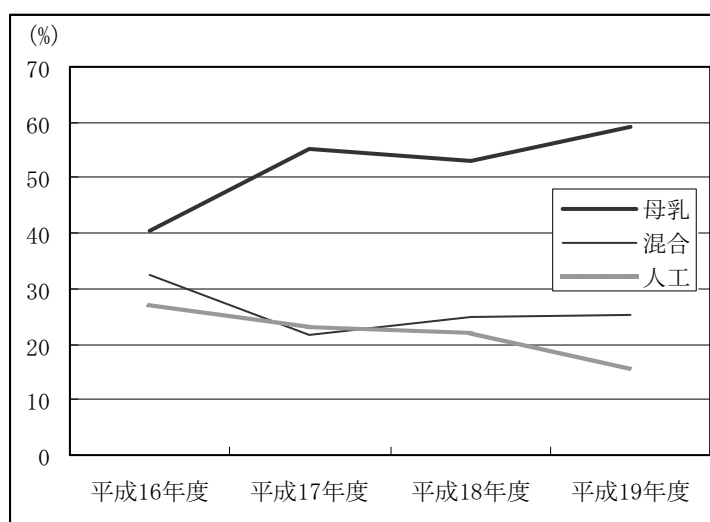
(エ) 4か月児の栄養状況

(単位：上段・人 下段・%)

年度・出生		栄養方法	合計	母乳	混合	人工
16 年 度	第1子		130 (100.0)	48 (36.9)	49 (37.7)	33 (25.4)
	第2子以降		107 (100.0)	48 (44.9)	28 (26.2)	31 (28.9)
	合計		237 (100.0)	96 (40.5)	77 (32.5)	64 (27.0)
17 年 度	第1子		107 (100.0)	60 (56.1)	30 (28.0)	17 (15.9)
	第2子以降		109 (100.0)	59 (54.1)	17 (15.6)	33 (30.3)
	合計		216 (100.0)	119 (55.1)	47 (21.8)	50 (23.1)
18 年 度	第1子		124 (100.0)	63 (50.8)	30 (24.2)	31 (25.0)
	第2子以降		122 (100.0)	68 (55.7)	31 (25.4)	23 (18.9)
	合計		246 (100.0)	131 (53.2)	61 (24.8)	54 (22.0)
19 年 度	第1子		124 (100.0)	75 (60.5)	31 (25.0)	18 (14.5)
	第2子以降		129 (100.0)	75 (58.1)	33 (25.6)	21 (16.3)
	合計		253 (100.0)	150 (59.3)	64 (25.3)	39 (15.4)

※対象者は、4月から翌年3月までの4か月児健康診査受診者

(オ) 栄養方法の年次推移



イ 10か月児健康診査

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
15	13	266	233	87.6	178	30	24	8			
16	12	255	223	87.5	161	17	19	11	12	9	0
17	12	232	202	87.1	156	8	11	10	22	7	0
18	12	239	230	96.2	173	5	28	15	16	4	0
19	12	266	264	99.2	205	5	27	16	12	8	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

ウ 1歳6か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
15	13	273	266	97.4	174	51	42	18			
16	12	246	240	97.6	146	28	52	14	6	15	0
17	12	238	231	97.1	123	17	78	15	10	14	0
18	12	212	206	97.2	97	5	90	12	14	13	0
19	12	252	248	98.4	101	12	128	10	12	14	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
精神発達	124	69	55	4	120	0	0	0
泌尿器・腎疾患	5	3	2	0	2	0	0	3
皮膚疾患(その他)	4	2	2	3	1	0	0	0

◆保育・家庭環境分類(上位2項目)

(単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	8	3	5	0	8	0
食事・おやつ	6	2	4	5	1	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成18年7月～平成19年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	111	99	12	3	5	21	76	9
精神発達	92	92	0	0	0	14	71	7
運動・感覚器発達異常	5	4	1	0	0	4	1	0
その他の疾患	14	3	11	3	5	3	4	2

◆保育・家庭環境分類（降順） ※平成18年7月～平成19年6月受診者 (単位：人)

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	14	14	0	0	2	11	1
育児能力	6	6	0	0	0	5	1
情緒・行動	5	5	0	0	2	3	0
その他	3	3	0	0	0	3	0

エ 3歳児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果 (単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
15	12	252	250	99.2	164	29	53	26			
16	12	242	231	95.5	135	16	59	62	6	8	0
17	13	247	238	96.4	141	7	77	44	7	11	0
18	12	244	236	96.7	128	9	106	41	7	7	0
19	13	243	236	97.1	109	12	131	30	9	4	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目) (単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
精神発達	84	61	23	9	72	0	0	3
眼科検査未実施	53	32	21	0	53	0	0	0
視力障害・斜視(疑)	15	9	6	0	0	14	0	1

◆保育・家庭環境分類(上位2項目) (単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	4	2	2	3	1	0
養育姿勢	4	2	2	2	2	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類（降順） ※平成18年7月～平成19年6月受診者 (単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	152	115	37	28	20	37	90	5
精神発達	67	65	2	9	8	6	53	0
眼科検査未実施	42	42	0	4	1	17	23	1
視力障害・斜視(疑)	17	0	17	10	4	5	7	1
聴覚障害(疑)	8	0	8	4	0	3	2	3
その他	18	8	10	1	7	6	5	0

◆保育・家庭環境分類（降順） ※平成18年7月～平成19年6月受診者 (単位：人)

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要借置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	7	7	0	0	1	4	2
育児能力	3	3	0	0	0	2	1
情緒・行動	2	2	0	0	1	1	0
その他	2	2	0	0	0	1	1

※ 全ての健診において受診率は95%以上となっている。その後のフォローについては電話や子育て相談、訪問等にて行っている。また、健診における要観察の内容の内訳は、乳児期では体重増加不良や運動発達が多く、幼児期では精神発達が多かった。

1歳6か月児健診終了後、3歳児健診までには間隔があるため、2歳3か月児歯科健診時も発達の確認の場として捉え、発達の確認ができるよう問診票を利用し、母子手帳返却時に個別相談を行っている。

健診の機会には子どものみではなく、子育てに主に関わっている母親、それをとりまく背景にも目を向け、支援をしていく姿勢で取り組んでいる。

8 子育て相談室

(1) 目的

- ア 親子との交流を通して、不安の軽減や仲間づくりを支援する。
- イ 児の発育・発達を確認する。
- ウ 児の成長発達に合わせた育児を具体的に支援する。
- エ 妊娠中から子どもの姿を見たり、触れたりする機会を持つことで、これからの子育てに向けて心の準備ができる。

(2) 対象

乳幼児とその育児者、妊婦

(3) 日時

第1・第3木曜日 午前9時30分～11時30分（第3木曜日は予約制）

(4) 内容

第1木曜日：身体計測（身長・体重）・個別相談

第3木曜日：身体計測（身長・体重）・個別相談・尿検査・視力検査・聴力検査

(5) 従事者

第1木曜日：保健師・管理栄養士・助産師・歯科衛生士・事務員

第3木曜日：保健師・管理栄養士（必要に応じて歯科衛生士）

奇数月のみ心理相談員

(6) 実施状況

ア 来所者数

(単位:人)

	延人員	実人員	乳児			幼児			要観察の内容 (再掲)		
			延人員	実人員	要観察児 (再掲)	延人員	実人員	要観察児 (再掲)	身体	精神	育児
第1	1,124	293	423	133	15	701	160	54	109	153	16
第3	118	66	52	34	13	66	32	25	39	45	6

*延人員には計測のみの人数を含む。また、要観察児の再掲は実人員

*要観察の内容は延べ件数(重複あり)

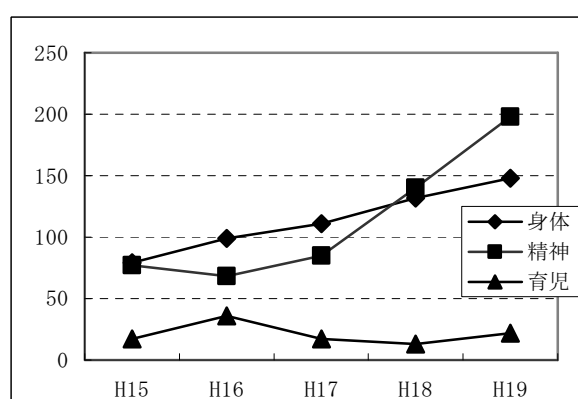
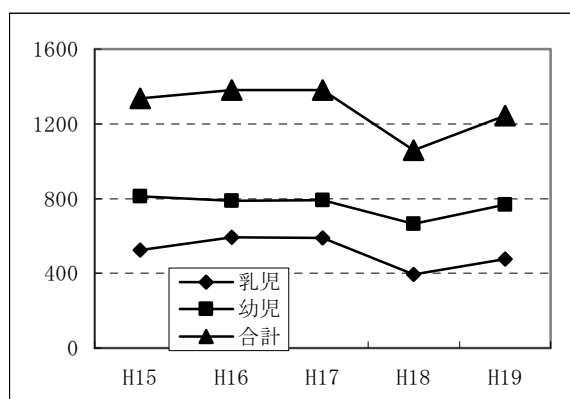
イ 相談内容

(単位:人)

	乳児	幼児	計
身体(発達・発育)	111	95	206
心理相談員再掲	0	17	17
栄養(母乳・離乳食等)	124	55	179
助産師再掲	22	7	29
栄養士再掲	49	22	71
育児・生活	69	107	176
予防接種	9	3	12
その他	8	9	17
計	321	269	590

ウ 相談者の推移(延べ人数)

エ 要観察の相談者の推移(件数)



(7) まとめ

母の育児を認め、個々の発育・発達を確認し、的確な指導が受けられることは、母親にとってひとつの支えとなっている。また、母親同士の交流、子どもの遊び場としての利用もできるため来所者は多い。第1木曜日は、一回当たりの来所者数は平均79.2人から平均93.6人に増加した。また第3木曜日はゆっくりと相談することができ、要観察児の来所者は285件から368件に増加した。今年度より要観察児への相談体制をより充実化させるため、奇数月の第3木曜日に心理相談員による心理相談を実施し、17件の相談があった。健診後の継続フォローの重要な場となっている。

9 家庭訪問

(1) 赤ちゃん訪問

ア 目的

初めての出産・育児で不安や悩みの多い第1子と、第2子以降の希望者に対し、家庭訪問により児と母親の健康状態を確認し、個々に応じた適切な保健指導を行う。

イ 対象

第1子（全戸）及び第2子以降の希望者の母親・家族

ウ 日時

訪問希望届により随時

エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック・育児相談・保健指導

オ 従事者

保健師・在宅助産師

カ 訪問状況

(単位：人)

	訪問件数			内訳		
	保健師	助産師	合計	新生児	低出生体重児	その他
第1子	45	55	100	5	11	84
第2子以降	32	45	77	10	7	60
産婦	76	100	176			
計	77	100	177	15	18	144

* 双胎1件

※新生児・低出生体重児の重複なし

(2) 要観察児等訪問

ア 目的

若年、妊娠中毒症などのハイリスク妊婦、発達・発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある母子等、健診未受診者に対し、家庭にあったきめ細やかな保健指導を行い、安心して育児ができるよう支援する。

イ 対象

ハイリスク妊婦

要観察児と家族、健診未受診者

ウ 日時

随時

エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック

育児相談・保健指導

オ 従事者

保健師

カ 訪問状況

(単位：人)

	実人員	延人員
妊婦	0	0
乳児	2	2
幼児	20	21
計	22	23

10 たんぽぽ教室

(1) 目的

ア 1歳6か月・3歳児健診の事後指導の一環として、親子で集団の場を体験しながら、子どもに合わせた関わりを学び、考えていくことでよりよい発達を促す。

イ 経過観察していく中で必要に応じ、療育や地域の子育て支援、個別支援へと繋ぐ。

(2) 対象

ア 健診時に育児及び発達上問題があると思われる、経過観察が必要な児とその母親

イ その他、育児環境等に問題があると思われる児とその母親

(3) 日時・回数

ア 毎月第2・4木曜日 午前9時15分～正午

午後1時～3時 (スタッフ間でカンファレンス)

イ 回数 3か月(6回) 1クール(必要に応じ2クールまで継続参加も可)

(4) 内容

時 間	内 容
AM9:15～9:45	スタッフ間の事前カンファレンス
9:45～10:25	親子遊び(設定遊び) 手遊び 体操 親子遊びなど
10:25～10:35	トイレ おやつ 排泄、手洗い、あいさつ、後片付けの面で指導
10:35～11:35	母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う) 子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの関わり合い、自由遊び)
11:35～11:45	担当者と母親との話し合い 母子分離している間の児の様子について

※ 随時個別面接(心理判定員、家庭児童相談員) 19年度は26名面接

(5) 従事者

言語聴覚士(月1回)・心理相談員(月1回)・保健師・保育士・一宮児童相談センター(心理判定員(年3回))、家庭児童相談員(年4回)

(6) 実施状況

(単位:人)

項目 年度	実施 回数	対象児数	参加親子組数 (延べ)	平均参加組数
16	12	21(11)	139	11.6
17	12	25(19)	90	7.5
18	24	49(29)	339	14.1
19	24	51(44)	283	11.8

参加者の年齢の内訳

生まれ月	人数
H16.4～H17.3	31
H17.4～H18.3	19
H18.4～H19.3	1

(7) 参加者の状況

(単位:人)

精神発達の問題	精神発達・運動発達両方の問題	診断名がついている児(再掲)
51	0	3

(8) 参加者のその後の状況

(単位:人)

母子通園施設	たんぽぽ広場	就園	転出	継続
9	21	11 (内、未満児2名)	2	8

たんぽぽ教室3回目と6回目終了後に個別相談を行い、母子に応じた関わり方の支援を心がけた。今後も、母子通園施設・たんぽぽ広場等への継続フォローに努めることが必要である。

1 1 離乳食教室

(1) らくらく離乳食教室（離乳食初期・中期）

ア 目的

離乳食の準備期から中期の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。

イ 対象

離乳食準備期から中期の乳児とその保護者

ウ 日時

奇数月 第3水曜日 午前10時～11時30分

エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

オ 内容

- ・離乳食初期～中期頃についての講話
- ・離乳食のデモンストレーションとその試食
- ・個別相談（希望者）

カ 従事者

管理栄養士 保健師

キ 参加状況

(ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

項目 年度	実施回数	参加延べ人数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児
18	6回	99人 (平均16.5人)	45人 (45.5%)	53人 (53.5%)	1人 (1%)
19	6回	88人 (平均14.6人)	26人 (29.5%)	62人 (70.5%)	0人 (0%)

(イ) 参加者出生順位別人数

項目 年度	第1子	第2子
18	82人	17人
19	59人	29人

(ウ) 個別相談実施人数

年度	
18	29人
19	31人

ク まとめ

「授乳・離乳の支援ガイド」（厚生労働省）が19年3月に新しくなったこともあり、昨年度より第2子の参加が多くなった。参加者のほとんどが5・6か月児で、教室を受講後に離乳食を始めようと考えている親の参加が多かった。

デモンストレーションでは、主に旬の野菜を用いて食品の進め方を啓発し好評を得ている。試食では、野菜そのものの味やだし汁の味を味わいながら、親自身の食生活の乱れや塩分の過剰摂取、野菜不足についても気づいてもらうことができた。離乳食を進める上で、個々の口腔等の発達に合わせた進め方の必要性を正しく認識できるよう進めていきたい。

(2) もぐもぐ教室（離乳食後期）

ア 目的

生活を営むうえで基本となる食事も、離乳食の量・回数がともに増え、ますます親の食事が基本となるこの時期に、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。また、咀嚼の促しや歯の萌出に合わせた離乳食の形態について具体的に指導する。

イ 対象

離乳食後期以降の乳児とその保護者

ウ 日時

偶数月 第3水曜日 午前9時30分～11時30分

エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

オ 内容

- ・離乳食後期以降の進め方についての講話
- ・実習（親の食事からの取り分け食）とその試食
- ・個別相談（希望者）

カ 従事者

管理栄養士 保健師

キ 参加状況

(ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

項目 年度	実施回数	参加延人数	9か月未満児	9・10か月児	11か月以上児
18	6回	52人 (平均8.7人)	18人 (34.6%)	33人 (63.5%)	1人 (1.9%)
19	6回	46人 (平均7.7人)	12人 (26.1%)	29人 (63%)	5人 (10.9%)

(イ) 参加者出生順位別人数

項目 年度	第1子	第2子
18	49人	3人
19	34人	12人

(ウ) 個別相談実施人数

年度	
18	27人
19	25人

ク まとめ

参加者からは実習・試食をして普段の食事の味つけや形態が児にあっていなかった等、気づくことができたという声が多かった。

個別相談では、実際に試食する児の様子を観察しながら、咀嚼の促しや離乳食の形態を指導していった。また、摂取する食品の量や種類が多くなっていく頃なので、献立や調理方法などの質問も多かった。多くの親が様々な不安を抱えながら、試行錯誤しながら離乳食を進めていることから、基本的な生活リズムを身につけ、食べる楽しさを体験していくことができるよう、一人一人の発達に合わせた進め方ができるよう支援していきたい。

1 2 子育て支援

(1) 育児サークル支援

平成8年度から、子育て相談室と同時開催で始まった「親子ふれあい広場」に来所しているお母さんの中から、地域で子どもを遊ばせる場がほしいという声があり、子育てネットワークや保健師のアドバイスにより子育てサークルが誕生した。

サークル運営等の相談に応じたり、掲示板で活動の紹介、子育てサークルからの要請により支援を行なっている。

ア 「リトルベアーズ西・南」への支援状況（平成10年より定期的に支援）

	月 日		参加者 (親子)		内 容 (約1時間)	スタッフ	
	北	南	北	南		西	南
1		6月13日		11組	・予防接種について・夏の病気		保健師 2
2	11月21日	11月14日	14組	14組	・冬に流行る病気（インフルエンザ、RSウイルス、ロタウイルス）・風邪の予防	保健師 1	保健師 1

(2) たんぽぽ広場

たんぽぽ教室終了後から就園するまでの間の親子のフォローの場として平成18年10月より月2回実施。平成19年度より西児童センターにて実施した。

スタッフ：保育士（児童センター・各園）、心理相談員、保健師

※保健師は全体の見守りと母親フォローのために月1回参加した。

実施回数	参加者親子組数 (延数)	平均参加組数	内 容
20回	116組	5.8組	9時30分～ ・自由遊び 10時～11時 ・体操・親子ふれあい遊び・名前呼び ・設定遊び・親子で自由遊び・あいさつ

(3) 中学生子育て体験

ア 目的

(ア) 大口町次世代育成支援行動計画の次代の親を育むための教育事業の一環として実施する。

(イ) 子どもたちと触れ合う貴重な体験を通して、自分の成長を振り返り、大切に育ててもらった両親に感謝をし、自分を大切にする気持ちや生命の尊さ、人を思いやる心を養う。

イ 対象

大口中学校 1・2年生 16名（男子生徒2名、女子生徒14名）

ウ 日時

平成19年8月27日（月）午前10時00分～12時00分

エ 内容

- ・講話 乳幼児の発達（発達の経過・月齢に合わせた遊び）
- ・ふれあい体験 「めだか広場」参加児とのふれあい

オ 従事者

保育士 3名、保健師 2名

カ まとめ

中学生の人数が多く、コアラ広場の子どもたちが圧倒されてしまった。また、中学生においても人数が多かったため、見学のみでふれあい体験が少ない生徒もいた。また、学童の子どもたちが部屋をのぞいたりと集中しにくい環境だった。

来年度はコアラ広場のお母さんへの周知の仕方の工夫や、ふれ合いやすい遊びの内容などを検討し、目的の達成に向けて実施したい。

(4) 「ジジババ教室」～地域デビュー孫育てに挑戦～

大口町NPO登録団体まちづくり応援隊太助が主催した、託ジイ養成講座第一弾「ジジババ教室」を依頼され、「地域デビュー孫育てに挑戦」をテーマに実施した。乳幼児健診時において今どきの子育て事情のアンケートをとり、現状を踏まえた上で健康教育を行なった。

ア 日時

平成19年8月8日（水）午前10時00分～12時00分

イ 場所

保健センター 保健指導室

ウ 内容

子育て時代の振り返り（しつけ、食事とおやつ、遊びなど）
乳幼児期の心の発達と親子関係、今どきの子育て事情
グループワーク（今までに孫育てで困ったこと、祖父母の役割について）
第2弾「赤ちゃんと遊ぼう」における注意事項

エ 対象者

7名（まちづくり応援隊 太助 3名、健康クラブ笑顔21 3名、一般 1名）

エ 従事者

保健師 2名

オ まとめ

参加人数は少なかったが、祖父母の役割について皆発言することができ、深めることができた。子育て時代の振り返りでは、男性より、妻に「あなたは何も協力してくれなかった」と今でも言われる。「自分としてはやってきたつもりだが…」などの発言があった。女性からは「毎日におわれていた」「後悔ばかり…」などと振り返っていた。今どきの子育て事情では、離乳食や抱き癖等への考え方の違いに驚いていた。また、事前に行なった今のお母さん方のアンケートの中で祖父母への感謝の声などに驚きと喜びの声が聞かれ、子育てについて改めて考える新鮮な発見の場ともなった。

(5) 保育園との未満児における「食」についての勉強会

大口町次世代行動支援計画推進の一環として、保育園長と保健センターが在園している子どもたちの問題を話し合っていく中で、未満児の問題、殊に発達の段階に合わせた「食」について、離乳食の段階から保健センターで支援している内容等を勉強したいとの要望があり実施した。

ア 目的

離乳食指導を通して、乳児期からの食育についての基本を身につけさせ、また保護者に対しても指導していけるよう、保育士・調理員・栄養士と一緒に離乳食の勉強会をし、乳児期に必要な食に対する考えを共有しながら食育指導に生かしていく。

イ 対象

未満児保育担任保育士・調理員・保育園栄養士

ウ 日時

平成20年1月25日(金) 午後3時～5時30分
(事前打ち合わせ会 11/5・11/19 事後反省会 2/4)

エ 内容

- ・保育園での未満児に対する食育の取り組み
- ・保健センターにおける食育の取り組み
- ・離乳食の進め方・実技
- ・ディスカッション
「食べる」ということ・意見交換



オ 従事者

保健師・管理栄養士

カ まとめ

企画の段階から共有したうえで実施でき、役割分担・時間配分等スムーズに行なえた。保育園と保健センターの情報交換及び交流にもなり、チームで育てていくという言葉に保健センターを身近に感じる事ができたと感想があった。実施前は離乳食の固さや形について知りたいなどの意見が多かったが、実施する中で味付けに関する反応が大きかった。今後も、発展した形で実施できると良い。

(6) 大口西小学校区連絡会

大口町の子どもたちを取り巻く、様々な現状や課題について今年度、西小学校区連絡会が立ち上がり、保育園・幼稚園・小学校・中学校・保健センターが一緒になって検討し合う場となった。課題が多岐にわたっているため、支援部会・学習部会・健康部会の3部会制をとり、健康課は健康部会に出席した。

ア 日時

平成20年2月20日(水) 午後4時00分～5時
3月17日(月) 午後3時30分～4時15分

イ 場所

西小学校 相談室

ウ 内容

- ・子どもたちの健康実態と現在取り組んでいる支援について
- ・今後の連携について
- ・大口町の子どもたちにおける健康課題
(生活習慣の確立・体力の低下・自立 (セルフコントロール))
- ・生活リズムの確立に向けて
- ・体力づくりに向けて

エ 出席者

1 2名 (幼稚園・保育園・小学校・中学校・保健センター担当者)

オ まとめ

18年度まで行なっていた「子どもの健康」に関する連絡会をベースに、今年度は学校からの呼びかけにより会が発足され、内容も部会に分かれての検討であったため、目的が整理されスムーズに運営も進んだと思われる。今後もこうした場を通して、他部署の連携を深めながら保健センターの役割を果たしていきたい。

(7) 要保護児童実務者会議

子どもたちが健やかに成長・発達できるよう児童虐待の予防・早期発見・再発防止、及び関係機関が連携し対策が取れるよう体制を整えることを目的とした会議に出席している (担当はこども課)。

ア 日時

原則毎月第1木曜日 午後1時30分～3時30分

イ 場所

保健センター 会議室

ウ 出席者

こども課2名、学校教育課1名、江南保健所1名、一宮児童相談センター1名
尾張事務所 家庭児童相談員 1名、健康課 1名
※ケースに応じて、地区担当保健師も出席した。

エ まとめ

保健センターでは、検討されたケースについて必要に応じ、乳幼児健診時や電話、訪問等にて支援を行なった。今後も、様々な機会を通じて児童虐待の予防・早期発見・再発防止の観点で支援を行い、関係機関と連携を取りながら継続していく。

1 3 一般不妊治療費助成事業

(1) 目的

子どもを生き育てたいという希望を持ちながら子どもができない夫婦に対し、不妊治療に要する費用の一部を助成することにより、少子化対策の充実を図る。

(2) 事業内容

ア 対象となる治療

性タイミング療法や人工授精等の一般不妊治療（医療保険適用の有無にかかわらず）ただし、体外受精及び顕微授精のほか、夫婦以外の第三者からの卵子又は胚の提供による治療法は対象としない。

イ 実施医療機関

産科、婦人科、産婦人科、泌尿器科、皮膚泌尿器科を標榜する医療機関

ウ 対象者

大口町に住所を有し、不妊症と診断され、一般不妊治療を受けた戸籍上の夫婦

エ 所得制限

夫及び妻の前年（1月から5月までの間に申請する場合は前々年）の所得の合計額が730万円未満

オ 助成額

一般不妊治療に要した自己負担額の1/2相当額とし、1年度あたりの上限額を5万円とする。

カ 助成期間

通算で2年間（月を単位として期間で数え、助成を開始した最初の月から2年間とします）

キ 申請期間

平成19年7月診療分から平成20年2月診療分を平成20年3月10日までに申請

(3) 助成状況

項目 年度	助成実組数	母子手帳発行数
H19	13組	2人

3 成人保健活動

1 成人保健の取り組み

大口町は、平成5年12月に「健康の町」宣言をし、平成16年3月には大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と行政とともに策定し、地区住民の意識の高揚と地区活動を積極的に推進してきている。

健康おおぐち21の大目標に掲げた「健康で 笑顔のおおぐち 今日も元気 明日も元気」に向かって計画推進4年目の19年度は、①介護予防の取り組み ②生活習慣病予防 ③がん予防の3つの活動目標をかかげ、事業を展開してきた。

①介護予防の取り組みでは、現在地域で3地区にて介護予防の場を実施しているが、そのプログラムにもなっている筋力トレーニング（貯筋運動）をより地域に広めていけるよう、「貯筋運動ひろめ隊養成講座」を実施し、その後の地域での展開につながる支援をおこなってきた。

②生活習慣病予防はメタボリックシンドローム対策に重点をおき、ハイリスク者を対象とした集団・個別指導の教室を実施し、生活の改善から血液データ・BMIの改善等が見られた。平成20年度の特定保健指導実施に向け、対象者が参加しやすく効果的な保健指導の方法を検討しながら実施した。また、機会あるごとにメタボリックシンドロームの概念や、健診受診体制の変更点について等、啓発をおこなった。

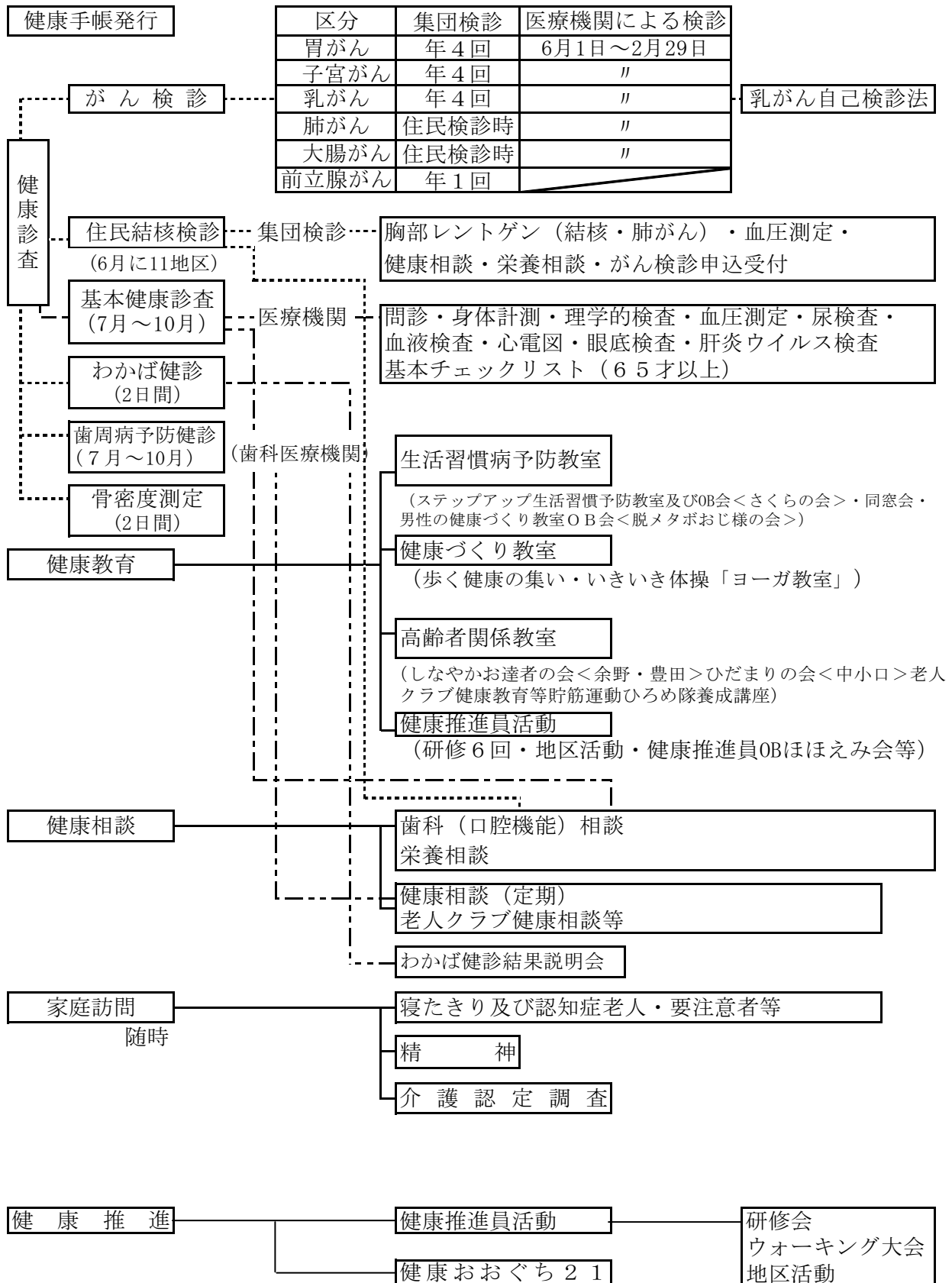
昨年度行った退職男性への働きかけとして教室を実施後、自主グループ化した「脱メタボおじ様の会」の活動支援を行ない、現在は参加者の主体性のもと横のつながりも広がり、活動が展開されている。

③がんについては受診した検診を無駄にしないよう、精検受診率を高めるよう体制整備を行なった。また増加傾向である乳がん対策として、医療機関での機械検診を開始。30～39歳の若い年齢を対象に集団検診にて超音波検査を開始した。昨年度に引き続き、機会を捉えて自己検診法・検診について啓発を行なった。

今後も住民の健康実態を踏まえ、住民の方々と問題点を共有しながら、健康問題のニーズをつかみ、住民の健康に対する意識の高揚やコスト面等も考慮した健康づくりの効果的な行動変容への支援と体制づくりに努めていきたい。



成人保健 管理体系



推進4年目・健康おおぐち21推進イベント等
「健康まつり」

2 健康手帳の交付

(1) 目的

老人保健法に基づいて発行。基本健康診査・がん検診・健康教育時などに健診結果や血圧測定値等の健康状態を記入し、自らの健康への意識の高揚を図る。

(2) 対象

ア 医療受給資格者（75歳以上の高齢者・65～69歳で法第25条該当者）

イ 医療受給資格者以外の者

（70歳以上の国民健康保険加入者、40歳以上74歳までで希望する者）

(3) 日時

ア 毎月 月末の1週間（医療受給資格者） ※役場保険年金課で交付

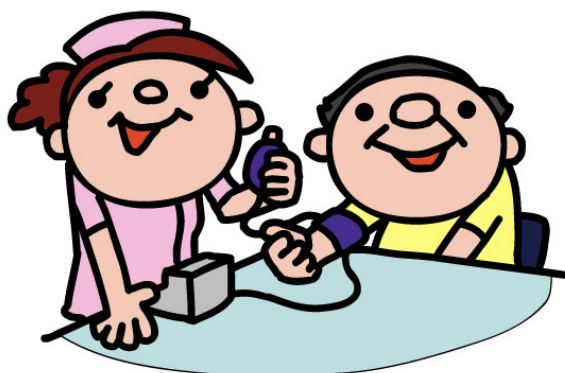
イ 住民検診・がん検診・健康相談等の時

ウ その他随時

(4) 交付状況

（単位：人）

ア	老人保健法第25条第1項の規定により、医療を受けることのできる者	76
	65～69歳の医療受給資格者	13
イ	70歳以上の国民健康保険加入者、40歳以上の74歳までの希望する者	227
ウ	40歳未満の希望者	2
合 計		318



3 基本健康診査

(1) 目的

老人保健法第16条に基づく健康診査として、生活習慣病予防及び介護を要する状態等の予防の一環として実施し、診査の結果、必要な者に対して、栄養や運動等に関する保健指導や健康管理に関する正しい知識の普及を行なうこと、医療機関への受診又は介護予防事業等への参加を勧奨することによって壮年期からの健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。また、C型肝炎等緊急総合対策の一環として、平成14年度から肝炎ウイルス検診を実施し、肝炎による健康障害を回避し症状を軽減し進行を遅延させる。

(2) 対象

町内に在住する40歳以上の者

(3) 場所

大口町・扶桑町の委託医療機関

(4) 実施期間

7月2日～10月31日 各医療機関の診療時間内

(5) 内容

問診 身体計測 理学的検査 血圧測定 尿検査 血液検査 心電図 眼底検査
生活機能に関する項目（65歳以上の者）

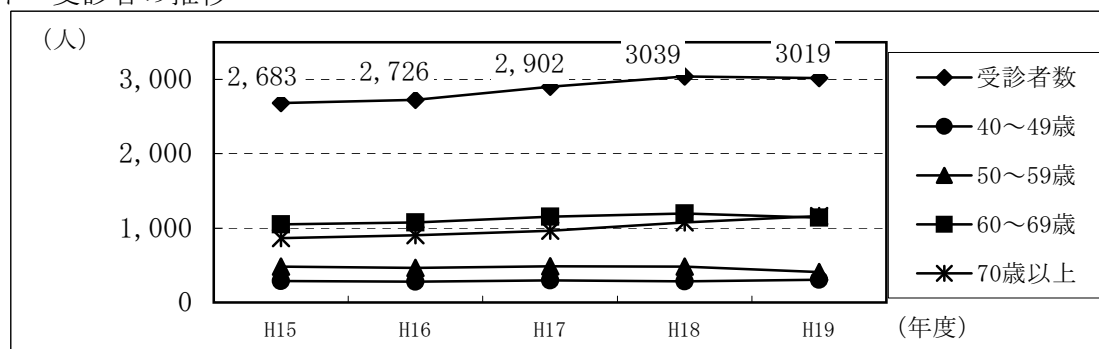
(6) 受診状況

ア 結果一覧表

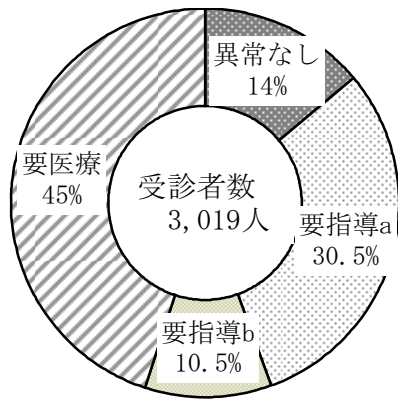
(単位：人)

区分	受診者数	基本健康診査				生活機能の著しい低下を認める者		
		異常認めず	要指導a	要指導b	要医療			
男	40歳～49歳	61	8	16	8	29	/	
	50歳～59歳	72	8	23	12	29		
	60歳～64歳	151	17	41	21	72		
	65歳～69歳	278	39	81	24	134		14
	70歳～74歳	209	22	58	15	114		7
	75歳 以上	257	20	84	32	121		49
	小 計	1,028	114	303	112	499	70	
女	40歳～49歳	244	88	84	13	59	/	
	50歳～59歳	339	62	103	37	137		
	60歳～64歳	326	59	86	43	138		
	65歳～69歳	386	39	120	42	185		29
	70歳～74歳	262	25	90	33	114		35
	75歳 以上	434	36	134	36	228		79
	小 計	1,991	309	617	204	861	143	
合計	40歳～49歳	305	96	100	21	88	/	
	50歳～59歳	411	70	126	49	166		
	60歳～64歳	477	76	127	64	210		
	65歳～69歳	664	78	201	66	319		43
	70歳～74歳	471	47	148	48	228		42
	75歳 以上	691	56	218	68	349		128
	計	3,019	423	920	316	1,360	213	

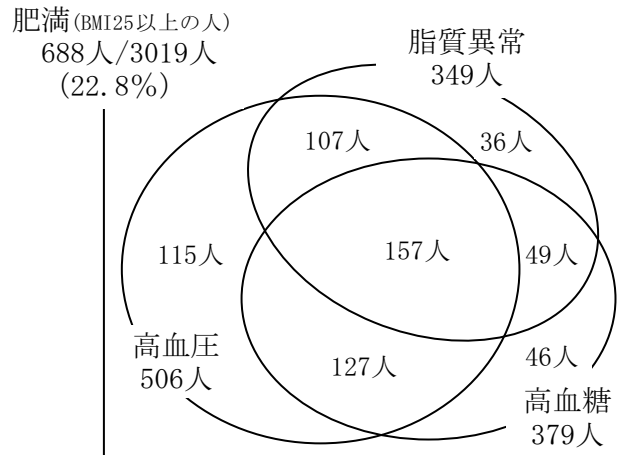
イ 受診者の推移



ウ 判定区分内訳



(メタボリックシンドローム判定基準による対象者数)

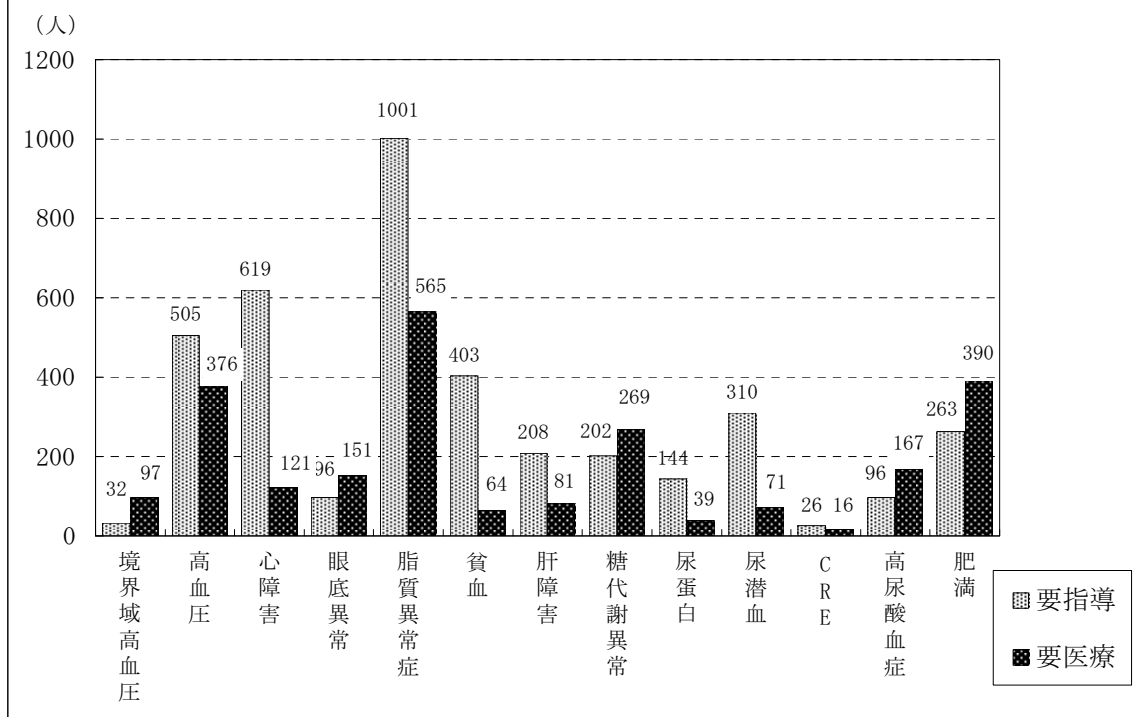


エ 要指導・要医療の疾病分類内訳 (延べ件数)

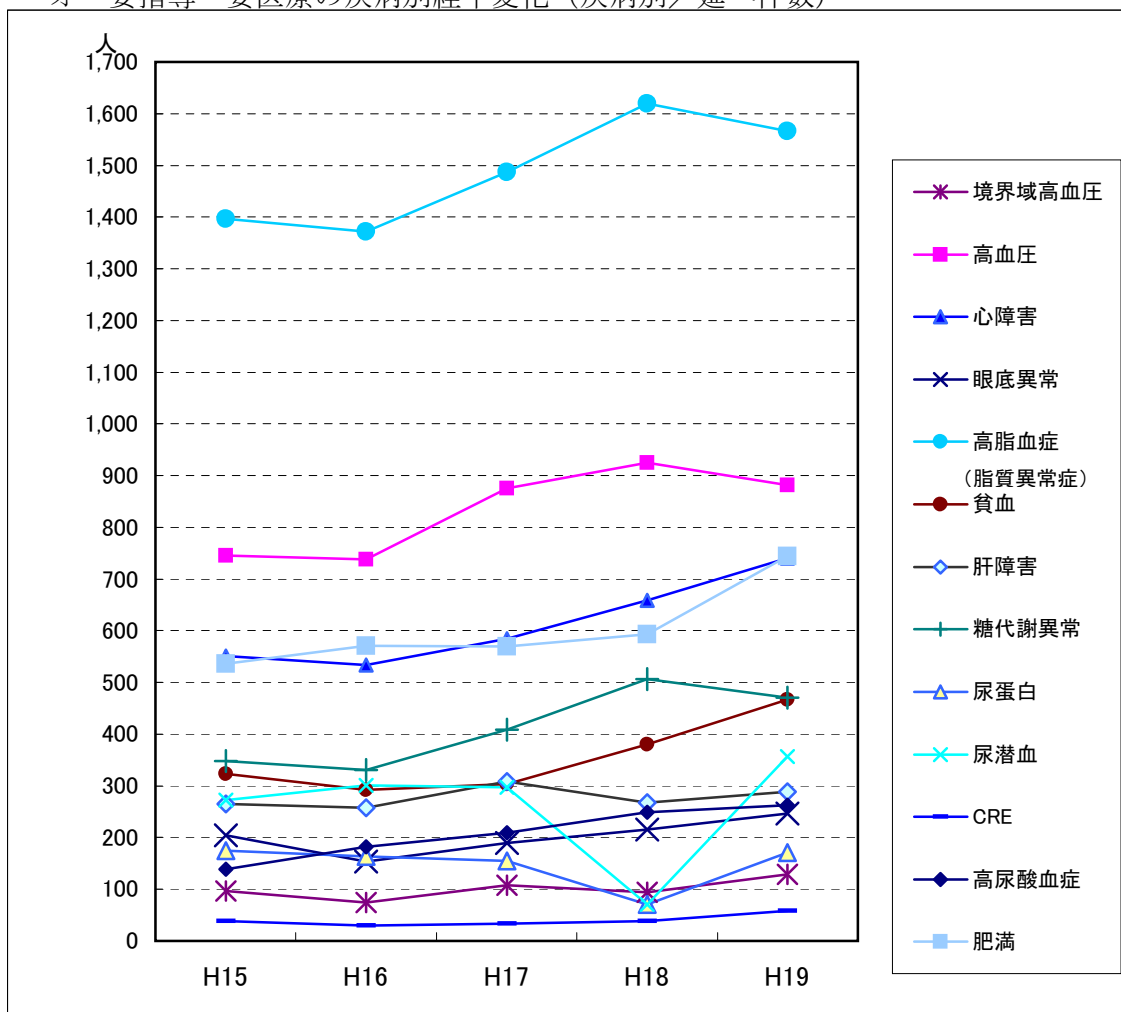
(単位: 人)

年度	区分	境界域 高血圧	高血 圧	心障 害	眼底 異常	高脂血症 (脂質異常症)	貧血	肝障害	糖代 謝異 常	腎 障 害			高尿 酸血 症	肥満	計
										尿蛋 白	尿潜血	CRE			
平成15年度		96	745	551	204	1,397	323	265	348	175	273	39	139	536	5,091
平成16年度		74	738	534	154	1,372	292	257	331	164	301	30	182	571	5,000
平成17年度		108	875	585	190	1,487	303	308	408	155	297	33	209	570	5,528
平成18年度		94	925	659	216	1,619	380	267	507	70	71	38	249	593	5,688
平成19年度		129	881	740	247	1,566	467	289	471	183	381	42	263	653	6,312

平成19年度 疾患別 要指導・要医療判定内訳



オ 要指導・要医療の疾病別経年変化（疾病別／延べ件数）



※ 結果を必ず聞きに行くことを周知徹底した。

※ 2007年4月 動脈硬化学会のガイドライン改訂により「高脂血症」から「脂質異常症」となった。

カ 肝炎ウイルス検診

基本健康診査の対象者で、節目(40歳)の方、広範囲な外科的手術を受けた方、分娩時多量の出血をされた方、基本健康診査でGPT値で要指導とされた方などに対して肝炎ウイルス検査を実施した。

(単位：人)

区分 項目	実施数	B型ウイルス		C型ウイルス	
		陰性	陽性	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染していない可能性が極めて高い	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染している可能性が極めて高い
節目の方	30	30	0	30	0
申請者 その他	18	18	0	18	0
計	48	48	0	48	0

4 各種がん検診

(1) 目的

がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけるとともに、がん予防についての知識の普及啓発を行い、意識の向上を図る。

(2) 実施状況

区分 項目	集 団 検 診	医 療 機 関
実施回数 実施機関 及び 実施場所	< 胃 > 年4回 (検診車) 保健センター < 子宮 > 年4回 (検診車) 保健センター < 乳 > 年5回 (検診車) 保健センター < 大腸 > 住民検診時、検体採取容器を配布 < 肺 > 胸部X線 (住検時) 喀痰 (住民検診時、検体採取容器を配布) < 前立腺 > 年1回 保健センター	平成19年6月1日から、平成20年2月29日までの町内委託医療機関の診療時間内
申込方法	・保健センターへ電話により申込み ・住民検診時に申し込み	各医療機関の窓口にて (乳がんは保健センターにて)
検診料	大腸がん：300円、胃がん：1,000円 肺がん：X線のみ無料、X線+喀痰300円 乳がん検診：700円 (超音波) 1,000円 (MMG) 子宮がん：500円 前立腺がん検診：300円	大腸がん：500円、胃がん：2,000円 肺がん：X線のみ500円 X線+喀痰 1,500円 子宮がん：1,000円 乳がん：1,500円
対象者	町内在住で、勤務先等で検診を受ける機会のない方	

(3) 検診内容

種 類	内 容
胃	胃部X線撮影
子宮	視診・細胞診
乳 (個別)	視診・触診・MMG (X線検査)
(集団)	視診・触診・健康教育 (自己検診法について) MMG (X線検査) *40歳以上 超音波*30~39歳
大腸	便潜血反応試験による2日間採便法
肺	胸部X線撮影・喀痰検査
前立腺 (集団のみ)	血液検査

※がん予防効果を高めるために、要精検者のうち受診結果が返送されない方について受診2か月後に医療機関に受診状況を確認。未受診者の方には、受診勧奨を行なった。

(4) 胃がん検診

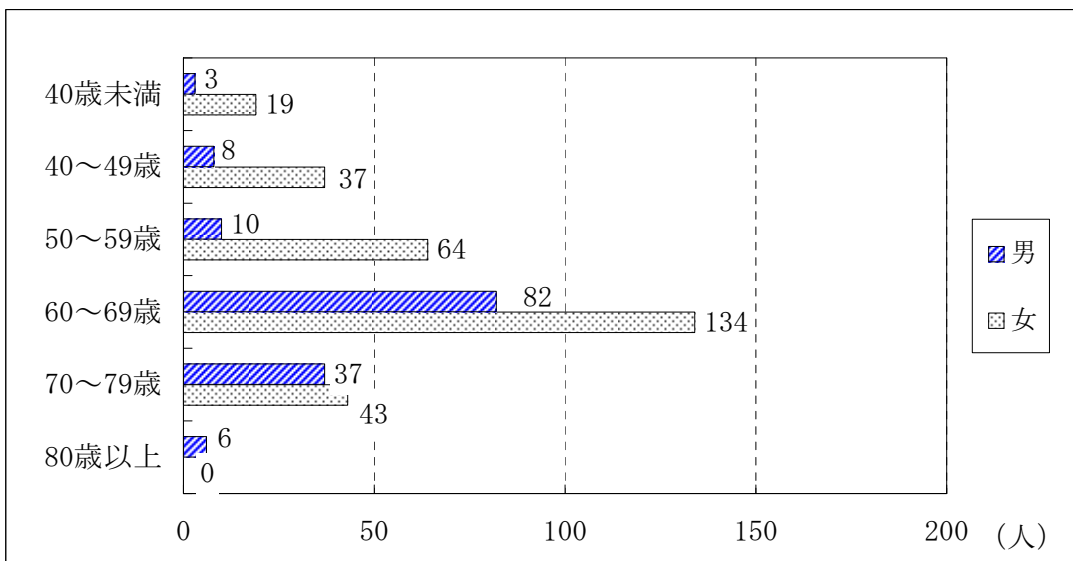
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

	年 度	対 象 者	受診者数			受 診 率	結 果				精検結果 (再掲)			
			集 団	医 療 機 関			異 常 な し	要 観 察	要 精 検	判 定 不 能	異 常 な し	が ん	が ん 以 外 の 疾 患	未 把 握
40歳 以上	15	3,800	582	146	436	15.3	361	40	181	0	33	2	106	40
	16	3,880	522	145	377	13.5	387	47	88	0	22	0	41	25
	17	3,980	440	169	271	11.1	320	54	66	0	19	1	30	16
	18	5,913	424	175	249	7.2	333	23	68	0	15	0	39	14
	19	4,900	421	178	243	8.6	321	35	62	3	7	0	50	5
40歳 未 満	15	—	55	27	28	—	43	2	10	0	5	0	4	1
	16	—	56	35	21	—	48	4	4	0	2	0	1	1
	17	—	36	25	11	—	30	4	2	0	0	0	0	2
	18	—	29	24	5	—	25	1	3	0	0	0	3	0
	19	—	22	17	5	—	17	3	1	1	0	0	1	0
計	15	—	637	173	464	—	404	42	191	0	38	2	110	41
	16	—	578	180	398	—	435	51	92	0	24	0	42	26
	17	—	476	194	282	—	350	58	68	0	19	1	30	18
	18	—	453	199	254	—	358	24	71	0	15	0	42	14
	19	—	443	195	248	—	338	38	63	4	7	0	51	5

※要精検率は14.2%。精検受診率92.1%。精検受診率の向上を目指し、受診勧奨と医療機関へ精検受診状況の確認をおこなった。受診者数増加に向けた働きかけが必要。

イ 年齢別受診状況 (平成19年度)



(5) 子宮がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

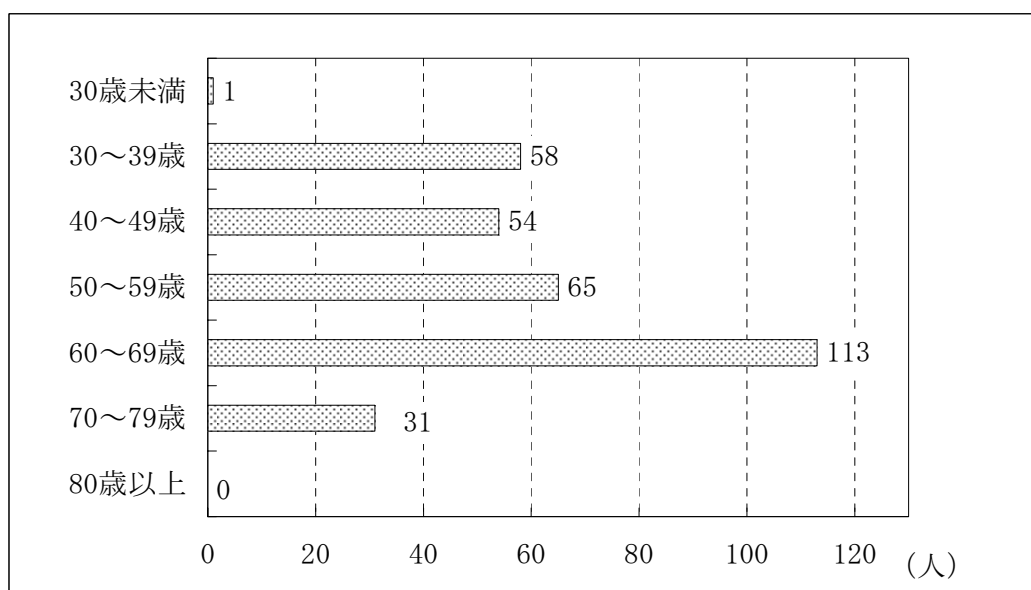
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	その他の疾患	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	15	2,770	379	245	134	13.7	335	42	2	0	0	1	1
	16	2,842	374	253	121	13.2	342	31	1	0	0	1	0
	17	2,870	329	255	74	11.5	288	39	2	1	0	1	0
20歳以上	18	3,669	312	250	62	8.5	261	48	3	0	0	2	1
	19	3,710	322	269	53	8.7	280	40	2	2	0	0	0

30歳未満	15	—	10	8	2	—	8	2	0	0	0	0	0
	16	—	10	8	2	—	9	1	0	0	0	0	0
	17	—	2	2	0	—	2	0	0	0	0	0	0

計	15	—	389	253	136	—	343	44	2	0	0	1	1
	16	—	384	261	123	—	351	32	1	0	0	1	0
	17	—	331	257	74	—	290	39	2	1	0	1	0
	18	—	312	250	62	—	261	48	3	0	0	2	1
	19	—	322	269	53	—	280	40	2	2	0	0	0

※要精検率は0.62%。若い世代から発症率の高いがんのため、受診勧奨の機会を今後も設けていくことが必要。

イ 年齢別受診状況(平成19年度)



(6) 乳がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

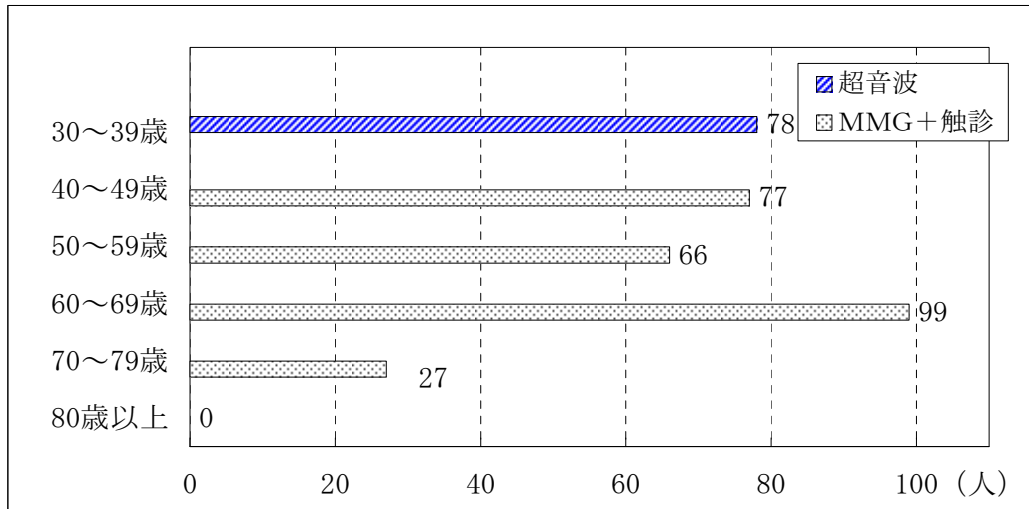
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	要観察	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	15	2,770	410	99	311	14.8	393	7	10	3	0	3	4
	16	2,842	356	80	276	12.5	338	1	17	8	0	7	2
40歳以上	17	2,670	311	197	114	11.6	291	2	18	10	1	5	2
	18	3,080	365	255	110	11.9	339	1	25	14	0	8	3
	19	3,125	269	215	54	8.6	242	1	26	11	4	10	1

30歳未満	15	—	6	0	6	—	6	0	0	0	0	0	0
	16	—	1	0	1	—	1	0	0	0	0	0	0
40歳未満	17	—	19	0	19	—	15	0	4	1	0	2	1
	18	—	10	0	10	—	8	1	1	1	0	0	0
30歳～39歳	19	—	78	78	—	—	71	4	3	2	0	1	0

計	15	—	416	99	317	—	399	7	10	3	0	3	4
	16	—	357	80	277	—	339	1	17	8	0	7	2
	17	—	330	197	133	—	306	2	22	11	1	7	3
	18	—	375	255	120	—	347	2	26	15	0	8	3
	19	—	347	293	54	—	313	5	29	13	4	11	1

※ 40歳以上はMMG+視触診：集団（H17年度～）・医療機関（H19年度～） 30～39歳は集団にて超音波+視触診（H19年度～）40歳以上では要精検率9.7%、精検受診率96.2%。がん発見率1.5% 機械検診の実施で精度の高いがん検診を行うとともに、自己検診法の健康教育に力を入れていきたい。

イ 年齢別受診状況（平成19年度）



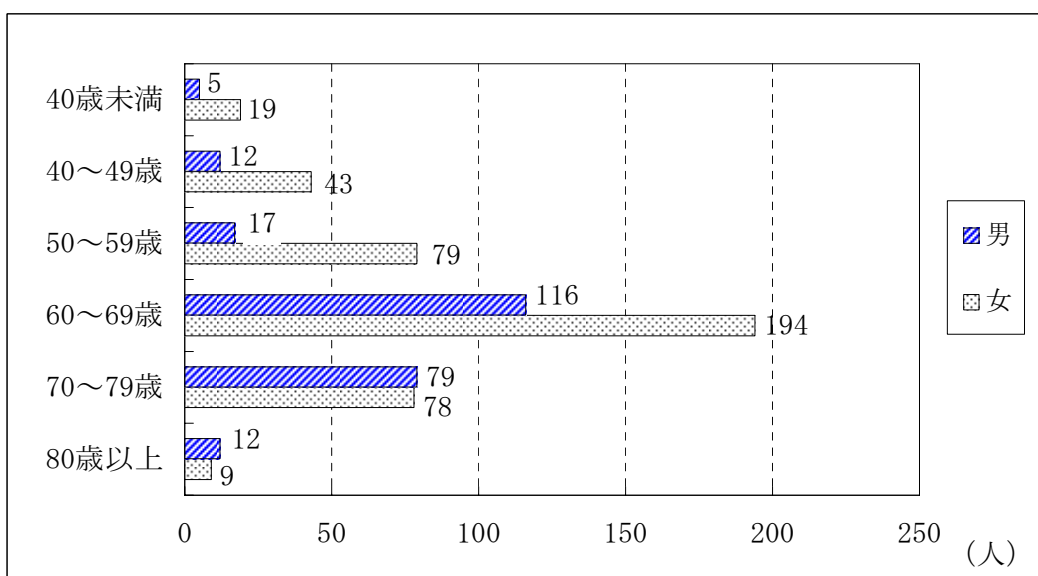
(7) 大腸がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団	医療機関			異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	がん疑い	がん未把握
40歳以上	15	3,800	768	270	498	20.2	728		40	13	0	19	0	8
	16	3,880	734	249	485	18.9	698		36	9	1	14	0	12
	17	3,980	598	280	318	15.0	566		32	10	1	14	0	7
	18	5,913	594	272	322	10.0	555		39	6	2	17	0	14
	19	4,900	639	259	380	13.0	584		55	17	3	31	0	4
40歳未満	15	—	82	48	34	—	80		2	1	0	0	0	1
	16	—	94	69	25	—	89		5	1	0	3	0	1
	17	—	59	39	20	—	51		8	7	0	0	0	1
	18	—	11	2	9	—	10		1	0	0	0	0	1
	19	—	24	9	15	—	23		1	1	0	0	0	0
計	15	—	850	318	532	—	808	0	42	14	0	19	0	9
	16	—	828	318	510	—	787	0	41	10	1	17	0	13
	17	—	657	319	338	—	617		40	17	1	14	0	8
	18	—	605	274	331	—	565		40	6	2	17	0	15
	19	—	663	268	395	—	607		56	18	3	31	0	4

※大腸がんが増加する60歳以上の受診者数はH17年度445人・H18年度464人・H19年度488人と増加。要精検率8.4%、精検受診率92.9%、がん発見率0.45%

イ 年齢別受診状況(平成19年度)



(8) 肺がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

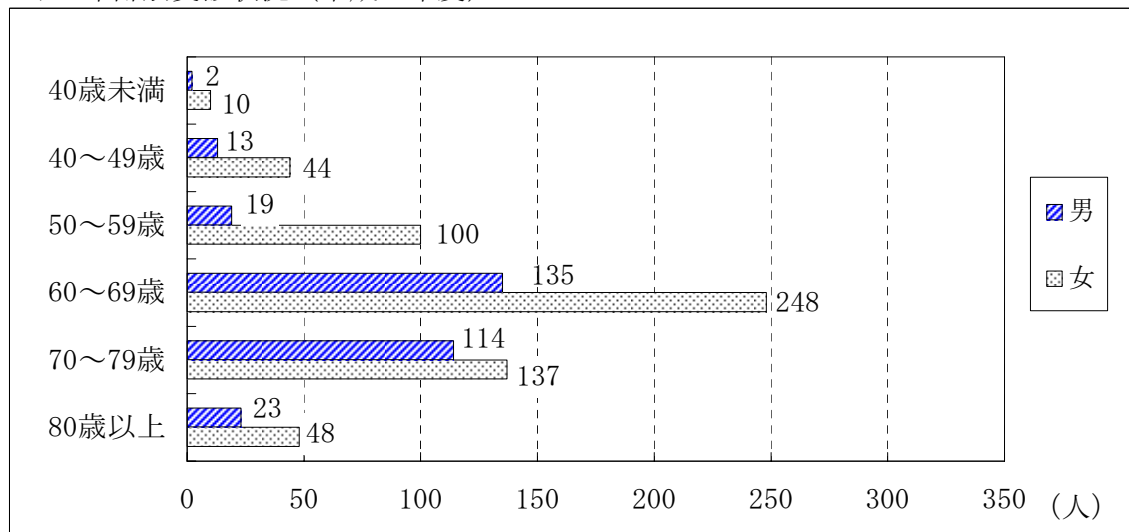
	年度	対象者	受診者数						受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団			医療機関				精検不要	要精検		異常なし	がん	がんの疑いのある者	がん以外の疾患	未受診・未把握
			X線及び喀痰	X線のみ	X線及び喀痰	X線のみ	要精検										
							肺がん以外の疾患	肺がんの疑い									
40歳以上	15	3,800	1,148	35	562	143	408	30.2	1,079	50	19	13	0	0	16	40	
	16	3,880	1,046	19	515	107	405	27.0	989	32	25	21	2	2	22	10	
	17	3,980	917	37	531	61	288	23.0	866	34	17	20	0	2	15	14	
	18	5,913	926	28	546	43	309	15.7	900	16	10	10	0	0	3	13	
	19	4,900	881	16	492	45	328	18.0	853	14	14	9	0	0	3	2	

40歳未満	15	—	107	7	83	8	9	—	106	1	0	0	0	0	0	1
	16	—	111	3	82	7	19	—	111	0	0	0	0	0	0	0
	17	—	83	6	67	2	8	—	82	0	1	1	0	0	0	0
	18	—	5	0	0	0	5	—	5	0	0	0	0	0	0	0
	19	—	12	0	0	1	11	—	12	0	0	0	0	0	0	0

計	15	—	1,255	42	645	151	417	—	1,185	51	19	13	0	0	16	41
	16	—	1,157	22	597	114	424	—	1,100	32	25	21	2	2	22	10
	17	—	1,000	43	598	63	296	—	948	34	18	21	0	2	15	14
	18	—	931	28	546	43	314	—	905	16	10	10	0	0	3	13
	19	—	893	16	492	46	339	—	865	14	14	9	0	0	3	2

*住民結核検診の対象者が40歳以上。男性の受診者数は女性に比べ少ない。肺がんの疑いの要精検率1.6%、精検受診率85.7%。

イ 年齢別受診状況(平成19年度)



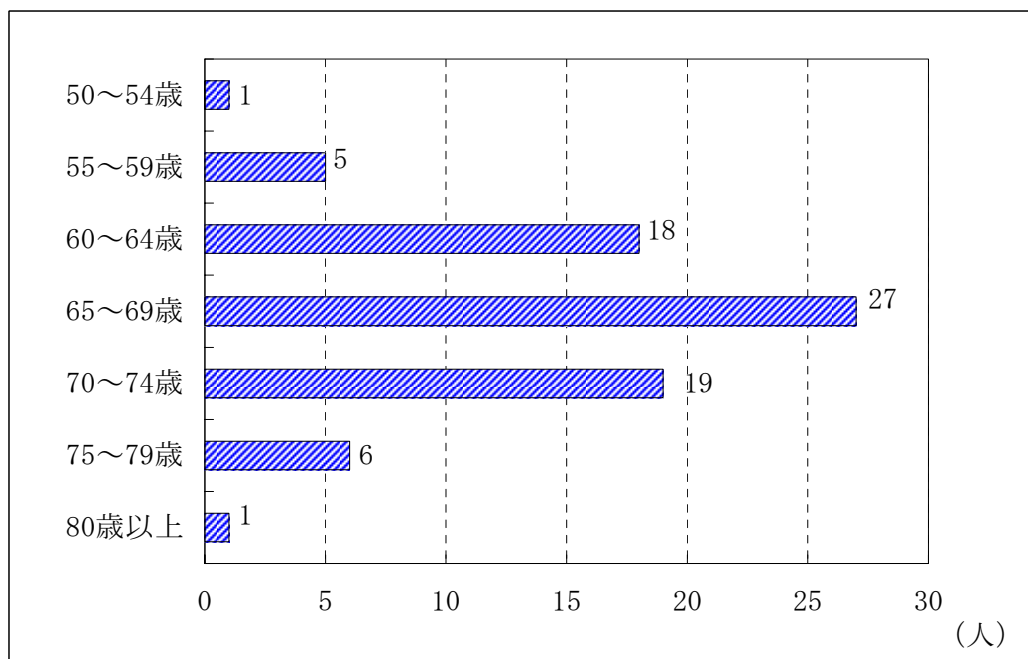
(9) 前立腺がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

年 度	対 象 者	受 診 者 (集 団)	受 診 率	結 果			精 検 結 果 (再 掲)					
				異 常 な し	要 再 検	要 精 検	異 常 な し	が ん	が ん の 疑 い	前 立 腺 肥 大	そ の 他	未 把 握
17	1,567	68	4.3	62	0	6	2	1	0	3	0	0
18	1,597	79	4.9	72	0	7	3	3	0	1	0	0
19	1,695	77	4.5	73	0	4	3	1	0	0	0	0

要精検率5.2%

イ 年齢別受診状況 (平成19年度)



5 わかば健康診査

(1) 目的

20・30歳代の若い年代で健診を受ける機会のない方を対象とし、生活習慣病の早期発見および、生活習慣の改善に向けた指導を行い、予防意識の向上をはかる。健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

(2) 対象

町内在住の20歳代・30歳代の住民で、健診を受ける機会のない方。

(3) 日時

平成19年9月12日(水) 午後1時～午後3時

平成19年10月10日(水) 午後1時～午後3時

(4) 場所

保健センター2階

(5) 健診方法及び内容

健康教育(生活習慣病について、食習慣の改善と適量について)

身長・体重・腹囲測定、血圧測定、尿検査、血液検査

(6) 従事者

保健師 管理栄養士 事務員 委託機関

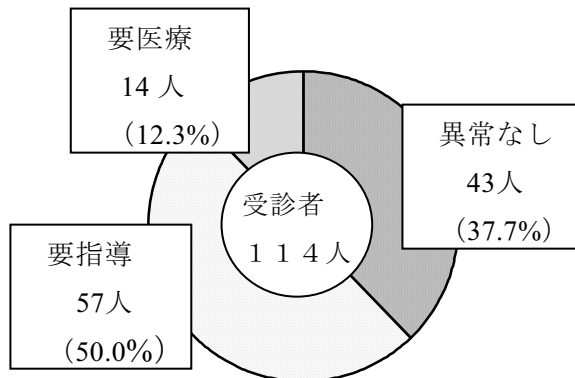
(7) 実施結果

ア 年齢別受診者数 (定員150人)

(単位:人)

	男			女			合計
	20歳代	30歳代	小計	20歳代	30歳代	小計	
H15	3	9	12	27	100	127	139
H16	1	4	5	21	108	129	134
H17	2	4	6	25	90	115	121
H18	4	4	8	11	85	96	104
H19	3	7	10	17	87	104	114

イ 受診結果

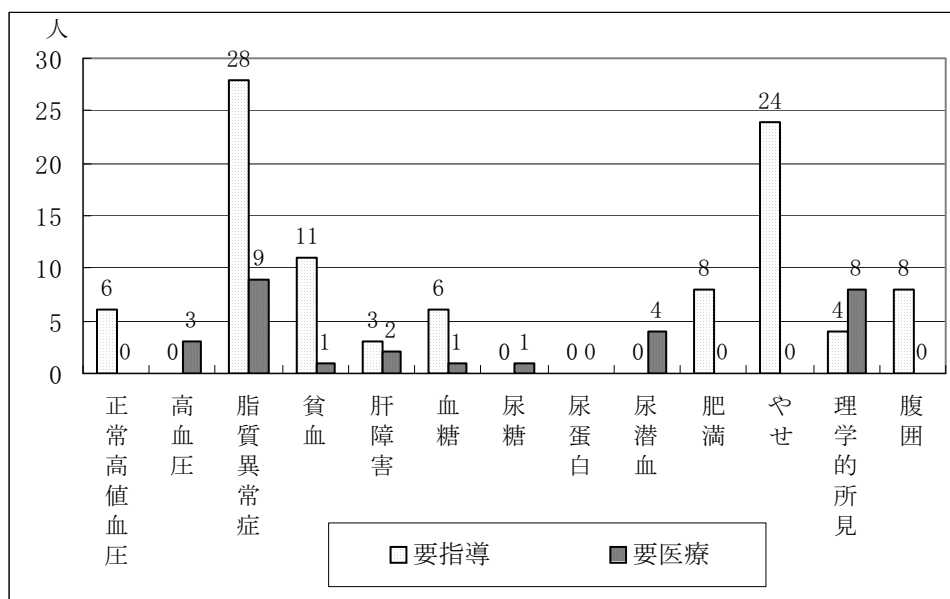


平成19年度合計内訳	
初診	再診
58	56

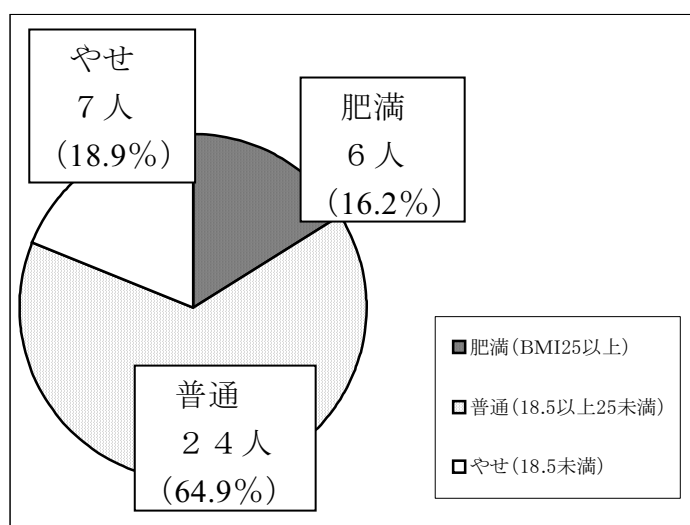
ウ 要指導・要医療の疾病分類 (延べ数)

	正常高値血圧	高血圧	高脂血症 脂質異常症	貧血	肝障害	血糖	尿糖	尿蛋白	尿潜血	肥満	やせ	理学的 所見	腹囲
H15	0	0	38	7	7	0	0	5	4	11	35	0	
H16	0	0	29	11	2	0	0	4	3	10	25	0	
H17	7	2	41	6	4	3	3	2	5	12	18	9	
H18	11	0	34	3	4	1	1	2	3	8	16	0	
H19	6	3	37	12	5	7	2	0	4	8	24	4	男5 女3

エ 平成19年度 疾患別 要指導・要医療判定分類 (延べ人数)



オ 脂質異常症要指導・要医療者の体型分類



カ まとめ

結果は受診者の6割が要指導・要医療だった。脂質異常と痩せが多い。中高年期からの生活習慣病予防に若い年代からの健診は重要。20歳代・30歳代の脂質異常症の要指導・要医療者は普通の体型が多く、問題意識を持ちにくい特徴がある。健診結果から見た体の状態・今後の予測、食生活・運動の具体的なワンポイントアドバイスは結果説明会にみえない要指導・要医療者へも結果返却時に織り込む等

啓発し、健診結果の活用を促す必要がある。また、啓発時期を早め、乳幼児健診等で広く周知及び申込みを行うなど、申し込み方法等も工夫し受診者を増やすことも必要である。

6 骨密度測定

(1) 目的

自分の骨密度を知ることにより、寝たきりの原因となる骨粗鬆症の予防・早期発見に努める。また、骨粗鬆症についての正しい知識の普及と健康の保持・増進の啓発に努める。

(2) 対象

町内在住の節目年齢の女性及び一般住民

※「節目年齢」とは、40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳を意味し、以下「節目者」とする。

(3) 周知方法

①40歳節目者は、基本健康診査の健診票郵送時にチラシを同封 148名

②広報おおぐち及び広報無線による啓発

(4) 日時

平成19年10月22日(月) 午前9時30分～午後3時30分

平成19年11月6日(木) 午前9時30分～午後3時30分

(5) 場所及び定員

場所は、保健センター1階機能訓練室

定員は、各日95名(合計190名)

(6) 方法及び内容

超音波法によるかかと部の骨密度測定 健康相談 栄養相談

(7) 従事者

保健師 管理栄養士 事務員 委託機関(医師・検査技師)

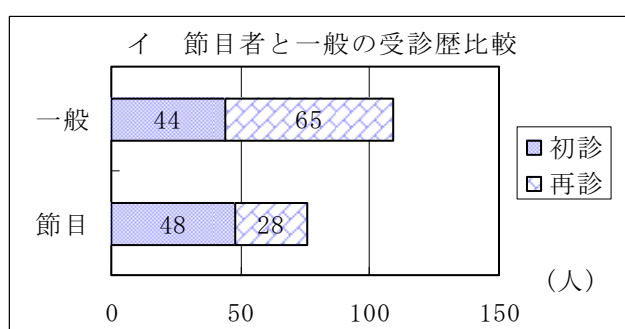
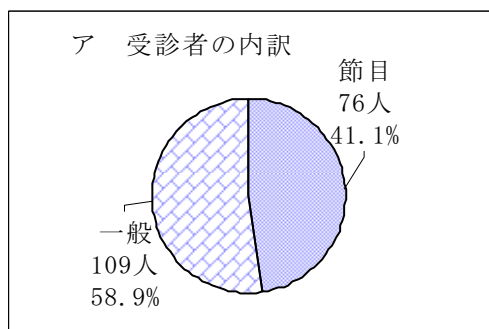
(8) 実施結果

ア 受診者の内訳(人)

性別	節目	一般	合計
女	76	105	181
男	0	4	4
合計	76	109	185

イ 受診歴(人)

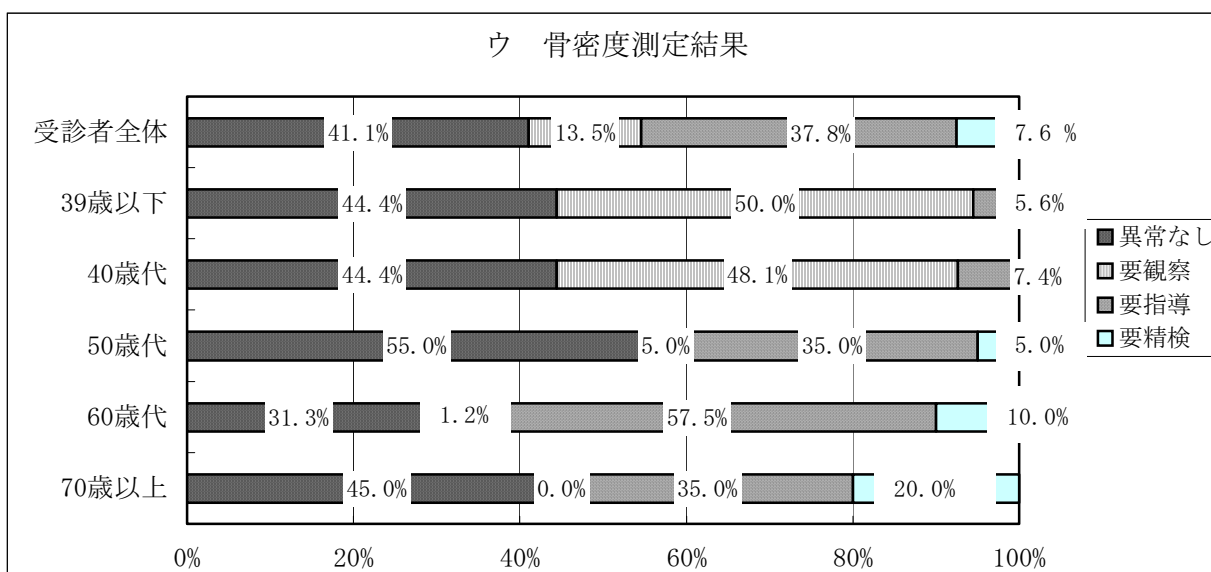
受診歴	節目	一般	合計
初診	48	44	92 (55.3%)
再診	28	65	93 (44.7%)
合計	76	109	185 (100.0%)



ウ 骨密度測定結果

() は、節目者再掲 (単位：人)

	受診者合計	異常なし	要観察	要指導	要精密検査
39歳以下	18 —	8 —	9 —	1 —	0 —
40歳代	27 (14)	12 (5)	13 (7)	2 (2)	0 (0)
50歳代	40 (17)	22 (9)	2 (1)	14 (7)	2 (0)
60歳代	80 (29)	25 (10)	1 (0)	46 (14)	8 (5)
70歳以上	20 (16)	9 (7)	0 (0)	7 (7)	4 (2)
合計	185 (76)	76 (31)	25 (8)	70 (30)	14 (7)



※今年度から誤差が少ないといわれる水を使わない超音波測定法になった。判定結果は、異常なしが増加した。

※今年度から要観察の判定を加えた。要観察は、20・30歳代の受診者で、骨粗しょう症が疑われる骨密度ではないが、若いうちから低下が見られる方で、若い方への啓発に効果的だった。

エ 受診者とその結果の年次推移

(単位：人数)

判定区分	受診者数	正常域	注意域	要注意域
H17	194	43	95	56
H18	188	35	77	76

判定区分	受診者数	異常なし	要観察	要指導	要精検
H19	185	76	25	70	14

7 健康教育

健康教育は、住民の健康意識の高揚、より良い生活習慣の定着を図ることにより、健康増進・疾病予防・寝たきり予防などに役立てることを目的としている。

健康おおぐち 21 計画推進 4 年目になり、さらに計画の見直しをすすめるなかで、健康づくりをしやすいまちづくりを目指すとともに 5 分野の目標に沿った具体的な取り組みを推進した。

重点事業としては、基本健診で最も多く様々な生活習慣病予防のため、将来的に脳梗塞や心疾患を引き起こすリスクの高いメタボリックシンドロームを取り上げ「ステップ・アップ生活習慣病予防教室」を行い行動変容を促した。

予防活動が地域のなかで広がっていくことを目指し、教室終了後の自主グループの支援や、高齢者の筋力トレーニング（貯筋運動）の普及をおこなった。

（1）健康体操「ヨーガ体操教室」

ア 目的

体を動かす楽しさを体験する場を提供することで、運動習慣をつけるきっかけづくりとする。

イ 対象 住民

ウ 日時及び場所 平成 19 年 5 月 9 日（水）～8 月 1 日（水）（全 12 コース）

保健センター1 階 多目的室

エ 従事者 保健師 ヨーガ講師（2 名）

オ 内容 元気体操 ミニ講話（実技開始前の 10 分間） ヨーガ実技

カ 参加状況及び結果

（ア）参加者数 実人数 31 名 （延べ参加者数：310 名）

1 回平均 26 名参加

（イ）参加者の年齢構成 30 歳代：8 名 40 歳代：5 名 50 歳代：9 名

60 歳代：8 名 70 歳代：1 名

（ウ）参加後の変化

自覚症状が改善した 10 名（うち腰痛・肩こりの改善 5 名）

定期的な運動習慣ができた 8 名（身体を動かすようになった 6 名）

健康について考えるようになった 10 名 知り合いや運動仲間が増えた 7 名

キ まとめ

参加者の年齢も幅広く、10 回以上の参加者も 23 名とコンスタントな出席率ミニ講話を取り入れ、健康おおぐち 21 の周知を中心におこなった。

教室半ばから、自主グループ化に向けての働きかけをし、自主グループにつながった。

(2) ステップアップ生活習慣病予防教室

平成9年度より個々にあった健康的な生活習慣を身につけるための実践教室として、集団と個別の指導内容を組み込んだ『ステップアップ健康教室』を行ってきた。特定保健指導を見据え、メタボリックシンドロームに着目し、基本健康診査や国民健康保険の人間ドックにおいてリスクの重複がある対象者に教室勧奨を行なった。引き続き、基本コースと実践コースに分けて行い、より多くの人に知識を普及するとともに、実践コースの人には個別性を重要視している。

ア 目的

基本コース：自分の体を知り、メタボリックシンドロームを正しく理解し、自分の生活を見直す。

実践コース：メタボリックシンドロームについての知識を理解した上で、自分の生活を見直し、仲間とともに個々に合った健康的な生活を身につける。

イ 対象者

<実践コース> (実践コース対象者も含む)

- ・平成18年度基本健康診査受診者及び、平成18年度国民健康保険人間ドック受診者でBMI 25以上かつ追加リスク3つまたは2つある人(原則40～64歳)
 - ①高脂血症：中性脂肪150mg/dl以上、またはHDL40mg/dl以下
 - ②血圧：収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上
 - ③血糖値：HbA1c5.2%以上
 - ④①～③リスクが1つ以上の方は喫煙ありもリスクとしてカウントする

<基本コース>

- ・上記健診受診者のうち、追加リスク1つの人(原則40～64歳)

※対象者に個別通知

※一般公募の参加希望者は、上記の対象者に限らない。



ウ 教室勸奨・支援内容 毎回 120 分（個別面接は 30 分）

回数	詳細				
4 月中旬	対象者抽出 40～64 歳 BMI 25 以上かつ追加リスクが (H18 年度 基本健診受診者 3,039 人) (H18 年度 国保人間ドック受診者)				
	実践コース対象者 3 つ以上 84 名 2 つ以上 115 名 基本コース対象者 1 つ 68 人	実践コース対象者 3 つ以上 1 名 2 つ以上 13 名 基本コース 1 つ以上 75 名			
合計 356 名に通知 申込者 (基本コース 15 人、実践コース 18 人)					
		支援方法	内 容	スタッフ	参加者数
第 1 回 (6/4)	—	集団:オリエンテーション 個別:面接	個人票確認・目標共有 (10 年後・教室終了後の姿)	保健師 4 人 管理栄養士 1 人	18 人 (内後日 2 名面接)
第 2 回 (6/20)	基本 コース	集団:医師の講話 ※グループワーク	メタボリックシンドロームについて 内臓脂肪減少カードの記入	医師 1 人 保健師 2 人 管理栄養士 1 人	基本コース 13 人、 実践コース 15 人
第 3 回 (7/9)		集団:運動講話・実技 ※運動プログラム作成	ライフコーダ運動量確認 筋トレ・有酸素運動について 運動の行動目標設定	健康運動指導士 1 人 保健師 2 人 管理栄養士 1 人	基本コース 11 人、 実践コース 18 人
第 4 回 (7/23)		集団:食生活講話 ※グループワーク	手ばかり法 (主食・野菜量) 間食の加減・食事バランスガイド	保健師 2 人 管理栄養士 1 人	基本コース 10 人、 実践コース 15 人
第 5 回 (8/6~8/9)		—	個別:栄養・運動相談	食行動の確認 食生活の行動目標設定	保健師 2 人 管理栄養士 1 人
第 6 回 (8/27)	—	個別:運動 集団:講話歯周病予防 個別:ブラッシング	ライフコーダ運動量確認 運動目標修正・歯の 16 得点 中間アンケート	保健師 2 人 管理栄養士 1 人 歯科衛生士 1 人	12 人
第 7 回 (9/10)	—	個別運動 集団・個別:講話食生活 グループワーク	まとめ (運動:継続支援・け がの予防、食事:手ばかり) 現状・抱負の共有	健康運動指導士 1 人 保健師 2 人 管理栄養士 1 人	15 人 (内後日 3 名面接)
第 8 回 (12/4)	—	個別:面接 栄養実習	半年間の成果確認・継続支援 食事バランス・カロリー・塩 分、自己評価・1 年後の私へ記入	保健師 2 人 管理栄養士 1 人	13 人 (内後日 1 名面接)

※実践コースのみ

エ 参加者の状況と出席状況

(基本コース)

参加者数 (実)	14 人	平均年齢	59.2 歳
40 歳代	2 人	実施数	3 回
50 歳代	2 人	平均参加者数	11.3 人
60 歳代	9 人	出席率	81%
70 歳代	1 人	参加者数 (延)	34 人
メタボリックシ ンドローム予備軍	3 人	メタボリック シンドローム	5 人
上記以外	6 人	男女比	5 : 9

(実践コース)

参加者数 (実)	18 人	平均年齢	61.1 歳
50 歳代	7 人	実施数	8 回
		平均参加者数	15.3 人
60 歳代	11 人	出席率	85.4%
		参加者数 (延)	123 人
メタボリック シンドローム予備軍	0 人	メタボリック シンドローム	13 人
上記以外	5 人	男女比	3 : 15

※後日、個別にて対応した人も参加者に含む。

オ 個別目標

●10年後の姿 (延べ数)

友達・妻・孫と楽しい時間を過ごしている (5人) 元気でいられる (4人)、
若くいたい・スリムでいたい (4人)、元気に歩いていられる (3人)、
子どもたちに世話をかけない (3人)、家族全員元気 (1人)、8020になる (1人)
おいしく食べられる (1人)、その他1人

●教室終了後目指す姿 (延べ数)

健康に減量できる (14人) (−3kg : 4人、−5kg : 4人、その他 : 6人)、
腹囲の減少1~6cm (5人)、薬が減る1人、体脂肪率が減る1人

●運動行動目標 (延べ数)

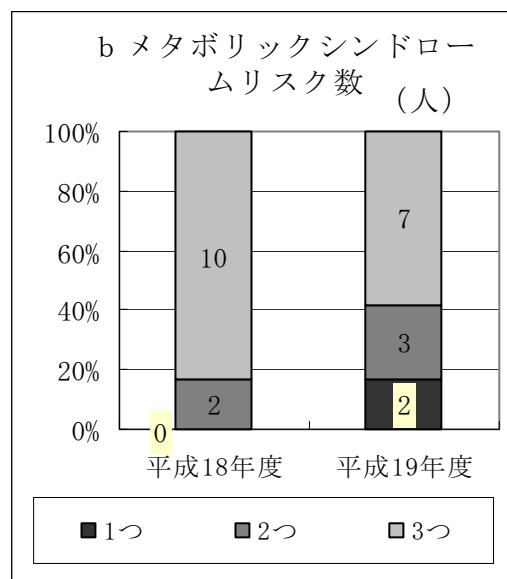
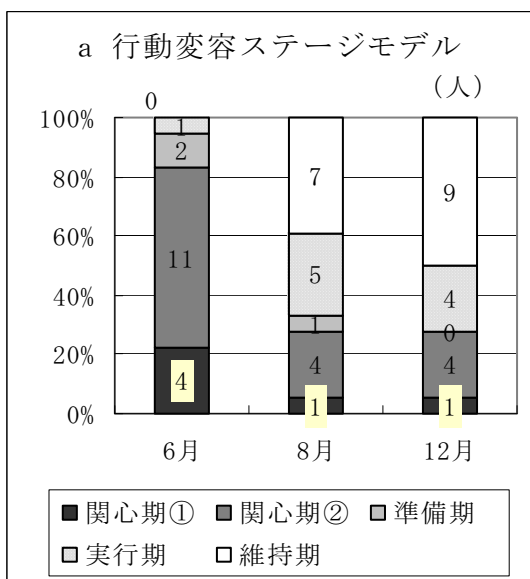
ウォーキング (20~50分) (8人)、日常の歩数を増やす (4人)、プール (3人)、
トレーニング継続 (2人)、車を自転車に (2人)、その他 (6人)

●食生活行動目標 (延べ数)

野菜多くとる (6人)、油もの減らす (5人) 間食を辞めるまたは減らす (5人)
作る量を減らす (3人)、腹8分目 (3人) 寝る前に食べない (3人)、その他 (6人)

カ 結果

(ア) 実践コース参加者



※メタボリックシンドロームリスク数は上記2年継続し健診受診した12名 (BMI 25以上の者) について計上

※仕事を始めた、・体調不良などの理由で参加できなくなった人が5人

c 自己評価 (「ステップアップ生活習慣病予防教室を終えて」) より

[主観的達成度] (最終回参加者及び個別を行った13人について)

(a) 自己目標の達成度

ア. 達成できた 5人 イ. もう人頑張り 8人 ウ. できなかった 0人

(b) 生活の変化

ア. あった 7人 ウ. 少しあった 6人 エ. なかった 0人

(c) 具体的行動変容

●運動 (実数)

〔自分で運動継続 (主にウォーキング)・トレーニングに行く時間を組み込んだ (9人)、
日常意識して歩数を増やしている (2人)、改善が少なかった (2人)〕

●食生活 (延べ数)

〔野菜を食べる量が増えた (4人)、食事バランスが整ってきた (2人)、薄味にした (2人)、
食べ過ぎに気付いた (2人)、余ったおかずを食べなくなった (2人)、カレーを考えて
食事するようになった (2人)、油ものが減った (1人)、肉の量が減った (1人)〕

●その他 (実数)

〔体が軽くなり身軽に動けるようになった (2人)、風邪を引いても寝込まなくなった
人前に出ること、会話を多くすることを意識するようになった〕

(d) 継続に向けて

●運動 (延べ数)

〔今の運動を継続 (6人)、もう少し歩く (4人)、筋トレを取り入れたい (1人)、水泳を
始めたい (1人)、ストレッチやその場歩き実施 (1人)、筋力トレ教室に参加 (1人)〕

●食生活 (延べ数)

〔腹八分目 (3人)、総カロリーと間食に気を配る (3人)、野菜多く・肉少なくて継続したい
(2人)、意識して食生活を楽しくしていきたい (1人)、薄味の継続 (1人)、バランス
の良い食事継続 (1人)、食事バランスを整えたい (1人)〕

●その他 体脂肪をもっと減らしたい (1人)

d 身体測定結果及び検査値比較

	体重	体脂肪	腹囲	総コレステロール	中性脂肪	HDL	HbA1c
減少	16人 (88.9%)	7人 (38.9%)	17人 (100%)	12人 (80.0%)	12人 (80.0%)	8人 (53.3%)	15人 (100%)
増加	2人 (11.1%)	8人 (44.4%)	0人 (%)	3人 (20.0%)	3人 (20.0%)	6人 (40.0%)	0人 (0.0%)
変化なし	0人 (0.0%)	3人 (16.7%)	0人 (%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (6.7%)	0人 (0.0%)
合計	18人 (100%)	18人 (100%)	17人 (%)	15人 (100%)	15人 (100%)	15人 (100%)	15人 (100%)
平均増減値	-2.2kg	+1.6%	-2.5cm	-8.8mg/dl	-2.5mg/dl	+0.4mg/dl	-0.7mg/dl
最大減少値	-5.7kg	-5.7%	-6.8cm	-87mg/dl	-83mg/dl	-8mg/dl	-2.9mg/dl
最大増加値	+1.4kg	+12.2%	—	+135mg/dl	135mg/dl	+9mg/dl	—

平成18・19年度基本健診・国保人間ドック

(イ) 基本コース参加者

a メタボリックシンドローム追加リスク数

3つ⇒2つ(1人)、2つ⇒0つ(1人)、1つ⇒3つ(1人)、0つ⇒BMI 25以下(1人)

※2年継続して健診受診していた人の内BMI 25以上の4名について

b 身体測定結果及び検査値比較

	体重	総コレステロール	中性脂肪	HDL	HbA1c
減少	5人 (71.4%)	6人 (75.0%)	4人 (50.0%)	3人 (42.9%)	6人 (85.7%)
増加	2人 (28.6%)	2人 (25.0%)	4人 (50.0%)	4人 (57.1%)	1人 (14.3%)
変化なし	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
合計	7人 (100%)	8人 (100%)	8人 (100%)	7人 (100%)	7人 (100%)
平均増減値	-1.8kg	11.13mg/dl	-5mg/dl	-2.1mg/dl	-0.2mg/dl
最大減少値	-5.5kg	-60mg/dl	-118mg/dl	-4mg/dl	-0.8mg/dl
最大増加値	+2.5kg	+60mg/dl	+83mg/dl	+14mg/dl	+0.3mg/dl

平成18・19年度基本健診・国保人間ドック

※実践コース基本コースとも継続して健診を受診した方について評価

※基本コースは職場健診で中性脂肪のみ比較できる人が含まれる

※腹囲は2回以上測定できた人

キ まとめ

行動変容のステージが半年間を通して改善され、13人が維持期・継続期に入っている。その結果、身体測定値・検査値とも改善し、メタボリックシンドロームのリスク数も多くの人々が減少していた。体脂肪率は他の項目に比べ減少した方が少なかった。まだ多くの人々がリバウンドしやすい状況と考えられる。しかし筋力トレーニング継続者では大きく減少、歩数の確実な増加者で継続できた人は減少していた。自主グループ活動の中で筋力トレーニングを取り入れるなど、リバウンドしにくい体づくりが必要。

最終回に個別面接の時間を設け、検査値の変化と本人の生活習慣の改善を結びつけてお返ししたことで自己評価が全体的に高かった。また、そのことで今回自主グループの立ち上げに繋がった。

基本コースへの働きかけは3回の講話会のみであったが、その際内臓脂肪減少カードを用いた行動目標設定をおこなった。検査値の比較ができた人ではリスク数が減少した人が多かった。

運動の継続ができるよう、教室参加中から場の紹介を行い、(5階トレーニングジム、歩く健康の集い紹介等)全く運動していなかった人の運動習慣の定着にも繋がった。

(3) ステップアップ生活習慣病予防教室同窓会

ア 目的

教室終了1年後の参加者同士の情報共有の場や、参加者自身の振り返りの場となることを目的とする。今後も生活習慣病予防のための行動（運動・食生活）を継続していくための事後フォローの一環として実施した。

イ 対象者

平成18年度生活習慣病予防教室参加者 15名

ウ 日時

平成19年12月12日（水） 午前9時45分～12時

エ スタッフ

保健師 管理栄養士

オ 参加者数

2名（女性 2名） 参加率 13.3%

カ 教室の内容

計測（身長・体重・体脂肪・腹囲）、教室（運動・食生活）の復習、個別面接（生活習慣改善による基本検診結果の変化について）

「1年後の私へ」返却

※欠席者で「1年後の私へ」を書いた方へはコメント・資料を添えて、郵送でお返しした

キ 結果

基本健診結果の変化（H18⇒H19）

要医療⇒異常なし（血圧改善）	1人	要指導 a ⇒要指導 a	2人
要指導 a ⇒異常なし（血圧改善）	1人	異常なしの維持	1人

※2年継続して受診した5名について

ク 考察

教室終了して1年経過するが、継続して健診を受診した人はさらに改善あるいは維持していた。個別の時間を持ったことで、生活の振り返りとともに、血中脂質の変化など経年的に確認でき、自覚しにくい改善点も伝えられた。達成感をもたれたことで、継続への意欲的な意見が聞かれた。

2年間実施してみて、継続支援の効果を感じた。しかし、前年度の今年のフォロー教室の参加率からも、1年後のフォローでは参加者が少ないことをふまえて、平成19年度の教室では自主グループの立ち上げに向けた働きかけを行った。

(4) わかば健康診査結果説明会

ア 目的

若い世代からの生活習慣病予備軍の割合が高いため、早い段階から自分の体に目を向け、生活習慣を見直す機会とする。

イ 対象

わかば健診受診者のうち要指導・要医療の人（対象者 27 名に通知）
（理学的所見の異常者、痩せの人など生活習慣病以外の疾患は除く）

ウ 日時

平成 19 年 10 月 19 日（金）午前 10 時～11 時

平成 19 年 10 月 23 日（月）午後 1 時 30 分～2 時 30 分

平成 19 年 11 月 14 日（水）午前 10 時～11 時

平成 19 年 11 月 20 日（火）午前 11 時～11 時 50 分

エ 内容

保健師の話：検査結果の見方、病態について、これから予測される体の変化など

養士の話：自分の適量、手ばかり栄養法など食事のバランス

*個別健康相談を中心に生活習慣の振り返り・これからできそうなことを確認

オ 従事者

保健師・管理栄養士

カ 実施状況

参加者の状況 参加人数 6 名（男性 1 名、女性 5 名）

<内訳（重複あり）> 高脂血症 5 名、糖尿病 0 名、肥満 1 名、
高血圧 4 名、貧血 1 名

キ 結果・まとめ

通知のみの勧奨では申し込み者が少なく、電話にて再勧奨を行なった。

質問紙を用いて、個別相談の形でスタッフと一緒に生活を振り返り、その人にとってできそうな目標設定をおこなった。説明会終了後、すぐ行動を起こそうとする人など意識の高さがうかがえた。



(5) 脱メタボさくらの会～生活習慣病予防教室参加者の自主グループ立ち上げ～

ア 目的

生活習慣病予防教室で生活改善を体験された方が、①体を動かす事・健康的な食事をする事の気持よさを仲間と共感しながら、楽しく健康づくりを維持する。②他の健康づくり活動と交流しながら、地域の健康づくりへ目を向ける。

イ 対象者

平成 19 年度生活習慣病予防教室参加者 18 名

ウ 日時 平成 20 年 2 月 5 日 (火) AM 9 : 3 0 ~ AM 1 1 : 0 0

平成 20 年 3 月 4 日 (火) AM 9 : 3 0 ~ AM 1 2 : 0 0

エ 内容

第 1 回

①計測 (血圧・身長・体脂肪率・体重)

②講話 (筋肉量と体力・代謝)、筋力トレーニング

③参加者同士の交流と自主グループの体制づくり 代表者選出、名簿作成

第 2 回

①計測 (血圧・身長・体脂肪率・体重)

②元気体操、筋力トレーニング

③次回自主活動計画

④脱メタボおじ様の会の人との交流 (脱メタボおじ様の会栄養実習時)

※直接的に支援するのは立ち上げの 2 回。それ以降は、要請に応じて健康教育を実施。

オ スタッフ

保健師 1 人

カ 参加者の状況と出席状況

第 1 回	12 人 (女性 10 人、男性 2 人) ※男性 2 人は別のグループにも参加
第 2 回	10 人 (女性 10 人)

キ 結果

2 か月に 1 回の自主グループ活動が計画され、集まったときに次回の計画を立てる。
自主活動の 1 回目は桜並木をウォーキングした。

ク 考察

教室中からの継続意欲の向上と教室終了から間もないため、働きかけで参加率は 67%であった。脱メタボおじ様の会の立ち上げ支援の経験も、今回楽しい自主グループの方向づけに繋がった。今後は女性中心のグループ特性に合わせて、特定保健指導対象者の継続支援の場となるよう活動を支援したい。

(6) 歩く健康のつどい

ア 目的

手軽にできる運動として『歩くこと』を通して、健康の保持増進・生活習慣病予防に努める。

イ 対象

一般住民

ウ 従事者

保健師（健康チェック・準備体操時のみ）

エ 日時・内容

月2回（第2・4火曜日）午前9時30分～11時

時 間	内 容
AM 9:30～9:45	健康チェック 血圧測定・検尿（第2火曜日のみ）
9:45～10:00	健康おおぐち2 1元気体操
10:00～11:00	1時間ウォーキング（主に五条川沿い）

オ 参加状況（単位：回・人）

年度	実施回数	実人数	参加延人数	1回平均参加者数
18	22	27	211	9.6
19	23	26	266	10.2

カ 健康チェック結果

血圧測定者結果（延べ人数）（単位：人）

血圧測定者 延べ数	正常域	境界域	高血圧域
266	164	56	11

キ まとめ

平成12年度から、定例以外（第1・3火曜日）の自主活動が継続されている。10月には自主活動にて町外ウォーキングを実施している。生活習慣病予防教室参加者などの、運動を始める場の一つにもなっている。男性の参加者が常時おり、男性も参加しやすい形になってきている。また、17年度からはメンバーの代表者が、健康まつりの実行委員や健康クラブ笑顔21のメンバーとして参加している。



(7) 広報『おおぐち』及び広報無線による啓発活動

ア 目的

疾病や生活習慣などに関する情報を広く住民に啓発し、広報「おおぐち」・広報無線を通じて健康意識の向上に努める。

イ 広報『おおぐち』掲載月および内容

掲 載 月	掲 載 内 容
平成 19 年 4 月号	アルコール「楽しく健康的に飲めるお酒の適量を知ろう」
平成 19 年 5 月号	運動「日常生活の中で意識して動こう」
平成 19 年 6 月号	食生活「毎日、野菜をたくさん食べよう」 6 月 3 日「虫歯予防デー」、6 月 4 日～10 日「歯の衛生週間」
平成 19 年 7 月号	歯「いつまでも自分の歯で食べよう」
平成 19 年 8 月号	こころ「ストレスとうまくつきあおう」
平成 19 年 9 月号	食生活「腹八分目で自分の適量を知ろう」 「がん征圧月間」
平成 18 年 10 月号	運動「自分に合った運動習慣を身につけよう」 「食生活改善普及月間」 ・食生活改善チェックと栄養相談の紹介
平成 19 年 11 月号	食生活「塩分を減らそう」
平成 19 年 12 月号	歯「 ^{はちまるにいます} 8020運動コンクール表彰者発表」・表彰者の8020の秘訣 「特定健診」について
平成 20 年 1 月号	たばこ「喫煙は決められた場所で」
平成 20 年 2 月号	運動「日常生活の中で意識して動こう」
平成 20 年 3 月号	食生活「毎日、野菜をたくさん食べよう」

* 毎月、「みんなですすめる 健康おおぐち21」と題し、健康おおぐち 21 計画推進状況や5分野のはじめの一步を掲載した。

* 18年4月号より日々の生活の中で健康のために気をつけていることを紹介する「私の健康」コーナーを設け継続掲載している。また、大口俳句会・大口川柳クラブの協力により「こころ」の健康づくりの一つとして、健康俳句と健康川柳を掲載した。

ウ 広報無線

「健康おおぐち21」の周知と内容の啓発として、随時、各分野のワンポイントアドバイスを流した（運動4回、食生活5回、こころ5回、たばこ3回、アルコール5回、歯5回）。平成19年8月には、「食中毒について」、平成19年12月から平成20年2月には「インフルエンザの予防」について、2月には「生活習慣病予防週間」について周知した。

(8) 健康教育まとめ

ア 生活習慣病予防（メタボリックシンドローム予防、がん予防等）（単位：回・人）

	実施 月日	内 容	回 数	参加 延人数	スタッフ (延べ人数)	
1	5月～8月	いきいき体操教室（ヨーガ教室）	12	310	ヨーガ講師 24, 保健師 12	保健センター事業
2	6月4日～12月4日	ステップアップ生活習慣病予防教室 (実践・基本コース) ※詳細別掲	12	155	医師 1、保健師 22 歯科衛生士 1 管理栄養士 12 健康運動指導士 3	
3	6月(4日間)	住民結核検診時 体力測定	5	256	保健師 1、その他	
4	7月8月10月	乳がんMMG健康教育	3	215	保健師 6	
5	10月7日	町民体育祭 元気体操	1	120	保健師 1、その他	
6	11月3日	健康ウォーク（健康推進員主催）	1	345	—	
7	12月12日	H18ステップアップ同窓会（講話）	1	2	保健師 1、管理栄養士 1	
8	2月4日	脱メタボさくらの会（体操・講話）	2	22	保健師 2	
9	4月～3月	歩く健康の集い時 元気体操	23	268	保健師 18、その他	要請による健康教育
10	4月～3月	さくら大学時 元気体操	12	360	保健師 12	
11	8月28日 3月4日	脱メタボおじ様の会（栄養実習）	2	24	保健師 1、管理栄養士 1	
12	9月4日	ひだまり大屋敷ボランティア研修 (栄養実習)	1	6	保健師1、管理栄養士 1	
13	9月22日	健康推進員活動 大屋敷地区 (生活習慣病予防講話・栄養実習)	1	24	保健師 1、管理栄養士 1	
	12月5日	下小口地区(〃)	1	25	保健師 1、管理栄養士 1	
	2月25日	余野地区（骨粗鬆症予防）	1	25	保健師 1、管理栄養士 1	
	3月 1日	さつきヶ丘地区（栄養実習）	1	25	保健師 1、管理栄養士 1	
14	5月18日	ほほえみ会健康教育 エクササイズガイドの活用（運動）	1	15	保健師 1	
	2月13日	脂質異常症予防（栄養実習）	1	23	保健師 1、管理栄養士 1	
合 計			81	2,220		

※1 保健師・管理栄養士が携わった活動のみ

※2 「ほほえみ会」は、第1・2・3期健康推進員のOB会

(9) 生活習慣病予防教室のあゆみ

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
動機	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病予防のための生活習慣改善に再び重点をおき、対象者の幅を広げ実施。 ・年代別の健康問題やニーズに合わせ生活習慣病予防教室を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、糖尿病に重点を置いた。教室の名称に「予防」を加え、要医療・要指導以外の関心のある方にも対象を広げた。 ・高齢者対象、筋力トレーニング、心身ともに健康的なライフスタイルのヒントになるよう講義。 ・生活能力チェックで運動の動機付けを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ・アップ糖尿病予防教室」 ・8回コース、生活習慣の見直し、栄養・運動の実践へ集団・個別方式で実施。 「元気はつらつ教室」 ・65歳以上対象、6回コースで筋力トレーニングと食生活、おしゃやれ、歯の講義。 「健康ライフセミナー」 ・50～60歳対象、3回1コース、運動実技と健康管理、生き方、生活情報等の講義。 「魅力アップ教室」 ・20～30歳代を対象に、3回1コースで運動実技とメイク法、食生活、カラーコーディネートの講義。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度よりメタボリックシンドロームの方の生活習慣改善をめざす。(実施形態は平成17年度と同じ) ・生活改善の継続支援の教室のOB会を実施。 ・楽しく体を動かすきっかけづくりと ・定年男性の健康づくり・社会参加を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ①メタボリックシンドロームハリスクアアプローチ。生活習慣・検査結果の振り返りから本人の目標に向け行動変容を促す。 ②教室での達成感の共有から継続意欲高揚を図る。自主グループ立ち上げ。継続支援。 ③若い年代からの運動不足改善を目的にきっかけづくりの教室実施。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ・アップ糖尿病予防教室」 ・8回コース、生活習慣の見直し、栄養・運動の実践へ集団・個別方式で実施。 「元気はつらつ教室」 ・65歳以上対象、6回コースで筋力トレーニングと食生活、おしゃやれ、歯の講義。 「健康ライフセミナー」 ・50～60歳対象、3回1コース、運動実技と健康管理、生き方、生活情報等の講義。 「魅力アップ教室」 ・20～30歳代を対象に、3回1コースで運動実技とメイク法、食生活、カラーコーディネートの講義。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ・アップ糖尿病予防教室」 ・8回コース、生活習慣の見直し、栄養・運動の実践へ集団・個別方式で実施。 「元気はつらつ教室」 ・65歳以上対象、6回コースで筋力トレーニングと食生活、おしゃやれ、歯の講義。 「健康ライフセミナー」 ・50～60歳対象、3回1コース、運動実技と健康管理、生き方、生活情報等の講義。 「魅力アップ教室」 ・20～30歳代を対象に、3回1コースで運動実技とメイク法、食生活、カラーコーディネートの講義。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ・アップ高脂血症予防教室」 基本コース:全3回(実践コースの2・3・4と合同で実施。医師・運動指導士・管理栄養士の講演から学ぶ。) 実践コース:全8回(集団個別方式で、学びを生活レベルに掘り下げて行動変容につなげていった。参加者の10年後の目指す姿に寄り添い実施。終了後、継続支援実施。) 「生き生き体操教室」 「生活能力チェック・歯の健康教育を3地区で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ・アップ高脂血症予防教室」 前年度と同じ2コース。メタボリックシンドロームに対象者を絞り前年度カリキュラムを生かし実施。運動実践の支援では生活の中に運動を取り込み易いよう媒体を工夫。 「ステップ・アップ高脂血症予防教室」 17年度を受講者の事後フォロー一。間食、水分摂取をゲーム感覚で学びなおし、基本健診結果を振り返りお互いの頑張りを発表。 「生き生き体操教室」 昨年好評の為に実施したが脱落者も多く運動強度の調整が必要 「男性のための元氣UPヘルシーライフ教室」 運動・食・社会参加1クール3回。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「ステップ・アップ生活習慣病予防教室」 「脱メタボおじ様の会」 ・筋力トレーニング・自主活動計画作成。 「脱メタボおじ様の会」 ・要請によりメタボリックシンドローム講話・栄養実習実施。 ③「生き生き体操教室」 20歳以上を対象に国保の補助事業としてヨーガ教室実施。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に、好評であった元気はつらつ教室の様子を紹介 ・健康おおぐち21検討部会に、元気アップOB会の代表者2名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の「みんなが進める健康おおぐち21」のページに健康教育掲載 ・広報無線にてワンポイントアドバイスを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップの中に動機付けとなる教育内容を盛り込む ・広報・広報無線での健康教育も継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱メタボおじ様の会の体験談を広報「私の健康」に掲載 ・広報・広報無線での健康教育も継続 	

8 健康相談

健康相談事業は、住民が抱えている健康問題に対して、生活習慣改善を中心に実施している。定例の健康相談（毎週金曜日）に加えて、随時電話相談や健康相談を行い、より住民の健康的な生活を支援できるよう努めている。

(1) 健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 日時及び場所

毎週金曜日 午前9時30分から11時30分 保健センター 相談室
随時

エ 内容

血圧測定 尿検査 日常生活相談 栄養相談（希望者のみ）等

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

	実施回数	延べ相談者数	栄養相談（再掲）
毎週金曜日	23回	52人	0人
随時	10回	10人	0人

<相談者内訳>

相談者内訳			血圧域区分			
39歳以下	40歳以上	40歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
5人	16人	41人	43人	8人	11人	0人

(2) 電話相談・面接

ア 目的

電話相談・面接を通して日常生活の不安を取り除き、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 従事者

保健師 管理栄養士

エ 実施状況

(ア) 電話相談 197 件

(イ) 面接相談 58 件

<内訳>

<内訳>

内 容	件 数
幼 児	57 件
予 防 接 種	36 件
乳 児	66 件
精 神	12 件
生活習慣病関係	16 件
妊 婦	2 件
感 染 症	3 件
難 病	0 件
そ の 他	5 件

内 容	件 数
生活習慣病関係	23 件
妊 婦	1 件
乳 児	4 件
幼 児	10 件
精 神	7 件
予 防 接 種	9 件
産 婦	0 件
心身障害	1 件
そ の 他	3 件

栄養電話相談（再掲） 6 件

栄養面接相談（再掲） 6 件

(3) 住民検診時健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

住民検診受診者（40才以上）

ウ 日時及び場所

6月26日から6月29日までの住民検診実施期間 10 地区会場と保健センター

エ 内容

検診結果（胸部レントゲンを除く）説明 健康手帳の発行
健康管理台帳を参考にした保健指導および日常生活相談 栄養相談
（必要に応じて医療機関の受診勧奨または事後相談を勧める）

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

実施回数	相談者数（栄養相談再掲）
11 回	345 人（13 件）

※1 会場を 1 回とする。

<内訳>

内訳		血圧域区分			
40 歳～64 歳	65 歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
94 人	251 人	209 人	100 人	37 人	0 人

(4) 健康教育時健康相談

教室名	実施回数	延べ人数
歩く健康の集い	23回	268人
ステップアップ生活習慣病予防教室	8回	89人
ステップアップ高脂血症予防教室（個別相談）	5回	17人
わかば健診事後	4回	6人
ヨガ教室	12回	261人
ひだまりの会（中小口）	22回	220人
しなやかお達者教室（余野）	24回	114人
しなやかお達者教室（豊田）	24回	136人
老人クラブ	2回	52人
健康推進員地区活動	2回	43人
ふれあいまつり時（健康まつり）	1回	153人
介護予防貯筋運動ひろめ隊	7回	121人
脱メタボおじ様の会	1回	10人
合計	135回	1,490人

(5) 骨密度測定時の事後健康相談

内容	回数	延べ人数
健康相談	4回	185人

※半日を1回とする。



9 介護予防事業

要介護の発生を予防または、要介護状態になるのを遅らせるために効果のある教室を実施する。

(1) 地域での介護予防

ひだまりの会（中小口）・しなやかお達者の会（余野・豊田）

ア 目的

教室に参加することにより、筋力低下や転倒を防ぎ、身体機能全般の維持・向上をはかる。また、仲間同士の交流等により心身の活性化を図る。

介護予防地域支援事業の一般高齢者施策として実施

イ 対象者 高齢者

ウ 日時及び場所

毎月 第2・4金曜日 午前9時30分～12時 中小口地区コミュニティーセンター
 毎月 第2・4月曜日 午前9時30分～12時 余野学習等共同利用施設
 毎月 第2・4火曜日 午前9時30分～12時 豊田学習等共同利用施設

エ 内容

中小口地区

時 間	内 容
9:00～ 9:30	会場準備
9:30～ 9:45	事前打ち合わせ
9:45～10:15	健康チェック（血圧測定）
10:15～10:40	歌（ひだまりの会の歌・今月の歌）・元気体操・貯筋運動・鳴子体操
10:40～11:20	生きがい活動（遊びリテーション・作業療法等）
11:20～11:30	お茶タイム 後教室終了後、反省と次回予定話し合い

余野・豊田地区

時 間	内 容
9:30～ 9:45	会場準備
9:45～10:10	健康チェック（血圧測定）
10:10～10:30	歌（しなやかお達者の会の歌・今月の歌）*豊田は鳴使用子・元気体操
10:30～11:00	貯筋運動（筋力トレーニング 8種）
11:00～11:20	レクリエーション（ボールを使って等）
11:20～11:30	さよならの歌 クールダウンの体操

*体力測定（握力・最大一歩幅・5m歩行）を実施（年1～2回）

オ 従事者

余 野：健康運動指導士(年2回)・保健師

中小口：健康運動指導士(年2回)・看護師・ボランティア

豊 田：健康運動指導士・看護師・ボランティア

*中小口・余野はハートフル大口・看護師に委託

(2) 介護予防「貯筋運動ひろめ隊養成講座」

ア 目的

地域で、介護予防に有効な運動プログラムの普及のため、その一翼を担う人材を育て、地域での展開につなげる。

イ 対象者

住民（老人クラブ役員に声掛け・元気体操ひろめ隊に声掛け）

ウ 日時および内容・参加者数

回	日時	内容	参加者数
1	10月17日(水) 午前10時～11時30分	●講義 運動実技 ～みんなでめざそう！生涯元気～ 「丈夫な足腰づくり やってみよう貯筋運動」 健康運動指導士 長谷川 弘道先生	27名
2	10月24日(水) 午前10時～11時30分		25名
3	10月31日(水) 午前10時～11時30分	①貯筋運動を覚える ②ポイントをおさえる ③自分のモノにする	25名
4	11月12日(月) 午後1時30分～3時	●実技 おもわず身体が動き出す！ 「みんなで 楽しくレクリエーション体験」 レクリエーションコーディネーター 六鹿 恵子先生	23名
5	11月12日(月)26日(月) (余野 しなやかお達者) 11月13日(火)・27日(火) (豊田 しなやかお達者) 午前10時～11時30分	●「地域の活動に参加してみよう！」 ～この町で楽しく元気に年を重ねる～ *いずれかの日に参加 直接実施会場へお越しください	10名
		◎余野学共施設・豊田学共施設	8名
6	12月 5日(水) 午前10時～11時30分	地域で実践！！に向けて 総まとめ ～私たちの力を活かそう！～	20名

* 6回目に会員証を発行

エ 従事者

健康運動指導士(4回)・レクリエーションコーディネーター(1回) 保健師

オ まとめ

受講終了後のアンケート〔回答22名〕より、自分の介護予防のために活かしたい(19件)・活動する場があれば協力したい(5件)・自分の所属している団体や活動している場で広めたい〔12件〕・新しい場をつくって広めたい〔8件〕だった。

講座終了後の広がりとして、受講者からの依頼により老人クラブ3か所(余野・外坪・連合会)での貯筋運動を実施。下小口地区老人クラブ女性部の自主活動にて取り入れられている。

10 保健師活動報告

常勤 ・ 非常勤 ・ 課長職等

(1) 常勤保健師実績

所属機関		大口町保健センター				<input checked="" type="checkbox"/> 地域保健部門 <input type="checkbox"/> 地域福祉部門等																
保健師数		実人員	5人	報告期間																		
時間外勤務(再掲)		0	単位	<自> 19年4月 <至> 20年3月																		
別掲	常勤以外	0	単位	II 家庭訪問 III 面接 IV																		
	課長職	0	単位	被指導人員 率 被指導人員 電話 実 延 (市町村支署) (市町村支署) 実 延 被指導人員																		
I 業務内容		種別		IV 電話																		
		単位数	率	被指導人員 電話																		
		(市町村支署)	(市町村支署)	被指導人員 電話																		
管理	調査研究	17	0.8%	* 感染症	0	0	0	0.0%		0	0											
	地区管理	491	23.3%	結核	0	0	0	0.0%		0	3											
保健福祉事業	家庭訪問	59	2.8%	結核要観察	0	0	0	0.0%		0	0											
	健康相談	190	9.0%	精神障害	0	0	0	0.0%	7	7	12											
	保健指導	72	3.4%		その他 虐待	2	2	0				1.8%										
	ディケア	0	0.0%	その他 その他	0	0	0	0.0%														
	健康診査	424	20.2%	心身障害	18歳未満	3	3	0	2.7%	1	0											
	健康教育	411	19.5%		18~39歳	4	4	0	3.5%													
	地区組織活動	52			40歳以上	1	1	0	0.9%													
	機能訓練	20	1.0%	生活習慣病等	39歳以下	0	0	0	0.0%	23	16											
	予防接種	80	3.8%		40歳以上	22	22	0	19.5%													
	その他	その他	37	1.8%	難病	0	0	0	0.0%	0	0	0										
会議		122	5.8%	* 母子保健	長期療養児	1	1	0	0.9%	0	0	0										
研修教育	会議以外	22	1.0%		乳児	新生児	2	2	0	1.8%	25	55										
	研修企画	2	0.1%			未熟児	10	10	0	8.8%												
実習指導	21	1.0%	その他			35	35	0	31.0%													
医療	監視等	0	0.0%		幼児	11	11	0	9.7%	18	18	161										
	業務管理	20	1.0%		妊婦	0	0	0	0.0%	1	1											
業務連絡・事務	研修参加	82	3.9%		産婦	21	21	0	18.6%	0	0	0										
	その他	7	0.3%		家族計画	0	0	0	0.0%	0	0											
計	計	2103	100.0%		その他	D V	1	1	0	0.9%	3	3	5									
	その他	7	0.3%			公害保健	0	0	0	0.0%												
V コーディネーター	会議	会議以外		原爆被爆者健康診断要指導者	0	0	0	0.0%	0	0	0											
	個別	地域	個別	地域	0	0	0	0.0%														
延課題件数	結核	0	0	0	0	0	0	0.0%	計	113	113	(0)	100.0%	108	197							
	精神	0	0	1	0																	
	老人	0	0	0	2	(家庭訪問再掲)																
	母子	0	0	7	12	実	延	注 ★会議は地域保健部門以外の者が計上する														
	難病	0	0	0	0																	
	障害者(者)	0	0	6	0	*	エイズ	0								0						
その他	0	0	0	0	* (再掲)	児童	2	2														
計	0	0	14	14		高齢者	0	0														
延関係機関(者)数	医師会等	0	0	2		その他	0	0														
	医療機関	0	0	2	6	** 虐待予防	2	2														
	福祉関係機関	0	0	6	10																	
	保健関係機関	0	0	17	3																	
	教育関係機関	0	0	0	5																	
	事業所	0	0	0	1																	
	その他	0	0	0	0	不在件数	3	件														
計	0	0	25	27	不明件数	0	件															

(2) 非常勤保健師実績

常勤 ・ 非常勤 ・ 課長職等

所属機関		大口町保健センター				<input checked="" type="checkbox"/> 地域保健部門 <input type="checkbox"/> 地域福祉部門等						
保健師数		実人員		2人		報告期間						
時間外勤務(再掲)		実働		2人		<自> 19年4月 <至> 20年3月						
別掲	常勤以外	0 単位		II 家庭訪問率								
	課長職	0 単位		被指導人員		III 面接						
I 業務内容				実		延						
種別				実		延						
単位数				率		率						
* 感染症				0	0	0	0.0%					
結核				0	0	0	0.0%					
結核要観察				0	0	0	0.0%					
管理地区	調査研究	0	0.0%	精神障害	0	0	0.0%					
	地区管理	20	2.8%		精神保健福祉	0	0	0.0%				
保健福祉	家庭訪問	32	4.6%	その他		0	0	0.0%				
	健康相談	90	12.8%		虐待	0	0	0.0%				
保健福祉	保健指導	3	0.4%	心身障害	4	4	5.1%					
	ダイケア	0	0.0%		18歳未満	0	0	0.0%				
保健福祉	健康診査	203	28.9%	18~39歳	0	0	0.0%					
	健康教育	54	7.7%	40歳以上	0	0	0.0%					
保健福祉	地区組織活動	0	/	慣生活習	39歳以下	0	0.0%					
	機能訓練	0	0.0%		40歳以上	0	0	0.0%				
保健福祉	予防接種	243	34.6%	難病				0	0	0		
	その他	0	0.0%	乳児	長期療養児	0	0	0.0%	0	0	0	
保健福祉	会議	11	1.6%		新生児	4	4	5.1%	0	0	2	
	会議以外	0	0.0%	未熟児		2	2	2.5%				
保健福祉	研修企画	0	0.0%		その他	31	31	39.2%	0	0	0	
	実習指導	0	0.0%	幼児		1	1	1.3%				
保健福祉	医療監視等	0	0.0%		妊婦	0	0	0.0%	0	0	0	
	業務管理	0	0.0%	産婦		37	37	46.8%				
保健福祉	業務連絡・事務	41	5.8%		家族計画	0	0	0.0%	0	0	0	
	研修参加	1	0.1%	D		0	0	0.0%				
保健福祉	その他	4	0.6%		公保健	0	0	0.0%	0	0	0	
	計	702	100.0%	原爆被爆者健康診断要指導者		0	0	0.0%				
V コーディネート					0 <th colspan="2">0.0%</th> <td rowspan="2">0</td> <td rowspan="2">0</td> <td rowspan="2">0</td>		0.0%		0	0	0	
会議				0 <th colspan="2">0.0%</th>		0.0%						
会議以外				0 <th colspan="2">0.0%</th>		0.0%						
個別				0 <th colspan="2">0.0%</th>		0.0%						
地域				0 <th colspan="2">0.0%</th>		0.0%						
その他				0 <th colspan="2">0.0%</th>		0.0%						
延課題件数	結核	0	0	計		79	79	(0)	100.0%	2	7	
	精神	0	0	(家庭訪問再掲)		実		延				
延課題件数	老人	0	0	* エイズ		0	0	注 ★会議は地域保健部門以外の者が計上する				
	母子	0	0	(再掲)		児童						2
延課題件数	難病	0	0	** 虐待予防		2	2					
	障害児(者)	0	0	不在件数		3件						
その他	0	0	不明件数		0件							
計	0	0	14	14	不在件数		3件					
延関係機関(者)数	医師会等	0	0	2		不明件数		0件				
	医療機関	0	0	2		6		10				
延関係機関(者)数	福祉関係機関	0	0	6		10		3				
	保健関係機関	0	0	17		3		5				
延関係機関(者)数	教育関係機関	0	0	0		5		1				
	その他	0	0	0		0		0				
計	0	0	25	27	不在件数		3件					
		0	0	25		27		0件				

11 栄養士活動報告

区 分		業 務 内 容	件数	人員	時間	%	
栄 養 指 導 業 務	母 子	健康相談	個別指導、電話相談など	47	145	70	3.9
		家庭訪問		0	0	0	0.0
		健康教育	各種健診・栄養教室など集団指導	43	698	99.5	5.6
		業務推進	各事業の計画・準備・片付け・評価、献立作成、情報収集、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ、乳幼児健診等の受付・計測・カンファレンス、通知作成、事務連絡等			273	15.4
	小 計		母子保健関係小計	90	843	442.5	24.9
	成 人 ・ 老 人	健康相談	個別指導、電話相談など	20	69	49	2.8
		家庭訪問		2	2	3	0.2
		健康教育	各種栄養教室の集団指導、各種健康教室など	18	308	49.5	2.8
		業務推進	各事業の計画・準備・片付け・評価、献立作成、情報収集、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ、事務連絡等			215	12.1
		小 計		成人保健関係小計	40	379	316.5
	地 区 組 織 ・ 依 頼 等	養 成	栄養教室など	5	122	21	1.2
		育 成	健康推進員活動・各自主活動等の事前うち合わせ	31	24	10	0.6
		業務推進	地区組織等による活動に関する準備・片付け・評価、献立作成、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ等			23	1.3
		小 計		地区組織・依頼等小計	36	146	54
	小 計	健康相談		67	214	119	6.7
		家庭訪問		2	2	3	0.2
		健康教育	地区組織等の養成・育成を含む	97	1,152	180	10.1
		業務推進				511	29.2
	調 査・研 究		健康おおぐち21推進及び関係会議、事業の統計、保健活動のまとめ等			154	8.7
	会 議		会議全般（子どもの健康に関する連絡会・企業との連携・課内業務検討等）			14	0.8
研 修		研修全般（市町村保健行政栄養士連絡会等の研修会・職員研修等）			8.5	0.5	
栄養業務関係事務		栄養業務に関する事務、業務報告、報告書など			714.5	40.3	
集団給食管理					0	0.0	
栄養指導業務等小計		栄養指導業務及び関係事務等			1,704	96.4	
そ の 他		栄養業務以外（主に、文書管理・各検（健）診事務等）			70.5	4.0	
合 計		総活動時間数			1,774.5	100.0	

*19年度は、正規職員が育休のため臨時職員の実績で計上した。

12 家庭訪問

(1) 介護保険認定調査訪問

平成12年度4月介護保険導入後、福祉課とともに介護保険の申請をした人に対して認定調査を行っている。健康課が主に更新、変更分、福祉課が新規分の調査を行なう。

ア 対象

40歳以上の介護保険対象者で、常時介護や支援が必要と思われ、介護保険の認定を申請した人

イ 申請窓口

福祉課

ウ 申請人数

延人数563人（新規 127人、更新 399人、変更 37人）

実人数433人

エ 健康課の訪問

延人数 425人

オ 介護認定調査者の状況(実人員)

平成20年3月31日現在

(ア) 地区別 (単位：人)

地区	健康課分	福祉課分	全体
秋田	40	13	53
豊田	51	12	63
大屋敷	59	14	73
外坪	16	3	19
河北	36	11	47
余野	82	28	110
上小口	26	7	33
中小口	24	11	35
下小口	75	15	90
垣田	9	0	9
さつきヶ丘	5	0	5
町外	2	1	3
計	425	115	540

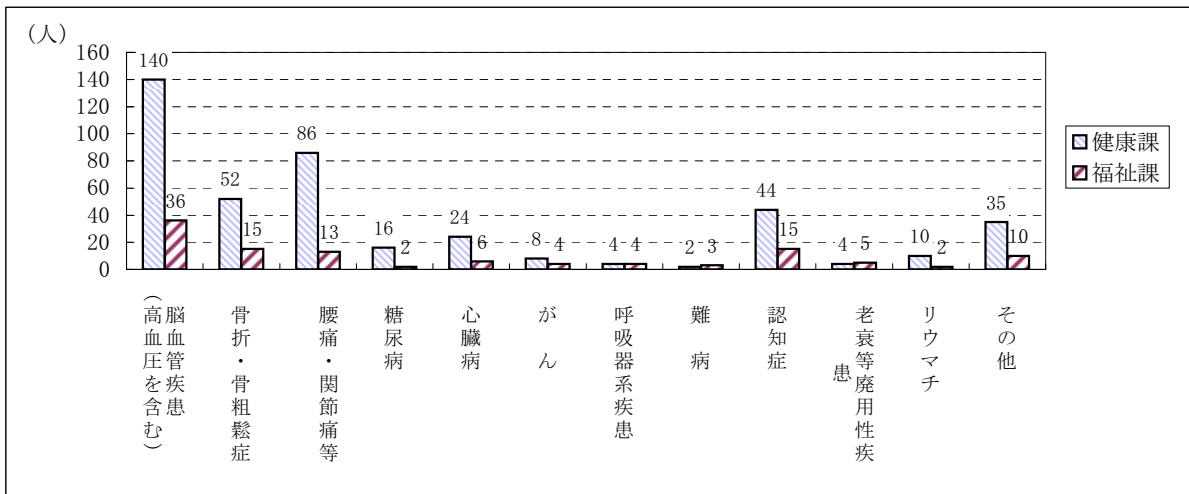
(イ) 性別 (単位：人・%)

性別	健康課分	福祉課分	全体
男	137 (32.2)	48 (41.7)	185 (34.2)
女	288 (67.8)	67 (58.3)	355 (65.8)
計	425 (100.0)	115 (100.0)	540 (100.0)

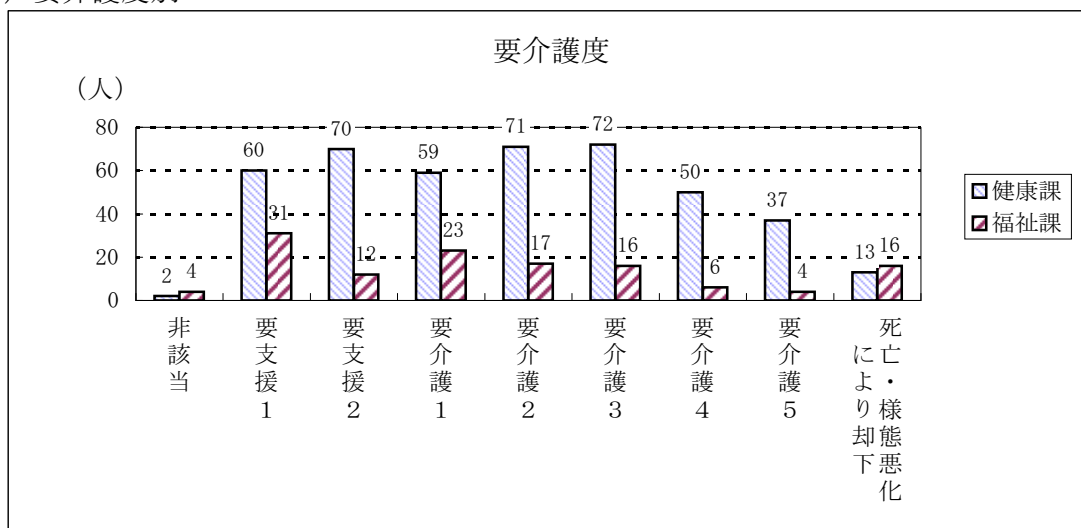
(ウ) 年齢別 (単位：人・%)

年齢	健康課分	福祉課分	全体
40～49歳	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.2)
50～59歳	12 (2.8)	1 (0.9)	13 (2.4)
60～64歳	12 (2.8)	2 (1.7)	14 (2.6)
65～69歳	24 (5.7)	5 (4.4)	29 (5.4)
70～79歳	113 (26.6)	42 (36.5)	155 (28.7)
80～89歳	177 (41.7)	45 (39.1)	222 (41.1)
90歳以上	86 (20.2)	20 (17.4)	106 (19.6)
計	425 (100.0)	115 (100.0)	540 (100.0)

(エ) 原因疾患別 (合併疾患を含めた延べ人数)



(オ) 要介護度別



(カ) 治療中の疾患 (単位：人)

疾患名	健康課分	福祉課分	疾患名	健康課分	福祉課分
高血圧	88	18	精神疾患(安定剤含む)	8	2
脳血管疾患	105	23	パーキンソン病	27	4
腰痛・関節痛等	89	13	リウマチ	12	3
心臓病	55	9	泌尿器	7	1
糖尿病	49	8	白内障・緑内障	4	0
認知症	72	19	がん	9	5
腎臓病	3	2	服薬なし	11	2
骨粗鬆症	52	14	その他	46	11
呼吸器疾患	14	5			

(キ) 介護者別 (単位：人)

介護者	健康課分	福祉課分	全体
嫁	87	28	115
配偶者	117	28	145
息子又は娘	126	43	169
孫又は孫娘	4	0	4
その他	89	16	105
なし	2	0	2
計	425	115	540

(ク) 療養場所別 (単位：人)

療養場所	健康課分	福祉課分	全体
自宅	300	70	370
施設	80	42	122
入院	45	3	48
計	425	115	540



4 齒科保健活動

1 歯科保健事業の取り組み

食事を十分に咀嚼し、健康で豊かな生活を維持するには、妊娠期からの歯科保健への取り組みが重要である。

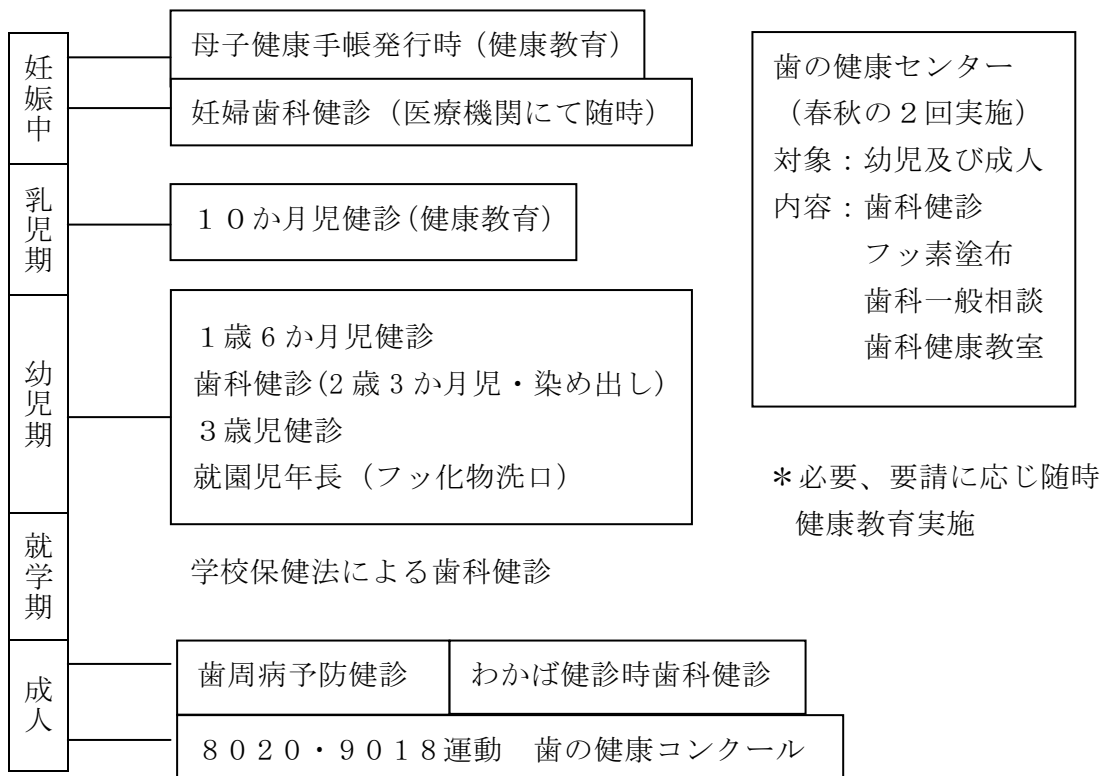
妊婦歯科健診は、H19 年度から母子手帳発行時に健康教育を行い、歯科健診は医療機関委託とした。20・30 歳代の歯周病予防のために、胎児期の歯牙形成と食事の大切さ、母と生まれてくる子の虫歯予防について学ぶ機会となっている。

乳幼児期では、歯は生えてから3年が虫歯になりやすく、食生活・生活リズム・正しい歯みがきが虫歯予防のポイントであるため、10 か月児健診時に集団で健康教育、1 歳6 か月児健診・歯科健診・3 歳児健診でフッ素塗布と健康教育・個別指導を行い、予防効果をあげている。H19 年度から歯科健診の対象を2 歳3 か月児とし、全身の一部の大切な歯と発達を一体的に捉える場と位置づけた。

成人歯科保健事業では、節目年齢の方へ歯周病予防健診、20 代・30 代の方へわかば健診時歯科健診と歯周病予防の指導を行っている。8020 運動の歯の健康コンクールも定着し、表彰式を「ふれあいまつり2007」時に行い、若い世代への歯の健康に対する啓発効果をねらった。

今年度高齢者への健康教育として口腔機能向上プログラム事業を実施した。今後も健康おおぐち21の歯の目標である「いつまでも自分の歯で食べよう」「いつまでも明るく歯を出して笑おう」に向け、健康と歯のつながりを意識した取り組みを継続していきたい。

歯科保健管理体系



2 幼児期歯科健康診査

(1) 目的

歯牙が形成される乳幼児期に、歯の大切さと正しい衛生習慣を身につけるとともに、
歯科健診・フッ素塗布を行ない、虫歯予防に努める。

(2) 対象

1歳6か月児・2歳3か月児・3歳児

(3) 日時

1歳6か月児健診時歯科健診 毎月第3火曜日 午後1時40分～
 歯科健診(2歳3か月児対象) 毎月第3水曜日 午後1時00分～
 3歳児健診時歯科健診 毎月第1水曜日 午後1時40分～

(4) 内容

健康教育(ブラッシング法、生活リズムを整えて虫歯予防を)・歯科健診
 染め出し(歯科健診時)・フッ素塗布・個別指導

(5) 従事者

歯科医師・歯科衛生士・保健師

(6) 結果

ア 1歳6か月児健診時歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者 数	その他の要指導		
			O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			指しやぶり	歯列 咬合	その他
									総数	一人 あたり				
15	273	265	46	215	4	0	0	4(1.5)	14	0.05	261	1	27	53
16	246	239	34	202	3	0	0	3(1.3)	10	0.04	237	5	29	38
17	238	231	54	175	2	0	0	2(0.9)	3	0.01	230	2	27	60
18	212	205	46	152	7	0	0	7(3.4)	20	0.10	202	2	12	35
19	252	248	84	161	2	0	1	3(1.2)	12	0.05	246	0	23	52

イ 歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者 数	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況				フッ素 塗布 者 数	その他の要指導		
			O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数				指し ぶり	歯列 咬合	その他
									総数	一人 あたり	処置 指数				
15		376	120	229	24	3	0	27(7.2)	56	0.1	17	373	41	82	53
16		374	143	198	26	3	4	33(8.8)	91	0.2	17	367	17	68	83
17		320	101	211	6	1	1	8(2.5)	26	0.1	2	320	10	58	57
18		345	95	231	14	3	2	19(5.5)	61	0.2	2	344	11	72	81
19	221	197	37	147	8	5	0	13(6.6)	44	0.2	6	194	7	16	44

ウ 3歳児健診時歯科健診

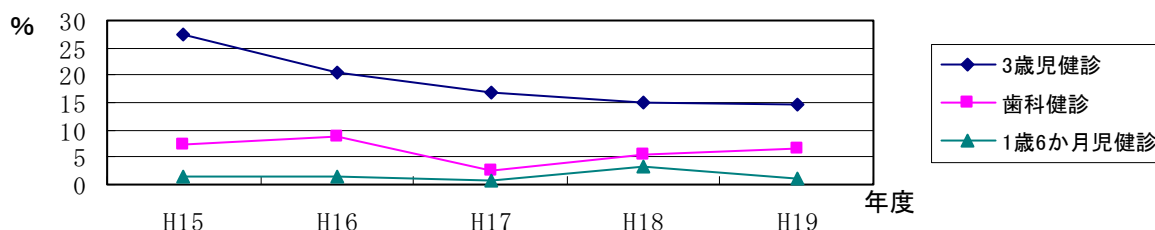
(単位：人・％・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況				フッ素 塗布 者数	その他の要指導		
			O	A	B	C1	C2	虫歯有病者 数(率)	虫歯本数		処置 歯数		指し やぶり	歯列 咬合	その 他
									総 数	一人あ たり					
15	252	250	181	42	20	1	6	69(27.6)	285	1.1	28	237	20	48	32
16	242	230	183	32	13	1	1	47(20.4)	143	0.6	14	226	24	53	38
17	249	236	192	31	9	1	3	44(18.6)	137	0.6	20	236	8	30	48
18	244	232	197	24	8	0	3	35(15.0)	133	0.6	11	227	6	24	37
19	245	234	198	24	11	1	0	36(15.4)	123	0.5	4	232	8	41	36

エ 年度別幼児期歯科健診実施状況 (1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診を合計) (単位：人・％・本)

種別 年度	受診 児数	虫歯の型別分類				虫歯罹患状況				フッ素 塗布 者数	その他の要指導		
		O (1,2)	A	B	C (1,2)	虫歯有病者 数(率)	虫歯本数		処置 歯数		指し やぶり	歯列 咬合	その 他
							総 数	一人あ たり					
15	891	791	70	23	7	100(11.2)	355	0.4	45	871	62	157	138
16	843	760	61	16	6	83(9.8)	244	0.3	31	830	46	150	159
17	787	733	39	10	5	54(6.9)	166	0.2	24	786	20	115	165
18	782	721	45	11	5	61(7.8)	214	0.3	13	773	19	108	153
19	679	627	34	16	2	52(7.7)	179	0.3	10	672	15	80	132

オ 健診別虫歯保有率の推移



<う蝕罹患型>

- O1：う歯がなく、かつ口の中の状態がよいもの
- O2：今う蝕はないが、将来う蝕になりそうなもの
- A：上顎前歯部のみ、または臼歯部のみとう蝕のあるもの
- B：上顎前歯部及び臼歯部とう蝕のあるもの
- C1：下顎前歯部のみとう蝕のあるもの
- C2：下顎前歯部を含み、他部位とう蝕のあるもの

(7) まとめ

虫歯保有率が横ばいになってきた。今後も早期対策で10か月児健診時に健康教育を実施し、1歳6か月児健診でのO2の人数を減らしO1の人数を増加させ、幼児期の虫歯対策につながるように働きかけていく。

歯科健診は、今年度から対象が2歳3か月となり、小集団での健康教育、染め出しブラッシングもゆっくり指導ができ、充実した健診となっている。3歳児の虫歯が減らせるよう母子保健と連携し、生活リズム、おやつ指導に今後も取り組んでいく。近年「偏食」「噛まない」「歯みがきを嫌がる」「歯列咬合」の相談が多く、保健師、管理栄養士と連携して対応していく。

3 妊婦歯科健康診査

(1) 目的

妊娠中は生活の変化やホルモンの影響などで虫歯になりやすく歯肉炎や口内炎もおきやすいため、妊婦の歯肉炎や虫歯の予防と早期発見に努める。

乳歯の質を決めるこの時期に歯科健診を受け、歯科保健について学習する機会をもうけ、生まれてくる子どもの虫歯予防の啓発とする。

(2) 対象 妊婦

(3) 日時・場所 通年 町内歯科医療機関

(4) 内容

歯科検診 ・ブラッシング指導 ・歯の健康づくり得点

(5) 受診者の状況

ア 受診者数 (単位：人)

年 度	15	16	17	18	19
初産婦	50	45	32	22	40
経産婦	15	25	11	25	46
計	65	70	43	47	86

イ 健診結果 (単位：人・本)

区分 年度	受診者数	1人平均 健全歯数	1人平均 未処置歯 数 (D)	1人平均 喪失歯数 (M)	1人平均 処置歯数 (F)	1人平均 DMF 歯 数	歯周疾患	
							あり	なし
17	43	18.1	0.9	0.8	9.8	11.5	25	18
18	47	17.3	1.1	0.1	9.7	11.0	25	22
19	86	17.1	1.3	0.1	9.9	11.3	77	9

ウ 歯周コード (単位：人)

0	1	2	3	4
9	18	40	19	0

エ 認知度 (単位：人・%)

	知っている	知らない
8020 運動	51 (61.4)	32 (38.6)
喫煙と歯周病	29 (34.9)	54 (65.0)

未記入 3人

オ 判定結果 (単位：人)

異常なし	要指導	要精検	不明
10	24	45	7

(6) まとめ

H19年度から医療機関委託とした結果、受診者が増加した。

来年度も継続で母子手帳交付説明会時に健康教育をし、より多くの方に健診を受けてもらえるよう働きかけていく。

4 わかば健康診査時歯科健診

(1) 目的

20・30歳代の若い年代から歯周疾患の早期発見と予防に努める。歯の健康に関し学び、正しいブラッシングの方法を身に付ける。

(2) 対象

町内住民 20歳～39歳までの方

(3) 日時

平成19年 9月12日 (水)

平成19年 10月10日 (水)

いずれも午後1時～3時

(4) 実施内容

歯科健診・ブラッシング指導

(5) 従事者

歯科医師 歯科衛生士 保健師

(6) 歯科健診受診者状況

(単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	受診者数			年齢別	
		総数	男	女	20歳代	30歳代
18	2	50	1	49	0	50
19	2	61	7	54	14	47

(7) 診査結果

ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯数	平均 現在歯数	平均 健全歯数
61	29	50	10.4	28.7	17.4

イ 歯周コード

(単位：人)

受診者数	0	1	2	3	4
61	11	20	7	23	0

ウ 総合判定

(単位：人)

受診者数	異常なし	要指導	要精検
61	14	18	29

エ 8020運動、喫煙と歯周病の関係認知度

(単位：人・%)

	年度	知っている	知らない
8020運動	18	45 (90.0)	4 (8.0)
	19	42 (68.9)	19 (31.1)
喫煙と歯周病の関係	18	26 (52.0)	22 (44.0)
	19	24 (39.3)	37 (60.7)

オ 自覚症状（アンケートより 複数回答）（単位：人・％）

項 目	回答者数
歯ぐきが腫れることがある	6 (10)
歯がしみることがある	13 (21)
歯ぐきから血がでることがある	18 (30)
口臭が気になる	9 (15)
歯の間に食物がはさまる	22 (36)
歯が痛むことがある	6 (10)
義歯が合わない	0 (0)
特に問題なし	9 (15)
その他	1 (2)

カ 普段気をつけていること（アンケートより 複数回答）（単位：人・％）

項 目	回答者数
1日1回時間をかけて磨く	32 (53)
フッ素入りの歯磨剤を使用している	26 (43)
デンタルフロス、歯間ブラシを使用している	10 (16)
かかりつけ歯科医がいる	25 (41)
定期的に歯科の健康診査を受ける	13 (21)
歯の治療は早めに受けるようにしている	23 (38)
定期的に歯石除去を行なっている	7 (11)
その他	1 (2)

(8) まとめ

若い年代だが、歯肉からの出血がある、歯肉が腫れるといった歯周病の自覚症状を持つ方がいるにもかかわらず、歯間清掃補助用具の使用率は低く、歯みがきに時間をかけない、定期健診もしない、という状況にある。

受診者が増加してきていることは、歯に対する意識の向上の第一歩と捉え、これからも一人でも多くの方に受診してもらい、歯周病予防の啓発に努めていきたい。

5 歯周病予防健診

(1) 目的

成人歯科保健に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防に努める。
歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身につける。

(2) 対象

平成19年10月31日までに満40・45・50・55・60・65・70歳の節目になる者

(3) 日時・場所

平成19年7月2日～10月31日 町内歯科医療機関

(4) 実施内容

口腔内及びその周辺診査・保健指導

(5) 相談者状況 (単位：回・人)

区分 年度	受診者数			年齢別			
	総数	男	女	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
17	14	4	10	2	3	5	4
18	22	5	17	5	7	6	4
19	27	8	19	7	2	12	6

(6) 診査結果

ア 歯牙・歯周診査結果 (単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯本数	欠損補綴歯本数 (処置歯の再掲)	平均健全歯 数
27	15	27	13.0	23	12.9

* 欠損補綴歯…失われた歯を人工歯で補ったもの

イ 自覚症状

(アンケートより複数回答) (単位：人)

項目	回答者数
歯ぐきが腫れる	3
歯がしみることがある	3
歯ぐきから血がでる	5
口臭が気になる	7
歯の間に食物がはさまる	13
歯が痛むことがある	1
義歯が合わない	0
特に問題なし	2

ウ 普段気をつけていること

(アンケートより複数回答) (単位：人)

項目	回答者数
1日1回時間をかけて磨く	17
フッ素入りの歯磨剤を使用	4
デンタルフロス、歯間ブラシを使用	2
かかりつけ歯科医がいる	8
定期的に歯科の健康診査受診	1
歯の治療は早めに受ける	11
定期的に歯石除去をしている	1
その他	5

エ 残存歯数 (人・本)

	人数	平均本数
40歳代	7	28.6
50歳代	2	28.0
60歳代	12	26.0
70歳代	6	27.3
計	27	27.1

オ 歯周コード (単位：人)

	0	1	2	3	4
40歳代	0	3	3	1	0
50歳代	0	0	2	0	0
60歳代	0	3	5	3	1
70歳代	0	1	1	4	0

カ 8020運動、喫煙と歯周病の関係認知度 (人・%)

	知っている	知らない	未記入
8020運動	19 (70.4)	7 (25.9)	1
喫煙と歯周病の関係	13 (48.1)	11 (40.7)	3

キ 総合判定 (単位：人)

相談者数	異常なし	要指導	要精検
27	3	7	17

(7) その他 歯の健康づくり得点集計・結果

妊婦歯科健診、わかば健診、歯周病予防健診、健康まつり、生活習慣病予防教室、健康推進員研修会、地域での健康教育時に実施した。大口町の歯の健康状態の傾向を把握し、健康教育に役立て、歯の健康増進につなげていくことを目的としている。

ア 実施人数 (単位：人)

	男	女
40歳未満	12	214 (85)
40歳以上	52	212 (1)
合計	64	426 (86)

() 内は妊婦歯科健診受診者

イ 歯の健康づくり得点で16点以上の者 (単位：人・%)

	男	女	妊婦
40歳未満	6 (50)	69 (32)	17 (20)
40歳以上	33 (63)	115 (54)	0 (0)

ウ 質問項目で0点の者

(単位：人 %)

	40歳未満 男	40才以上 男	40歳未満 女	40歳以上 女	妊婦
歯ぐきがはれますか	3 (25)	12 (23)	36 (17)	33 (16)	12 (14)
歯がしみますか	5 (42)	32 (62)	70 (33)	27 (13)	20 (23)
趣味はありますか	2 (17)	8 (15)	70 (33)	14 (7)	33 (38)
間食をよくしますか	6 (50)	12 (23)	136 (64)	41 (19)	61 (70)
かかりつけの歯医者 さんがありますか	7 (58)	6 (12)	78 (36)	8 (4)	52 (60)
歯の治療は早めに受 けていますか	6 (50)	15 (29)	89 (42)	31 (15)	43 (50)
歯ぐきから血がでま すか	4 (33)	10 (19)	78 (36)	38 (18)	36 (42)
歯みがきを1日2回 以上する	1 (8)	17 (33)	22 (10)	18 (8)	10 (12)
自分のはぶらしがあ る	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (0.4)	0 (0)
たばこを吸いますか	6 (50)	5 (10)	11 (5)	4 (2)	1 (1)

40歳以上の男女とも歯の生活習慣は改善されつつある。40歳以上のメタボリックシンドローム対策の影響もあってか生活習慣に対する意識も増し、歯の健康にも結びついてきているとも考えられる。しかしまだ男性の方が歯周病の自覚症状があると回答した割合が高い。40歳未満の方と40歳以上の男性への歯科健康教育の必要性を感じる。

妊娠期では3割の方が歯周病の自覚症状を持っている状況にある。妊娠期はホルモンの影響で口腔環境も変化するため、小まめな口腔清掃と間食を減らし歯科健診受診で歯周病予防ができるよう母子手帳交付時の健康教育で啓発する。

6 口腔機能向上モデル事業

(1) 目的

いつまでも、いきいきとして暮らしていくために、口腔機能維持、改善をし、高齢者が自立した生活が送れるよう支援していく。

(2) 対象

特定高齢者

(3) 実施時期

平成 19 年 11 月～平成 20 年 2 月 (3 か月)

AM10:00～10:40

(4) 実施回数

1 クール月 2 回の 6 回コース

(5) 従事者

歯科衛生士 保健師 地域包括支援センター職員

(6) 参加者状況

2 名 (男 1 名 女 1 名)

(7) 周知方法

地域包括支援センターから特定高齢者該当者へ連絡訪問し、ちらし配布にて勧誘。参加希望者には、保健センターから電話連絡し、来所日時の予約をとる。

(8) 実施内容

事前	教室の内容の説明をし、同意した上で事前アセスメント実施
1 回目	口腔ケアの説明実施 レクリエーション (手遊び ボール送り)
2 回目	食事時について講話 口腔ケア実践 レクリエーション (歌 手遊び)
3 回目	嚥下について講話 レクリエーション (歌 手遊び)
4 回目	嚥下について講話 レクリエーション (手遊び ボール送り)
5 回目	口腔ケア指導 レクリエーション (ストロー吸い 紙風船サッカー)
6 回目	事後アセスメント レクリエーション (ストロー吸い)

* 毎回嚥下体操、口腔機能向上体操、唾液腺マッサージ「パタカラ」体操を実施。

* 自宅で継続できるように口腔ケアとお口の体操の実施記入できるカレンダーを作成し、実施したら記入して次回教室時に持ってきていただき様子を伺った。

(9) 評価

ア 事前と事後のアセスメントの比較

QOL、食事・衛生、機能面は全員に改善項目がみられた。機能面（RSS T、オーラルディアドコキネシス）は二人とも著しく改善された。

イ 教室終了時の感想

食事の時間が短くなり、量が食べられるようになった。

食事が楽しい。

義歯を作り変えてから食べやすくなり、きれいに手入れするようになった。

義歯の調整をしてから体全体が調子よくなった。

お口の体操をするようになって飲み込みがよくなりむせることもなくなった。

ウ 考察

今回初めて、高齢者の口腔機能の向上マニュアルに沿って計画実施したがモデル事業あったため教室をすすめていく中で、参加者の意見も取り入れて対象者にあった方法・内容に変更したり、できるだけ楽しみながらできるようなゲームを取り入れ、また2人一緒に参加できるように日程調整等をした。

その結果参加者がとても前向きで意欲的であったこともあり、早い段階から変化がみられ、6回のプログラムによる効果はあった。早い段階での口腔ケア、口腔機能訓練は口腔機能を確実に向上させ、生活全般の向上につながる。今後も今回得た結果をもとに高齢者の生活の質を高めるために口腔機能向上に向けての啓発をするとともに教室方法や内容を見直しながら口腔機能向上事業を引き続き行っていきたい。



7 歯の健康センター

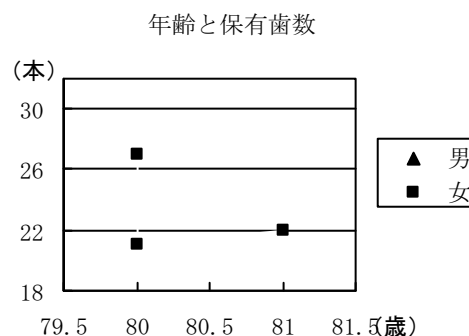
- (1) 目的 歯科保健に対する意識の向上と低年齢児のう蝕の予防、ならびに成人のう蝕・歯槽膿漏による歯の喪失の予防に努める。
- (2) 対象 幼児・成人
- (3) 日時 平成19年 6月 3日(日) 午前9時～11時30分
平成19年11月11日(日) 午前9時～11時30分
- (4) 従事者 歯科医師 歯科衛生士 歯科助手 保健師
- (5) 内容 歯科健診 フッ素塗布 一般歯科相談 歯科健康教育
- (6) 受診状況 (単位：人)

実施年度	実施回数	受診者総数	受診者内訳	
			幼児	成人
平成15年度	2	642	551	91
平成16年度	2	537	463	74
平成17年度	2	390	315	75
平成18年度	2	371	294	77
平成19年度	2	433	349	84

8 はちまるにいまる きゅうまるいちほち 8020・9018運動 歯の健康コンクール

- (1) 目的
生涯を通じた歯の健康づくりの一環として、80歳以上で20本以上の歯がある方・90歳以上で18本以上の歯がある方を表彰し、歯科保健への認識を高める。
- (2) 対象 町内在住の80歳以上の方、90歳以上の方
- (3) 審査方法 歯科医院において審査・歯周病予防健診時
- (4) 表彰日時 平成19年11月3日(土)「ふれあいまつり2007」にて
- (5) 表彰者 3名(女性3名)
- ※ 今年度も老人クラブにも呼びかけることにより、対象者に周知した。
- ※ 表彰者の紹介を広報おおぐちに掲載した。
- ※ 応募者3名(表彰者3名 8020 3名 9018 0名)

対象	平均年齢(歳)	平均保有歯数(本)	平均健全歯数(本)	歯周コード(値・人)				
				0	1	2	3	4
8020	80.3	27.3	5.7	0	1	1	1	0
9018								



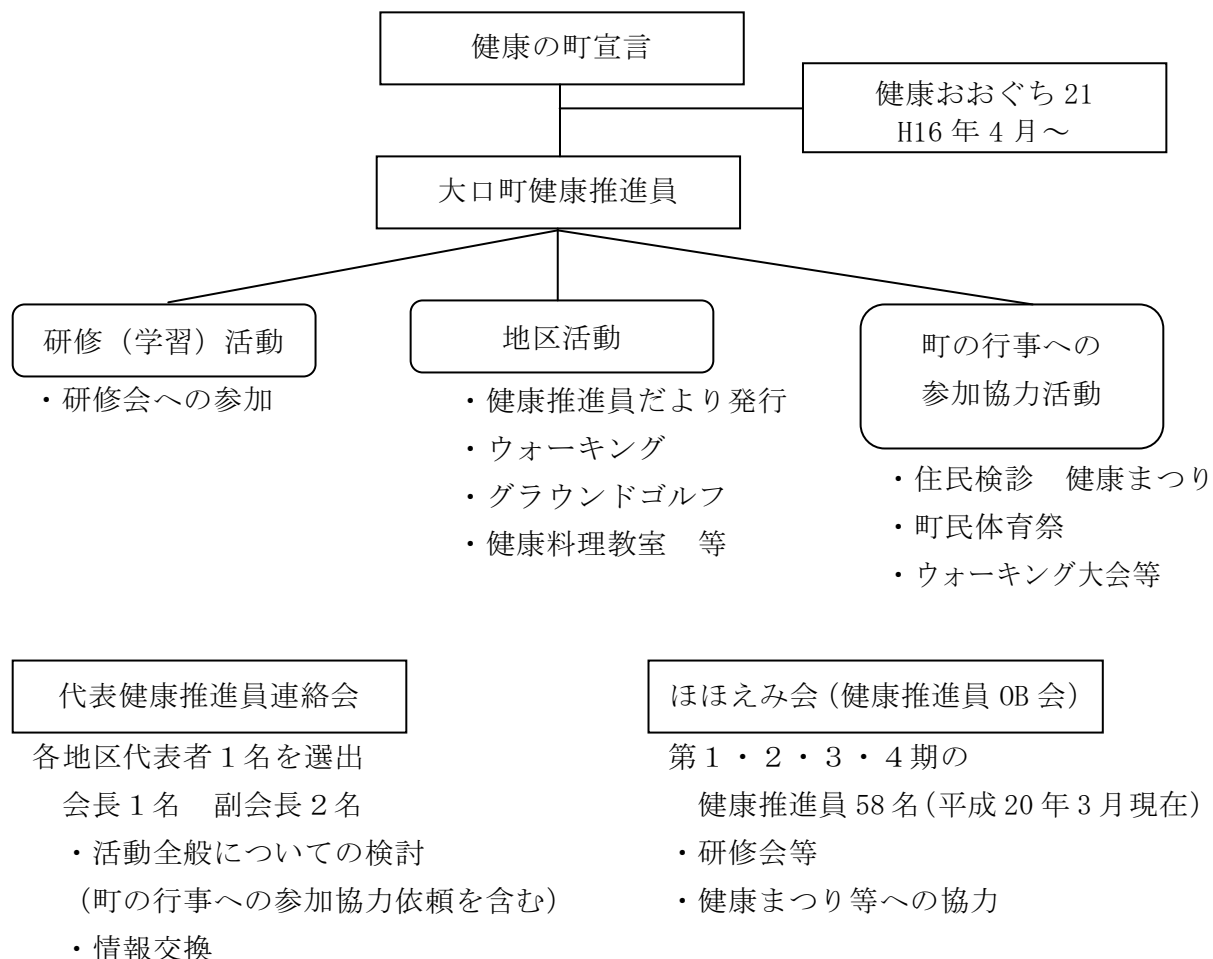
5 健康推進事業

1 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

健康推進員数は概ね100世帯に1名とし、平成19年度からの第5期健康推進員は63名でスタートした。

今年度は、第5期1年目にあたり「自分のからだ（健康）を知ろう！」を目標に「健康おおぐち21」の理解と実践を研修会で学習しながら地域活動においても「健康おおぐち21」の推進内容を中心に今までの地区活動を基盤にして積極的に健康づくりの活動を展開している。着実に健康づくりは町づくりと捉えた「健康おおぐち21」推進の底力となっている。



(1) 健康推進員研修会実施状況

(単位：人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
平成 19 年 4 月 9 日 (月)	健康推進員委嘱式 保健センター及び推進員活動について	保健師	58
5 月 31 日 (木)	「大口町のことを勉強してみよう」 ～大口町の健康づくり計画・国保・介護保 険の現状から予防を考える～	保健師 国保担当 介護保険担当	46
7 月 11 日 (水)	健康づくり活動をはじめる前に 運動実技 健康おおぐち 21「元気体操」を覚えよう！	健康運動指導士	48
10 月 5 日 (金)	先進地視察 あいち健康プラザ 「自分の体力を知ろう！」健康度チェック 講義 「メタボリックシンドローム予防のための運動」	健康運動指導士 医師	40
11 月 15 日 (木)	「80 歳で 20 本の歯残せますか？」 ～8020 をめざして！歯科医師からのメッセ ージ～講義とブラッシング指導	歯科医師 歯科衛生士	33
平成 20 年 2 月 26 日 (火)	講演「こころの健康 ～こころの健康を保 つためには～」 グループワーク	江南保健所 保健師	42

(2) 健康推進員全体活動

(単位：人)

実施月日	内 容	参加人数
平成 19 年 10 月 7 日 (日)	町民体育祭 昼休憩時に元気体操と太極拳に参加	—
11 月 3 日 (土)	健康まつりの一環としてウォーキング大会 各地区から広場までウォーキングコースを 設定し実施	340
11 月 3 日 (土)	大口町ふれあいまつり 2007 にて 健康まつり (健康おおぐち 21 推進)	600

* 健康おおぐち 21 推進のための作業部会「健康クラブ笑顔 21」へ健康推進員代表として、16 年度から 3 名、17 年・18 年・19 年度は、2 名が参加し健康おおぐち 21 を推進していく原動力となっている。

(3) 代表健康推進員連絡会実施状況

実施月日	主な内容
平成19年 4月24日(火)	19年度代表健康推進員連絡会役員選出 19年度健康推進員活動交付金について
6月5日(火)	研修会の報告について 健康おおぐち21推進について 住民(結核)健診及び基本健康診査について 地区活動の情報交換
8月21日(火)	町民体育祭について ふれあいまつり(健康まつり)について ウォーキング大会について 地区活動の情報交換
9月20日(木)	先進地視察研修会について ウォーキング大会について ふれあいまつり(健康まつり)について 町民体育祭について
10月18日(木)	ウォーキング大会について ふれあいまつり(健康まつり)について (参加者数・お弁当数の確認当日のスケジュールと 役割分担) 健康推進員コーナーの作成
11月15日(木)	健康まつり・ウォーキング大会について (反省及び意見・感想) 次回の研修について
平成20年 1月15日(火)	研修会等について 地区活動状況について情報交換 次年度計画について
3月11日(火)	19年度健康推進活動実績報告について 次年度計画について 研修会アンケートについて



(4) 地区自主活動の状況

地 区	活 動 状 況
秋 田	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田さわやかクラブ健康教育 (5月) 47人 (①元気体操・筋トレ②歯科健康教育等) ・太極拳 (7月) 50人 ・秋田区盆踊り大会時綿菓子作り (8月) 健康推進員参加 ・秋田グラウンドゴルフ大会 (9月) 70人 ・大口町ウォーキング大会 (11月) 59人 ・秋田区春季グラウンドゴルフ大会 (3月) 71人
豊 田	<ul style="list-style-type: none"> ・寄せ植え講座「多肉植物のユニークな形と色を楽しむ」 35人 ・早朝ラジオ体操と元気体操 子ども会と合同(7/21~31) 190人 ・大口町ウォーキング大会 (11月) 16人 ・寄せ植え講座「クリスマスを楽しむ」(11月) 30人 ・しなやかお達者の会に参加 (毎月第2・4火曜日) 毎回約10人
大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会(活動内容の検討と反省)(毎月1回) 推進員6人 ・活動内容の検討と打ち合わせ(随時) " ・健康推進員だより発行(年5回) ・ステップアップダンス(毎月2回、第1・3土曜日) 10~15人 ・ゴキブリ団子作り(5月) 27人 ・地区盆踊りの練習(7月から盆まで7回) 約120人 ・地区盆踊り大会(ポップコーン作り)(8月) 約700~800人 ・盆踊り大会参加 27人 ・栄養実習「夏ばてしていませんか?この時期気をつけたいこと」(9月) ・大口町ウォーキング大会(11月) 42人 ・栄養実習「高脂血症に良い食事」(2月) 23人 ・救命講習会 20人
外 坪	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ練習(毎月2回) 毎回約30~35人 ・親善グラウンドゴルフ大会(4月) 40人 ・外坪老人クラブ参加 50人 ・盆踊りの練習(4回) 延200人 ・地区盆踊り大会協賛(8月) 約300人 ・体力アップ体操講習(9月) 30人 ・大口町ウォーキング大会(11月) 39人 ・グラウンドゴルフ大会(3月) 40人

地 区	活 動 状 況	
河 北	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会(活動内容の検討と反省) ・健康教室「体が若返る健康づくり講座」 (生活体力チェック) (7月) ・グラウンドゴルフ大会 ・大口町ウォーキング大会 (11月) ・犬山城ウォーキング下見 	<p>毎回4人</p> <p>13人</p> <p>56人</p> <p>34人</p> <p>4人</p>
余 野	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会(活動内容の検討と反省)(毎月1回) ・健康リズム体操(月2回) ・グラウンドゴルフ大会(5月) ・余野ウォーキング(6月) ・余野夏まつり参加(8月) ・大口町ウォーキング大会 ・バスウォーキング(11月)(飛騨古川) ・寄せ植え(12月) ・健康料理教室(骨粗しょう症予防)(2月) 	<p>10人</p> <p>14人</p> <p>67人</p> <p>23人</p> <p>10人</p> <p>33人</p> <p>45人</p> <p>41人</p> <p>25人</p>
上小口	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ大会(4月) ・寿楽会と元気体操&お口の健康(6月) ・区文化祭及びウォーキング大会(11月) ・太極拳 毎月2回(第1・3水曜日)(7月~3月) ・健康推進員定例会(毎月) ・ポケットパークの草取り(年4回) ・地区安全パトロール 	<p>42人</p> <p>60人</p> <p>平均10人</p> <p>35人</p>
中小口	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ 毎週月曜日(1・8・12月は休み) ・エアロビクス 火曜日 ・頭の若返り・貯筋体操(6月) ・グラウンドゴルフ大会 (中小口・垣田)(7月) ・地区盆踊り大会手伝い(8月) ・大口町ウォーキング(11月) ・秋の健康ウォーキング(寂光院・臨光館) ・グラウンドゴルフ大会(3月) ・上小口グラウンド公園の清掃 	<p>毎回約20人</p> <p>毎回約20人</p> <p>32人</p> <p>35人</p> <p>35人</p> <p>41人</p> <p>41人</p> <p>29人</p>

地 区	活 動 状 況	
下小口	<ul style="list-style-type: none"> 健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（年8回） 金曜ウォーキング（年18回） 下小口盆踊り練習会 下小口グランドゴルフ大会（10月） 大口町ウォーキング大会（11月） 栄養実習「野菜たっぷり冬の温っかメニュー」 下小口ウォーキング大会 	70人 139人 10人 48人 45人 25人 78人
垣 田	<ul style="list-style-type: none"> 健康推進員定例会（活動内容の検討と反省） ナイトウォーキング（4～3月）（火・木・土） グランドゴルフ練習（4～3月）（月・水） グランドゴルフ交流会（中小口と）（7月） 垣田グランドゴルフ大会 大口町ウォーキング大会（11月） 垣田区健康づくり教室（ダイヤ会と合同で）（1月） 春のウォーキング大会（犬山寂光院～成田山）（3月） 	4人 5～6人 8～10人 13人 22人 24人 15人 15人
さつきヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> ナイトウォーキング（4～12月）（毎週木曜日） 一日太極拳教室（6月） 普通救命講習会（9月） 大口町ウォーキング大会 飛騨古川・高山散策 健康料理教室（メタボリックシンドローム予防）（3月） 	平均5～12人 20人 22人 22人 43人 25人



(5) 健康推進員OB会「ほほえみ会」の活動

平成10年5月に発足された第1期健康推進員OB会は49名でスタートし、健康に関する研修会を1～2回とウォーキングを実施し、仲間との友好を深めていた。平成19年4月には、第2期・第3期・第4期健康推進員OBも加わり、会員54名となっている。

現役時代につちかった健康に対する目で地区を越えた幅広い視点での健康を考えていけるよう、「食」「運動」の2部構成で活動を展開している。今年度も、「健康まつり」時に癒しのお茶コーナーを提供したり、旬の野菜の調理実習に協力する等、活動を通して、少しずつではあるが、自分たちの活動を町全体へ発信していけるよう努力を重ねている。

<活動状況>

運 動

実 施 月 日	内 容	参加人数
5月18日(金)	総会及び運動の健康教育 「エクササイズガイドの活用」	15人
11月15日(木)	明治村ウォーキング	12人

食

実 施 月 日	内 容	参加人数
平成20年 2月13日(木)	栄養実習 「高脂血症予防とカルシウムたっぷり料理」 ～おおぐち産 旬の野菜情報から～	23人
3月24日(月)	健康クラブ笑顔21主催 かんたん野菜クッキングにアシスタントで参加	7人

全 体

実 施 月 日	内 容	参加人数
11月3日(土)	「健康まつり」 癒しの抹茶席コーナー	20人

2 「健康おおぐち21」計画推進

平成15年度に「健康づくりの主役は住民」「健康づくり＝町づくり」と捉え、大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と町職員が共に考え策定した。

推進4年目の今年度は、「健康や生活習慣に関するアンケート」調査を行い、それをもとに計画の中間評価を行なった。また、「健康おおぐち21推進作業部会」の「健康クラブ『笑顔21』」が大口町NPO団体に登録し、ふれあいまつり実行委員会にも参加するなど、今までよりも活動範囲を広げ、計画を理解し推進する人を少しずつ増やしながら引き続き住民と行政が協働で計画を推進している。

(1) 平成19年度「健康おおぐち21」推進実施状況

分野	計 画 推 進 内 容
周知・啓発	<ul style="list-style-type: none"> * 私の健康・健康川柳・俳句の活用（広報掲載） * 広報無線によるワンポイントアドバイス * 広報誌への掲載（「みんなですすめる健康おおぐち21」コーナー） * 健康まつり時、メタボリックシンドローム予防に絡めた21の推進
運動	<ul style="list-style-type: none"> * 「ウォーキングマップ」を活用した運動の場づくり 「10分間ウォーキング」（かたつむりの会の活動） * 健康おおぐち21「元気体操」の周知（コミュニティワークセンターにて） * エクササイズガイド2006の周知と活用
食生活	<ul style="list-style-type: none"> * 大口町の旬の野菜の効用とレシピを作りと周知（広報・広報無線・若いお母さん方へ（調理実習の実施）） * 食事バランスガイドの周知と活動
こころ	<ul style="list-style-type: none"> * 「健康イベント」時での啓発、世代間交流など * あいさつ運動 * こころの健康の研修会実施（健康推進員）
たばこ・酒	<ul style="list-style-type: none"> * 町内公共機関等の禁煙・分煙促進 * 愛知県の受動喫煙防止対策推進事業（「たばこダメダス」）の普及 * たばこの健康被害の周知（受動喫煙防止に対する取り組み） * 未成年への健康被害の周知・啓発
歯の健康	<ul style="list-style-type: none"> * 老人クラブでの健康教育 * 健康推進員への健康教育 * わかば健診時歯科健診を実施・歯周病予防健診・妊婦歯科健診を医療機関委託で実施 * 8020表彰を「ふれあいまつり」で実施 * 健康まつり時、歯のコーナーで歯科医師会・歯科衛生士会の参加 * お口の「健口体操」の周知

その他 *中間評価

健康や生活習慣等に関するアンケートの実施 (7月)

*健康おおぐち21中間評価(改訂版)作成(20年3月)

(2)「健康おおぐち21」計画推進の経過

実施年月日	内 容
平成19年4月16日	健康クラブ笑顔21① ・「健康おおぐち21」計画推進について 4年目の方向性 ・中間評価について
5月14日	健康クラブ笑顔21② ・「健康おおぐち21」推進活動について
6月11日	健康クラブ笑顔21③ ・たばこの状況について報告について ・大口町NPO団体への申請について
6月25日	健康づくり推進協議会①
7月9日	健康クラブ笑顔21④ ・中間評価について ・健康実態調査について ・健康づくり推進協議会報告
8月6日	健康クラブ笑顔21⑤ ・健康おおぐち21の推進活動について (かたつむりの会報告・大口町NPO団体の申請・ 健康実態調査終了〈2000件中 915通回収 45.8%〉)
9月10日	健康クラブ笑顔21⑥ ・9/4 大口町NPO団体へ申請
10月1日	健康クラブ笑顔21⑦ ・健康まつりについて
10月15日	健康クラブ笑顔21⑧ ・健康まつりについて
10月23日	健康クラブ笑顔21⑨ ・コミュニティーワークセンターへの「元気体操」実施について ・健康まつりについて
11月13日	健康クラブ笑顔21⑩ ・健康まつりの反省

実施年月日	内 容
11月27日	健康おおぐち推進連絡会 ・健康おおぐち21の中間評価・推進について ・「健康や生活習慣に関するアンケートより」中間評価をふまえて、今後の計画推進について
12月10日	健康クラブ笑顔21⑩ ・健康おおぐち21推進連絡会報告 ・中間評価について (実態調査からの評価および今後の推進策)
1月7日	健康クラブ笑顔21⑪ ・旬の野菜料理実習について ・笑顔の写真展について
2月4日	健康クラブ笑顔21⑫ ・歯の講演会検討 ・笑顔の写真展について
2月21日	健康づくり推進協議会② ・中間評価について
3月10日	健康クラブ笑顔21⑬ ・歯の講演会について ・旬の野菜料理実習について ・笑顔の写真展について
随時	<計画推進に向けての会議等実施状況> * 大口町健康づくり推進協議会 計 2回 * 健康おおぐち21推進連絡会 計 1回 * 健康クラブ笑顔21 計 14回 * 運動部会 計 8回 * 食生活部会 計 16回 * 歯部会 計 2回 * ころろ・たばこ部会 計 1回 * 周知・啓発部会 計 2回

- * 9/28 10/11 10/19 11/1 11/16 健康まつり(連絡会)(5回)
- * 9/5 南小学校にて元気体操
- * 10/7 町民体育祭にて元気体操
- * 10/24 コミュニティーワークセンターにて元気体操
- * 3/22~4/4 笑顔の写真展
- * 3/24 旬の野菜レシピの調理実習「かんたん野菜クッキング」

(3) 計画見直しと中間評価

ア 概要

運動分野

運動不足と感じている人が多くまた、健康のため特別なことをしなければいけないというイメージとそのための時間がなかなか取れない 30 歳代・40 歳代の現状を踏まえ、分野名を「運動と生活活動」に変更した。

また目標値が全体に高めであったため、策定値と中間値から目標値を設定し直した。

食生活分野

男性は 64 歳以下で「甘辛い味を好む」傾向があること、40 歳代に肥満が多いこと、あるいは若い世代（20 歳～39 歳）で外食を利用する頻度が高いことなどから、塩分とエネルギー摂取量に関しより一層の啓発に努める。

一方、「野菜を毎食意識して食べる人の増加」「適正体重を維持するための食事内容・量を知っている人の割合」は、目標値をクリアしたため、目標値を高め設定した。また、「よくかんで食べよう」に関する評価指標を追加した。

こころ分野

30 歳代の女性の疲労感やストレスを感じる割合が高く、趣味をもっている割合が少ない現状と運動習慣のない人がストレスのある割合が高いという運動とストレスの関係も浮かび上がり、策定値と中間値から各目標値を下げた。

たばこ・アルコール分野

受動喫煙防止の取り組みのための指標を 2 項目追加した。

アルコールでは、アルコールが体に及ぼす影響についての指標を追加した。

歯分野

目標に対する取り組み指標が少なかったことから、歯周病予防に対する取り組みのための指標を 3 項目追加した。

生活習慣病予防

平成 20 年度を初年度とした、大口町特定健康診査等実施計画の推進との相乗効果で、住民の方の健康度を上げていくために生活習慣病予防分野を追加した。この分野では、①メタボリックシンドローム予防 ②がんの予防 ③骨粗しょう症予防 に対し、健康診査を生かした推進計画を盛り込んだ。

イ 各分野の指標と新目標値

今年度は、計画の中間評価の年であったため、計画を中間評価するにあたり、指標等の達成の状況から事業評価を分析する際の参考とするため、健康や生活習慣等に関するアンケート調査を実施した。各分野別の指標について達成状況を評価するため、策定値と中間値との比較を行った。評価基準に関しては、国の判定区分を利用した。

評価基準	
A・・・中間値が目標値を達成している	B・・・中間値が策定値より改善している
C・・・中間値が策定値と同じか悪化している	D・・・基準値の変更により判定できない
E・・・策定時のデータがない。または策定時以降の新しいデータがない。	

【運動・生活活動分野の指標・目標】

目標	評価指標	資料	新指標	策定値	中間値	判定区分	策定時目標値 ↓ 新目標値
自分の健康維持増進に必要な運動量を知ろう	体力テストを受け自分の体力を確認している人の増加	大口町「健康や生活習慣等に関するアンケート調査報告書」		未把握	10.6%	E	100%以上 ↓ 20%以上
自分にあった運動習慣を身につけよう	週2回以上の運動を1年以上続けている人の増加〔男性〕		○	17.1%	29.7%	—	35%
	週2回以上の運動を1年以上続けている人の増加〔女性〕		○	19.2%	25.5%	—	30%
	運動不足だと思う人の減少（全体）			74.5%	71.9%	B	各年代で設定 60%以下 60%以下 50%以下 70%以下 80%以下 80%以下 ↓ 全体55%以下
	〃（65歳以上）			未把握	53.2%	A	
	〃（60～64歳）			未把握	62.5%	E	
	〃（40歳代男性）			80.7%	82.1%	C	
	〃（30歳代女性）			91.0%	88.9%	B	
〃（20歳代女性）			91.6%	77.3%	A		
日常生活の中で意識して動こう	一日に歩く時間90分以上の人の増加（全体20～64歳）			25.6%	23.8%	C	各年代で設定 30%以上 35%以上 35%以上 25%以上 25%以上 25%以上 ↓ 全体30%以上
	〃（65歳以上）			未把握	14.9%	E	
	〃（60～64歳）			31.5%	24.5%	C	
	〃（40歳代男性）			20.3%	20.5%	B	
	〃（30歳代女性）			20.9%	24.2%	B	
	〃（20歳代女性）			18.4%	16.7%	C	
	一日に歩く時間30分以下の人の減少			24.0%	23.5%	B	各年代で設定 20%以下 15%以下 15%以下 20%以下 20%以下 25%以下 ↓ 20%以下
	〃（全体20～64歳）			未把握	27.7%	E	
	〃（65歳以上）			18.4%	16.8%	B	
	〃（60～64歳）			18.4%	16.8%	B	
	〃（40歳代男性）			31.2%	30.8%	B	
	〃（30歳代女性）		25.1%	36.4%	C		
	〃（20歳代女性）		34.1%	21.2%	A		

【食生活分野の評価指標・目標】

目標	評価指標	資料	新指標	策定値	中間値	判定区分	策定時目標値 ↓ 新目標値
毎日野菜をたくさん食べよう	漬物以外の野菜を毎食（1日3食）意識して食べる人の増加	大口町「健康や生活習慣等に関するアンケート調査報告書」		20～29歳 29.0% 30～39歳 36.8% 40～49歳 46.7% 50～59歳 51.5% 60～64歳 58.4% (全体 48.0%)	20～29歳 38.6% 30～39歳 41.8% 40～49歳 58.3% 50～59歳 60.5% 60～64歳 68.7% (全体 59.2%)	A	全体55%以上 ↓ 70%以上
塩分を減らそう	煮物などの味付けを「甘からいほう」と自覚する人の減少			20～64歳 43.4% (男45.5% 女42.0%)	20～64歳 44.5% (男57.4% 女38.5%)	C	20～64歳 40%以下
				65歳以上 63.6% (男64.1% 女63.1%)	65歳以上 40.0% (男47.4% 女36.0%)	A	65歳以上 55%以下
腹八分目で自分の適量を知ろう	適正体重を維持するための食事内容・量を知っている人の増加			20～29歳 21.3% 30～39歳 29.5% 40～49歳 34.9% 50～59歳 45.3% 60～64歳 48.4% (全体 39.6%)	20～29歳 43.2% 30～39歳 47.3% 40～49歳 53.0% 50～59歳 56.4% 60～64歳 61.1% (全体 55.6%)	A	全体50%以上 ↓ 75%以上
	BMI25以上の人の割合の減少 (30～59歳の男性)			30～39歳 23.9%	30～39歳 14.0%	A	男性 20%以下
				40～49歳 25.2%	40～49歳 28.2%	C	
				50～59歳 20.5%	50～59歳 21.8%	C	
	BMI25以上の人の割合の減少 (40～64歳の女性)			40～49歳 12.8%	40～49歳 12.5%	A	女性 17%以下
				50～55歳 20.8%	50～55歳 16.8%	A	
				60～64歳 24.3%	60～64歳 20.9%	B	
	BMI25以上の人の割合の減少 (40～64歳の女性)		20～29歳 27.4%	20～29歳 12.1%	B	女性 10%以下	
			30～39歳 19.9%	30～39歳 19.2%	B		
			40～49歳 12.4%	40～49歳 11.1%	B		
よくかんで食べよう	1回の食事を食べる時間が20分以上の人の割合		○	全 体 20.7%		全体 30%以上	

【たばこ・アルコール分野の評価指標・目標】

目標	評価指標	資料	新指標	策定値	中間評価値	判定区分	策定時目標値 ↓ 新目標値
喫煙は決められた場所で	禁煙・完全分煙を実施している施設の増加	たばこダメダ ス認定施設 (受動喫煙防止 対策実施施設)	○	未把握	23 施設	—	40施設
	家庭での喫煙場所が決ま っていない人の減少		○	未把握	29.5%	—	20%以下
たばこの害を知ろう	喫煙による健康被害を知 っている人の増加	大口町「健康 や生活習慣等 に関するアン ケート調査報 告書」		肺がん 94.5%	95.0%	B	100%
				ぜんそく 53.0%	60.5%	B	
				気管支炎 61.1%	66.8%	B	
				心臓病 28.0%	40.9%	B	
				脳卒中 17.6%	39.6%	B	
				胃潰瘍 16.5%	23.1%	B	
				妊娠に関する異常 72.7%	64.2%	C	
				歯周病 14.5%	27.2%	B	
喫煙者を減らそう	喫煙者を減らす	母子手帳発行 時アンケート		男性喫煙者 51.2%	35.5%	B	10%以下
				女性喫煙者 10.5%	7.5%	B	2%以下
	妊婦の喫煙率を減らす			3.5% (9/257 人)	3.4% (8/233 人)	B	0%
楽しく健康的に飲める お酒の適量を知ろう	節度ある飲酒量を知っ ている人の増加	大口町「健康や生活 習慣等に関するア ンケート調査報告 書」		64.1%	58.6%	C	100%
	健康診査の肝疾患の要 指導・要医療者の割合の 減少	老人保健事業 報告	○	男性 8.7% (H16 年度)	12.6%	—	8%以下
				女性 0.5% (H16 年度)	0.7%	—	0.5%以下

【こころ分野の評価指標・目標】

目標	評価指標	資料	新指標	策定値	中間値	判定区分	策定時目標値 ↓ 新目標値
あいさつができるようになろう	誰かとあいさつしている人の割合	大口町「健康や生活習慣等に関するアンケート調査報告書」		未把握	93.3%	E	100%
家庭や地域の中で交流をもとう	近所の人と付き合いがない人の割合の減少			あまりない人 24.0%	あまりない人 23.5%	B	14%以下 ↓ 20%以下
				ほとんどない人 15.7%	ほとんどない人 12.0%	B	7%以下 ↓ 10%以下
	最低1日1回きちんとした食事を家族等2人以上でとる人の割合の増加			全体 75.7%	全体 87.1%	A	全体 80%以上 20~29歳 70%以上 30~39歳 65%以上 ↓ 90%以上
				20~29歳 64%	20~29歳 86.4%	A	
				30~39歳 59.5%	30~39歳 88.4%	A	
	自分なりの規則正しい生活を身につけよう		目が覚めたときに、疲労感が残ることがある人〔週3日以上〕の割合の減少		31.7%	36.3%	C
ストレスとうまく付き合いおう	ストレスが大きくて逃げ出したいと思っている人の割合の減少			よくある 6.5%	よくある 10.7%	C	3.2%以下 ↓ 5%以下
				ときどきある 31.1%	ときどきある 32.2%	C	15%以下 ↓ 20%以下
趣味や生きがいをもとう	趣味を持っている人の割合の増加			20~64歳 61.1%	20~64歳 58.8%	C	80%以上 ↓ 70%以上
				65歳以上 78.6%	65歳以上 68.1%	C	90%以上 ↓ 80%以上

[歯分野の指標・目標値]

目 標	評価指標	資料	新指標	策定値	中間値	判定区分	策定時目標値 ↓ 新目標値
いつまでも自分の歯で食べよう	自分の歯が60歳で24本以上ある人の増加	大口町「健康や生活習慣に関するアンケート調査報告書」		60歳～64歳 39.6%	60歳～64歳 37.8%	C	60歳～64歳 50%以上
	8020を知っている人の増加			20歳～64歳 49.7%	20歳～64歳 68.7%	B	100%
	かかりつけの歯科医を持つ人の増加		○	74.8%	—	—	90%
	定期的に歯科健診、歯石除去をしている人の増加		○	17.9%	—	—	30%
	歯間ブラシ、糸楊枝使用者の増加		○	16.5%	—	—	30%
いつまでも明るく、歯を出して笑おう	歯の健康づくり得点が16点以上の人の割合の増加			未把握	男性 24.0% 女性 24.6%	E	56%以上



【生活習慣病予防の評価指標・目標】

目標	評価指標	資料	新指標	策定値	中間値	判定区分	策定時目標値 ↓ 新目標値
健康的な生活習慣を身につけよう	健康的な生活習慣を送っていると思う人の増加	大口町「健康や生活習慣等に関するアンケート調査報告書	○		57.3%		70%
	日頃から意識的に身体を動かすなど運動している人の割合の増加		○		40.2%		60%
	1日の食事の量やバランスを意識し、実践している人の割合の増加		○		33.3%		50%
	外食や食品を購入する際に栄養成分表示を意識して選ぶ人の増加		○	男性 24.3%		男性 40%	
				女性 44.8%		女性 60%	
健康管理のために健診を受け結果を生かそう (メタボリックシンドローム予防)	特定健診の受診率の向上		○		H20年度より実施		65% (*1)
	特定保健指導の実施率の向上		○		H20年度より実施		45% (*2)
	「現在は健康なため受診する必要がない」と感じている人の割合の減少		○		28.4%		15%
	メタボリックシンドロームの該当者・予備軍の減少		○				10%の減少
	メタボリックシンドロームを知っている人の割合の増加		○		74.9%		100%
がんの早期発見のためにがん検診を受けよう (がんの予防)	受診者数の増加 (*3)	保健のまとめ	○		胃：453人 大腸：605人 肺：931人 子宮：312人 乳：375人 前立腺：79人		増加
骨密度を健康に保とう(骨粗しょう症予防)	骨密度測定での正常域の人の割合の増加		○		41.1% (H19年度)		50%

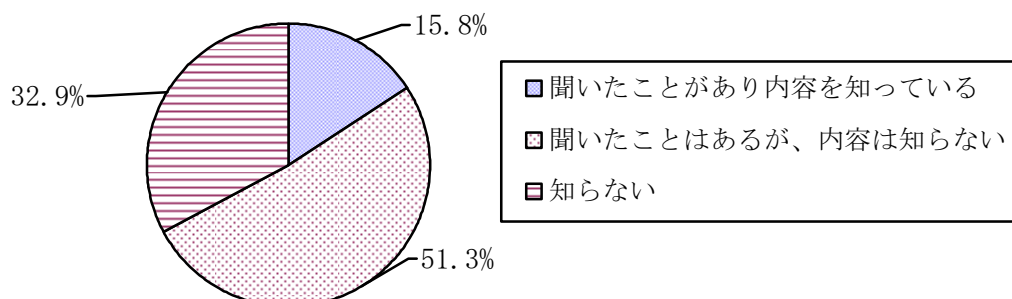
(*1) (*2) : 大口町特定健診等実施計画より

(*3) : 大口町保健センターで実施する検診について

ウ まとめ

(ア) 計画の認知度

中間評価の実施のために町民に対して無作為抽出で行なった「健康や生活習慣等に関するアンケート調査」によれば、健康おおぐち 21 を「聞いたことがあり内容を知っている」15.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」51.3%も含めると、67.1%の認知度であった。



(イ)各分野の評価

分 野 項 目	A	B	C	D	E
(1) 運動分野の指標・目標値	3	7	5	0	4
(2) 食生活分野の指標・目標値	6	4	3	0	0
(3) ところ分野の指標・目標値	3	2	5	0	1
(4) たばこ・アルコール分野の指標・目標値	0	10	2	0	0
(5) 歯分野の指標・目標値	0	1	1	0	1

「A評価（中間値が目標値を達成している）」が20.7%、「B評価（中間値が策定値より改善している）」が41.4%となっているのに対し、「C評価（中間値が策定値と同じか悪化している）」が27.6%となっているが、全体的な評価としては改善されつつある状況にあるといえる。

分野別で見ると、「運動」はA評価が3項目、B評価が7項目で徐々に改善されつつある反面、C評価が5項目あり指標によってばらつきが見られる。「食生活」ではA評価が6項目、B評価が4項目と高評価が得られ、順調に改善されているといえる。「ところ」は、A評価3項目、B評価2項目、C評価5項目でありやや不十分な結果となった。「たばこ・アルコール」は、B評価が10項目、C評価2項目であり、目標値には達していないが徐々に改善されつつある。「歯」は、未把握の項目が多いことや指標自体が少ないことから後述とする。

各分野とも、いくつかの目標のうち、「はじめの一步」として掲げた重点目標については、一定の成果が見られたが、他の項目で推進が不十分であったものについては、改善が見られない状況であった。また、A評価で目標達成されたものについても、策定時の目標や評価指標の設定が適切であったかを検討し見直しを図ることも必要と思われる。

計画の中間年度における評価を総括すると「改善されつつある状態であるが、目標に向かってさらなる努力が必要」と考察する。

(4) 健康おおぐち21推進イベント

ア 目的

健康おおぐち21の推進として、より多くの人へ計画の周知と健康づくりのきっかけとなるよう今年度は、ふれあいまつり2007の中で「健康まつり」として実施。

イ 日時

平成19年11月3日(土) 午前10時～午後3時

ウ 場所

健康文化センター 1階

エ スタッフ 合計 120人

健康課8人・保険年金課6人・健康クラブ笑顔21 10人(内2人は、健康推進員)
健康推進員50人・ほほえみ会12人・太極拳6人・若歩会4人
脱メタボおじさまの会6人・国保連合会保健師2人・歯科医師会1人
歯科衛生士会3薬剤師会2人・断酒会6人・管理栄養士(雇)1人・江南保健所 3人

オ 内容及び参加者数

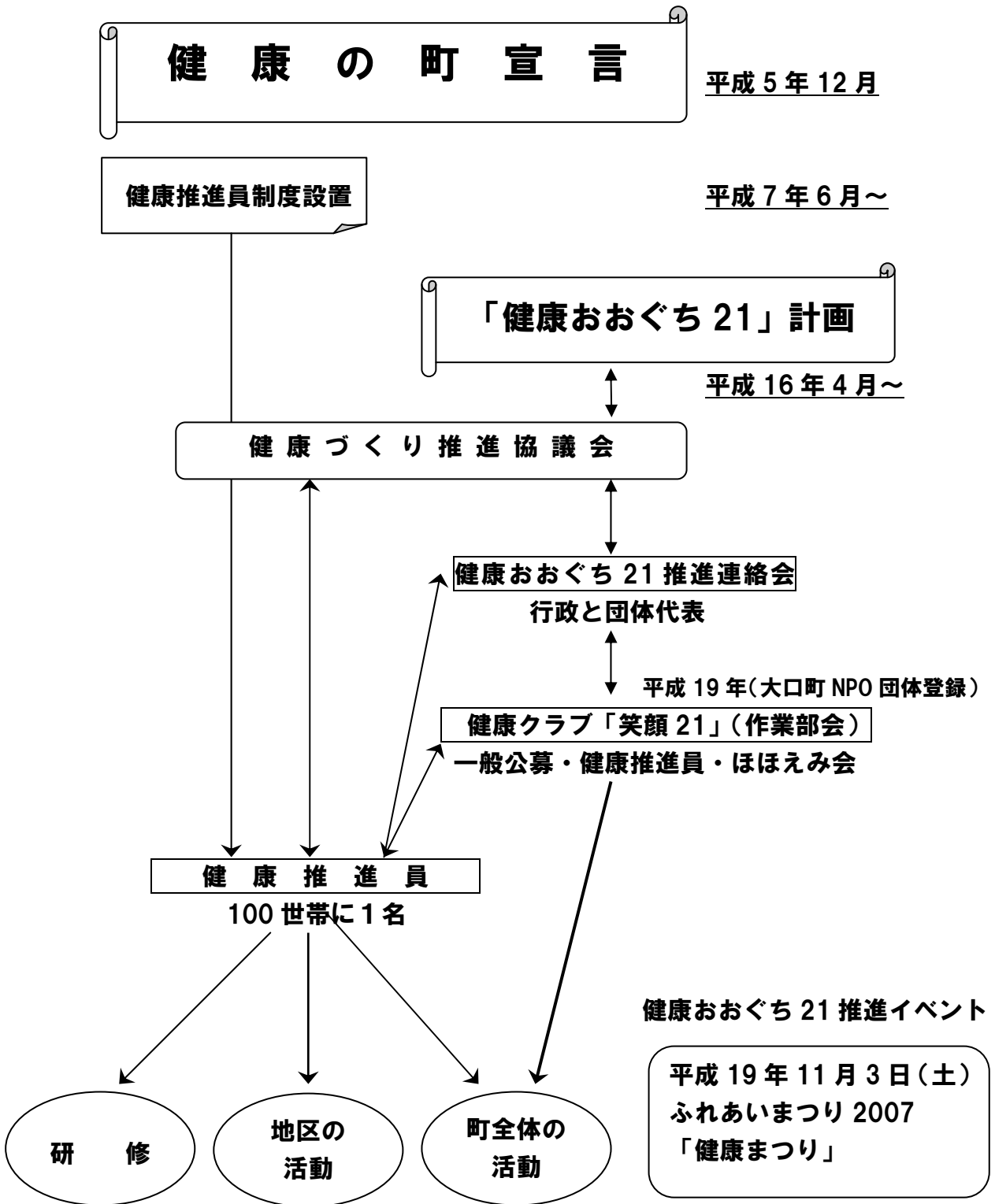
全体の参加者 約600人

	内 容	参加者数
周 知	健康ビンゴ ハッピースマッピー販売	600人 36個
運 動	ウォーキング大会 体力測定 チャレンジ3000歩 一步幅測定 カロリージャンプ みんなで「元気体操」 脱メタ活動紹介・クイズ 運動クイズ 血液サラサラ(保険年金課) 脳年齢(保険年金課) 体内脂肪測定(保険年金課) 体のバランスチェック(保険年金課) 5階トレーニングセンター ウォーキングマップの紹介	345人 218人 75人 250人 231人 50人 96人 96人 125人 46人 150人 154人 94人 70部
食生活	旬の野菜料理実演&試食 塩分どれだけあるかな 食事バランスチェック 手ばかり体験コーナー	80人 128人 54人 123人
こころ	薬草茶・ハーブティー お肌チェック 2階癒しの提案コーナー 抹茶 こころの相談コーナー	400杯 133人 120人 200杯 23人

	内 容	参加者数
たばこ	公共施設の実態調査 掲示	
	スモーカーライザー	94人
	禁煙グッズの紹介	120人
	クスリの相談	10人
	たばこ害クイズ	136人
アルコール	アルコールパッチテスト	169人
	断酒相談	0人
	アルコールクイズ	125人
歯	8020横顔パネル 掲示	
	8020表彰式	100人
	歯科医師の相談コーナー・口臭測定	23人
	咬む力調べてみよう	100人
	口腔ケアグッズの展示	83人
	歯の健康得点	105人



「健康推進員活動と健康おおぐち21」



6 感染症予防事業

1 予防接種

今日では感染症の流行が急速に減少し、予防接種によって獲得した免疫が感染症の流行を抑制していることが忘れられてしまいがちであるが、予防接種により社会全体の免疫水準を維持するためには、予防接種の接種機会を安定的に提供し一定の接種率を確保することが重要である。

本町では予防接種法の改正に基づき、より安全で有効な接種を実施するため、平成7年度からBCG及びポリオ以外の予防接種を個別予防に切り替えた。平成13年11月の法改正では、65歳以上の高齢者等を対象としたインフルエンザ予防接種が二類疾病として市町村の行なう予防接種に追加され、従来の定期接種は一類疾病とされた。

平成9年度からは電算システムにより、未接種者に対する接種勧奨を行ない、接種率の向上に努めている。

平成19年4月より結核予防法が廃止され、BCG予防接種が予防接種法に位置づけられた。また、平成19年に10代及び20代を中心とした年齢層で麻しんが大流行したことを受けて、麻しん排除計画が策定された。これにより平成20年4月より、麻しん風しんの定期予防接種対象が現行に加え、5年間の経過措置として中学校1年生、高校3年生に拡大される。

(1) 個別接種実施体制

就学前の乳幼児に対しては出生届時に保険年金課において、転入者については保健センターで予防接種予診票綴と「予防接種と子どもの健康」を交付し、就学児の接種対象者については、その都度学校を通じて予防接種予診票を配付し、予防接種を受けるよう周知している。

インフルエンザ予防接種は、対象者に個別通知で予診票を送付し、委託医療機関にて一部負担金(1,000円)を支払い、接種を受けるよう周知している。

◆ 予防接種会場 ◆

予防接種の種類	接種方法	接種会場
三種混合(百日せき・ジフテリア・破傷風)	個別接種	大口町・扶桑町 江南市・犬山市の 委託医療機関(予約制)
二種混合(ジフテリア・破傷風)		
麻しん・風しん混合(MR)		
麻しん		
風しん		
日本脳炎		
インフルエンザ		
ポリオ(急性灰白髄炎)	集団接種	保健センター
BCG		

◆ 個別接種の種類と接種期間 ◆

対象	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳幼児	三種混合 麻しん・風しん (MR)	←—————→											
	麻しん 風しん 日本脳炎*	←—————→											
小学生 6年生	二種混合				↔ 7/20~8/31								
小学生 4年生	日本脳炎*	↔		←—————→ (転入者・接種もれ者)									
65歳 以上等	インフルエンザ ^ア								↔ 11/1~12/28				

*日本脳炎予防接種は平成17年5月30日から引き続いて、積極的接種勧奨を差し控えている。ただし、接種を特に希望する場合は、同意書に署名の上、定期接種として接種は可能である。

(2) 定期接種

		対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
ジフテリア 百日せき 破傷風	沈降精製 DPT ワクチン	1期初回 生後3月~90月未満	生後3~12月	3回	3~8週
		1期追加 生後3月~90月未満	1期初回接種(3回) 後、12~18月	1回	1期初回接種終了後、6か月以上の間隔をおく
	DT ワクチン	2期 11歳~13歳未満	小学校6年(12歳)	1回	
麻しん 風しん	乾燥弱毒性麻しん 風しん(MR) ワクチン	1期 生後12月~24月未満		1回	
	又は 単独ワクチン	2期 5歳以上7歳未満の 者であって就学前の一年間		1回	

	対 象 年 齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
日本脳炎	1 期初回 生後6月～90月未満	3 歳	2 回	1～4 週
	1 期追加 生後6月～90月未満	4 歳	1 回	1 期初回接種終了後概ね1年おく
	2 期 9～12 歳	小学校4年 (10 歳)	1 回	
ポリオ (急性灰白髄炎)	生後3～90月未満	生後3～18月	2 回	6 週以上
インフルエンザ	65 歳以上等の方		1 回	—

(3) 実施状況

ア 三種混合

第1期初回

(単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者			完了者接種率 (B/A)
		1 回目	2 回目	3 回目(B)	
18 年度	280	246	250	239	85.4
19 年度	307	262	272	279	90.9

第1期追加

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18 年度	322	232	72.0
19 年度	302	233	77.2

イ 二種混合

第2期

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18 年度	244	211	86.5
19 年度	221	190	86.0

ウ 麻しん・風しん混合 (MR)

第1期

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18 年度	260	230	88.5
19 年度	298	262	87.9

第2期 (単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18年度	250	221	88.4
19年度	229	211	92.1

エ 麻しん (単位：人・%)

	対象者		被接種者	完了者接種率
18年度	第1期	—	0	—
	第2期	—	3	—
19年度	第1期	—	0	—
	第2期	—	0	—

オ 風しん (単位：人・%)

	対象者		被接種者	完了者接種率
18年度	第1期	—	2	—
	第2期	—	6	—
19年度	第1期	—	0	—
	第2期	—	3	—

カ 日本脳炎

第1期初回 (単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者		完了者接種率(B/A)
		1回目	2回目(B)	
18年度	249	0	0	0
19年度	—	77	78	—

第1期追加 (単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18年度	236	0	0
19年度	—	32	—

第2期(小学4年生) (単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18年度	276	0	0
19年度	—	10	—

キ ポリオ

(単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者		完了者接種率 (B/A)
		1回目	2回目(B)	
18年度	248	238	210	84.7
19年度	288	257	251	87.2

ク インフルエンザ (65歳以上の高齢者等)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
18年度	3,715	2,433	65.5
19年度	3,966	2,648	66.8



2 結核予防

(1) BCG接種

ア 対象年齢

生後6か月未満

(ただし、生後6か月までの期間で医学的に接種が不適当とされた乳児は、1歳に達するまでの期間)

イ 接種回数

1回

ウ 接種方法

保健センターでの集団接種

(2) 実施状況

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	接種率
18年度	254	252	99.2
19年度	257	257	100.0

(2) 住民（結核）検診

ア 目的

全地区において、検診、健康相談を行い、結核やその他の疾病の予防、早期発見、健康保持に関する知識の普及、健康増進の啓発を行う。

イ 対象

40歳以上で、会社、学校等に勤務していない方
 （今年度より、結核予防法の改正に伴い40歳以上の方が対象となる）

ウ 日時

6月26・27・28・29日

エ 内容

胸部レントゲン検査（結核・肺がん検査）
 （希望者のみ、がん検診申込受付・健康相談・血圧測定・体力測定）

オ 従事者

保健師 管理栄養士 事務員 委託機関（医師を含む）

カ 実施状況

(ア) 年度別年齢別受診者状況 (単位：人)

年度 \ 年齢	受診者数	15～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
15	711	12	81	45	109	278	186
16	635	14	87	43	78	265	148
17	641	8	65	39	68	295	166
18	574			28	67	276	203
19	508			26	56	218	208

(イ) 胸部レントゲン検査 (単位：人)

	X線間接撮影
17年度	641
18年度	574
19年度	508

※平成16年度より、簡易体力チェック（片足立ち・イスからの立ち上がり・握力）を実施。

(ウ) 胸部レントゲン検査結果（異常所見ありの内訳）

結果	人数								
要観察者	17名								
要精検者	11名 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">精密検査結果</td> </tr> <tr> <td>肺結核1名</td> <td>その他2名</td> </tr> <tr> <td>肺気腫1名</td> <td>未受診3名</td> </tr> <tr> <td>異常なし4名</td> <td></td> </tr> </table>	精密検査結果		肺結核1名	その他2名	肺気腫1名	未受診3名	異常なし4名	
精密検査結果									
肺結核1名	その他2名								
肺気腫1名	未受診3名								
異常なし4名									
計	28名								

※要観察者とは異常所見を認めるが精査を必要としない者
 ※その他（気管狭窄の疑い）

7 救急医療

1 救急医療の取り組み

地域住民が事故や急病など緊急の場合に、適切な医療がより早く受けられるような救急医療体制については、だれもが安心して日常生活を送るための基盤として、社会的要請が強い。

大口町においては、在宅当番医制による第一次救急医療体制、病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

2 第一次救急医療

休日における救急患者の初期医療に対応するため、扶桑町・大口町の医療機関において在宅当番医制により実施している。

(1) 実施医療機関

扶桑町 14 医療機関
大口町 7 医療機関

(2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日数	6 (2)	7 (3)	4 (1)	6 (2)	4 (1)	7 (3)	5 (1)	6 (2)	8 (3)	8 (4)	5 (1)	6 (2)	72 (25)

※ () 内は、大口町の医療機関分
診療時間 9:00~12:00
14:00~17:00

3 第二次救急医療

第一次救急医療機関の後方病院として、入院又は緊急手術等を要する救急患者に対する医療を確保するため、尾張北部二次救急医療圏（犬山市、江南市、岩倉市、扶桑町、大口町）において病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

(1) 実施医療機関

4 医療機関

(2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
休日	6	7	4	6	4	7	5	6	8	8	5	6	72
夜間	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366

8 調査・研究等

1 学生実習指導

公衆衛生の視点を持った保健師、管理栄養士、看護師を育成するため、地域で行われている公衆衛生看護・栄養活動を学ぶ場として実施している。多岐にわたる役割の中で、生活の基盤となる公衆衛生の実践を学び、臨床と地域の連携を進めていく上でも大切な場となっている。また学生指導を通して、日々行っている保健活動を改めて見直す機会となっている。

学 校 名	養成課程	実習生数（人）	実習期間
尾北看護専門学校	看護師	4	9月18日～21日
		3	10月9日～12日
		2	10月29日～11月2日
		3	11月19日～22日
愛知県立看護大学	保健師	3	7月9日～19日
名古屋大学医学部 保健学科	保健師	2	6月18日～27日
愛知医科大学 看護学部	保健師	2	7月～10月

※学生は母子保健・成人保健及び住民と協働で進める健康づくりの取り組みを見学し、また対象者の特徴にあわせた媒体作成、健康教育、地区把握等を学ぶ。



2 発表等

実施年月日	内 容	場所及び発表者
11月30日(金)	健康日本21あいち計画地域推進研修会 「健康おおぐち21の推進状況」	半田保健所 保健師

3 健康おおぐち 2 1 中間評価（健康や生活習慣等に関するアンケート調査）

ア 目的

平成16年4月から「健康で笑顔のおおぐち 今日も元気、明日も元気」を目標に、健康づくり計画「健康おおぐち 2 1」を9年計画で推進しており、中間年度にあたる今年度の計画の見直しにあたって、指標等の達成の状況から事業評価を分析する際の参考とするため、アンケート調査を実施した。また、医療費適正化への具体的な取り組みとして平成20年度から実施することとなる特定健康診査・特定保健指導において、住民自身がメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）をはじめ生活習慣病の要因となる生活習慣を改善し、健康管理できる支援や環境づくり等を行うための「特定健康診査等実施計画」の策定のための参考資料とした。

イ 対象

20歳以上の住民（20歳～64歳までの国保加入者）：2,000人

ウ 調査方法

郵送による配布・回収

エ 調査期間

平成19年7月2日～7月20日

オ 調査結果

別冊「健康や生活習慣等に関するアンケート調査報告書」のとおり
（調査回収数 915人 回収率45.8%）

カ まとめ

今回の調査結果をもとに、計画の各分野別の指標について達成状況を評価するため、策定値と中間値との比較を行なった。（結果については、P104～P111に掲載）

大口町「健康や生活習慣等に関するアンケート調査」ご協力をお願い

住民の皆様には日頃から町政にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。
大口町では、平成16年4月から「健康で笑顔のおおぐち 今日元気、明日も元気」を目標に、健康づくり計画「健康おおぐち21」を9年計画で推進しており、中間年度にあたる今年度は計画の見直しをいたします。また、医療費適正化への具体的な取り組みとして平成20年度から実施することとなる特定健康診査・特定保健指導において、住民の皆様ご自身がメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）をはじめ生活習慣病の要因となる生活習慣を改善し、健康管理できる支援や環境づくり等を行うための「特定健康診査等実施計画」も策定いたします。

計画の策定にあたって、被保険者の皆様に健康や生活習慣、および健診の受診に対する意識や関心についてお尋ねし、その結果を参考資料とさせていただきます。町内にお住まいの満20歳以上の方の中から無作為に2,000人の方をお選びし、アンケート調査を実施します。

このアンケート調査は調査票・返信封筒とも無記名とし、統計的に処理しますので、個人が特定されるような内容が公開されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成19年7月

大口町長 酒井 鉄

【ご記入にあたっての留意点】

- 必ずあて名の方ご自身がご記入ください。
- あてはまる回答を選び、その番号を囲むように○印を記入してください。
「その他」を選んだ場合は、具体的な内容を（ ）にご記入ください。
- ご記入頂いた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
平成19年7月20日（金）までにご投函ください。
- 調査内容で不明な点などがございましたら、下記にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 大口町 保健センター

電 話 0587-94-0051

FAX 0587-94-0052

あなた自身についてお聞きします

- 問1 性別はどちらですか。(○は1つだけ)
1 男性 2 女性
- 問2 年齢は何歳ですか。(平成19年7月1日現在) (○は1つだけ)
1 20～24歳 7 50～54歳
2 25～29歳 8 55～59歳
3 30～34歳 9 60～64歳
4 35～39歳 10 65～69歳
5 40～44歳 11 70～74歳
6 45～49歳 12 75歳以上
- 問3 世帯の家族構成はどれですか。(○は1つだけ)
1 単身世帯(ひとり暮らし) 4 3代世帯(親と子と孫)
2 夫婦のみ世帯 5 その他の世帯()
3 2代世帯(親と子)
- 問4 ご職業は何ですか。(複数の場合は、主なもの1つだけに○)
1 自営業(農業等従事者も含む) 4 学生
2 会社員(会社役員・専門職も含む) 5 無職(専業主婦・主夫も含む)
3 パート・アルバイト 6 その他()
- 問5 所属している団体等がある場合、その団体はどこですか。
(複数の場合は、主なもの1つだけに○)
1 どの団体にも所属していない 5 理美容組合
2 農業協同組合 6 商工会
3 飲食店組合 7 その他()
4 食品衛生協会
- 問6 お住まいの地区はどこですか。(○は1つだけ)
1 秋田地区 7 上小口地区
2 豊田地区 8 中小口地区
3 大屋敷地区 9 下小口地区
4 外坪地区 10 垣田地区
5 河北地区 11 さつきヶ丘地区
6 余野地区

1

あなたの身長・体重等についてお聞きします

- 問7 身長、体重を記入してください。
身長(. cm)
体重(. kg)
- 問8 ご自分の適正体重を知っていますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問9 お腹の周りのサイズを知っていますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問10 20歳から体重はどのくらい変動しましたか。(○は1つだけ)
1 10kg以上増加した 3 あまり変動はない
2 5kg～10kg増加した 4 減少した
- 問11 この1年間で体重はどのくらい変動しましたか。(○は1つだけ)
1 3kg以上増加した 3 3kg以上減少した
2 あまり変動はない
- 問12 体重コントロール(減量・増量・適正体重維持)に関心がありますか。(○は1つだけ)
1 現在、実行している
2 できるものなら始めたい
3 関心はあるが、実行しようとは思わない
4 関心がない

あなたの睡眠・ストレスについてお聞きします

- 問21 睡眠で休養が十分とれていますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問22 目が覚めた時、疲労感が残ることが週3回以上ありますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問23 最近1か月間にストレスを感じましたか。(○は1つだけ)
1 非常に感じる 3 あまり感じない
2 少し感じる 4 まったく感じない
- 問24 ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことがありますか。(○は1つだけ)
1 よくある 3 ない
2 ときどきある
- 問25 ストレスを解消できる趣味を持っていますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問26 日常生活の中で1日1回は誰かとあいさつしていますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問27 地域の人と付き合いがありますか。(○は1つだけ)
1 たくさんある 3 あまりない
2 少しある 4 ほとんどない

あなたの運動量についてお聞きします

- 問13 運動不足だと思いますか。(○は1つだけ)
1 思う 3 わからない
2 思わない
- 問14 30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上続けていますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問15 日常生活において、歩行など身体を動かすことを1日平均1時間以上実施していますか。(○は1つだけ)
1 はい 2 いいえ
- 問16 日常生活において、屋内も含めて1日平均何分歩いていますか。(○は1つだけ)
1 30分未満 4 60～75分
2 30～45分 5 75～90分
3 45～60分 6 90分以上

あなたの喫煙についてお聞きします

- 問 28 現在、たばこを習慣的に吸っていますか。(○は1つだけ)
 ※習慣的に喫煙とは、「6か月以上吸っていること」であり、最近1か月間も吸っている場合
 1 習慣的に吸っている
 2 かつて習慣的に吸っていた
 3 習慣的に吸ったことはない
- 問 28-1 問 28 で「1」または「2」と回答された方にお聞きします。
 たばこを習慣的に吸っている、または吸っていた期間はどれくらいですか。
 (年 月)
- 問 28-2 問 28 で「1」または「2」と回答された方にお聞きします。
 1日に吸うたばこの本数は平均どれくらいです(でした)か。
 (本)
- 問 28-3 問 28 で「1」と回答された方にお聞きします。
 禁煙しようと考えていますか。(○は1つだけ)
 1 すぐに禁煙しようと考えている 3 禁煙したくない
 2 禁煙したい
- 問 28-4 問 28 で「2」と回答された方にお聞きします。
 禁煙した動機は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
 1 健康に悪いから 4 特別なことはない
 2 社会的な立場から 5 経済的な理由から
 3 病気をしたから 6 その他 ()
- 問 28-5 問 28 で「2」または「3」と回答された方にお聞きします。
 たばこの煙で嫌な思いをした場所がありますか。(あてはまるものすべてに○)
 1 自宅 5 車
 2 飲食店 6 その他 ()
 3 公共施設 7 嫌な思いをした場所はない
 4 職場
- 問 29 次の病気のうち、たばこが影響を与える病気で知っているものはどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)
 1 肺がん 6 胃かいよう
 2 ぜんそく 7 妊娠に関する異常
 3 気管支炎 8 歯周病
 4 心臓病 9 知らない
 5 脳卒中
- 問 30 喫煙される家族はいますか。(○は1つだけ)
 1 いる 3 いない
 2 いるが、家族のいる所では吸わない

4

- 問 37 朝食を食べない日が週に何日くらいありますか。(○は1つだけ)
 1 毎日 4 週1~2日
 2 週5~6日 5 毎日朝食を食べる
 3 週3~4日
- 問 38 朝食後、喫茶店等でモーニングを食べることが週に何日くらいありますか。
 (○は1つだけ)
 1 毎日 4 週1~2日
 2 週5~6日 5 ほとんど食べない
 3 週3~4日 6 モーニングには行かない
- 問 39 3食以外に間食(おやつ)を1日に何回くらい食べますか。(○は1つだけ)
 (夕食後の夜食は含みません)
 1 1回 3 3回以上
 2 2回 4 ほとんど食べない
- 問 40 夕食後に夜食(菓子類・くだもの類を含む)を週に何日くらい食べますか。
 (○は1つだけ)
 1 毎日 4 週1~2日
 2 週5~6日 5 ほとんど食べない
 3 週3~4日
- 問 41 夕食として外食を週に何日くらい利用しますか。(○は1つだけ)
 1 毎日 4 週1~2日
 2 週5~6日 5 ほとんど利用しない
 3 週3~4日
- 問 42 外食・持ち帰り弁当(コンビニ弁当)・惣菜などを利用する時に、栄養成分表示を意識して選びますか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 43 漬物以外の野菜を毎食(1日3回)食べていますか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 44 料理の味付けは濃い味の方ですか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 45 みそ汁・すまし汁・スープなどの汁物を1日2杯以上飲みますか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 46 漬物、佃煮などを1日2回以上食べますか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 47 脂肪分の多い食事(揚げ物、炒め物)をよく食べますか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ

6

- 問 30-1 問 30 で「1」または「2」と回答された方にお聞きします。
 家庭での喫煙場所は決まっていますか。(○は1つだけ)
 1 特に決まっていない 3 家の外
 2 室内の決まった場所のみ 4 その他 ()

あなたの飲酒についてお聞きします

- 問 31 お酒などのアルコールを飲む頻度はどれくらいですか。(○は1つだけ)
 1 毎日 4 週1~2日
 2 週5~6日 5 ほとんど飲まない(飲めない)
 3 週3~4日
- 問 31-1 問 31 で「1」から「4」と回答された方にお聞きします。
 飲酒する日の1日の飲酒量はどのくらいですか。(○は1つだけ)
 1 1合未満 3 2合以上3合未満
 2 1合以上2合未満 4 3合以上
- ※1合(180ml)の目安:ビール中瓶1本(約500ml)、焼酎35度(80ml)、
 ウイスキーダブル1杯(60ml)、ワイン2杯(240ml)

- 問 32 健康的に飲める節度ある飲酒量を知っていますか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ

あなたの食習慣についてお聞きします

- 問 33 あなたは、自分にとって適切な食事の内容・量を知っていますか。(○は1つだけ)
 1 知っている 2 知らない
- 問 34 1回の食事を食べる時間は、どのくらいかかりますか。(○は1つだけ)
 1 5分以内 3 10~20分
 2 5~10分 4 20分以上
- 問 35 ついついおなかいっぱい食べるほうですか。(○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 36 1日1回はきちんとした食事を家族・友人など2人以上で、食べていますか。
 (○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ

5

- 問 48 ノンオイルドレッシングを使うなど、調味料の脂肪分を減らすよう意識していますか。
 (○は1つだけ)
 1 はい 2 いいえ
- 問 49 1日の食事を、主食(ごはん、パン、麺)、主菜(肉、魚、卵、大豆料理)、副菜(野菜、
 いも、きのこ、海藻料理)の量やバランスを意識して食べていますか。(○は1つだけ)
 1 意識し、実践もしている
 2 意識しているが、なかなか実践できない
 3 よく知らないが、関心はある
 4 知らないし、関心もない
- 問 50 食事に関する習慣を改善してみようと思いませんか。(○は1つだけ)
 1 改善するつもりはない
 2 改善するつもりである(おおむね6か月以内)
 3 近いうちに(おおむね1か月以内)改善するつもりであり、少しずつ始めている
 4 既に改善に取り組んでいる(6か月未満)
 5 既に改善に取り組んでいる(6か月以上)
- 問 51 コマ型の「食事バランスガイド」(右図)を見たことがありますか。(○は1つだけ)
 1 内容までよく知っている
 2 見たことはあるが何かはよくわからない
 3 見たことがない



あなたの健康診査の受診状況等についてお聞きします

- 問 52 過去1年間に受診した健康診査はどれですか。(○は1つだけ)
 1 町で行っている健康診査(基本健康診査・わかば健診等)
 2 勤務先(家族の勤務先)の健康診断
 3 人間ドック
 4 学校の健康診査
 5 その他 ()
 6 何も受診していない

7

- 問 52-1 問 52 で「6」と回答された方にお聞きします。
健康診査を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 病気等で長期にわたって療養中・治療中
 - 2 歩行や移動が不自由のためひとりでは行けない
 - 3 健診会場に行くための交通手段が不便
 - 4 健診に行きたいが仕事が休めない
 - 5 日時の都合が合わない
 - 6 自己負担金が高すぎる
 - 7 現在は健康なため受診する必要性を感じない
 - 8 健診行為が身体への負担が大き
 - 9 衛生面で不安を感じることがある
 - 10 過去の健診時に不快な思いをした
 - 11 いつどこで健診を受診できるかを知らなかった
 - 12 全く関心がない
 - 13 健康診査で悪いところが見つかることに不安を感じるから
 - 14 その他 ()

- 問 52-2 健康診査を受診された方(問 52 で「1」から「5」と回答された方)にお聞きします。
受診した健診の結果をどうしていますか。(○は1つだけ)
- 1 健診結果はきちんと保管しており、日常の健康の維持・改善の参考にしている
 - 2 健診結果は保管しているが、普段は特に気にしていない
 - 3 健診結果は保管していないが、なんとなくは覚えており日常生活では気にしている
 - 4 健診結果は保管していない、覚えていないし何も気にしていない
 - 5 健診結果を受け取ったかどうか分からない
 - 6 その他 ()

- 問 53 あなた自身が健康診査を受診しやすくするために、必要だと思うことはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)
- 1 仕事が休みの日や夜間に受診できること
 - 2 健診を忘れないように誕生日に受診できること
 - 3 近隣の他市町村でも受診できること
 - 4 移動健診車で住居の近くで受診できること
 - 5 歩行や移動が不自由な場合の介助支援があること
 - 6 健診場所までの交通手段が便利なこと
 - 7 受診料金の自己負担金の助成があること
 - 8 健診の日時・場所等の情報が住民全員に確実にいきわたること
 - 9 定期的な健診・早期発見・早期治療の重要性をいろいろな場所や方法で知らせること
 - 10 健診内容や方法の詳細がよく説明され、安心して受診できること
 - 11 簡易にできる健康チェックを職場や公共の施設等で行い、健診意識を高めること
 - 12 健診後に個人的な健康指導が受けられること
 - 13 その他 ()

8

- 問 59 あなたは日頃、健康にどれくらい関心がありますか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 自分の健康に良いことはかなり取り入れている
 - 2 医師に言われたことは良く守るほうである
 - 3 健康食品・栄養補助食品を購入したことがある
 - 4 食べ物を買う際、成分や栄養表示をよく見るほうである
 - 5 健康のために、自分の生活を改善しようとは思わない
 - 6 健康を維持するためなら多少の犠牲(時間やお金)は、やむをえないと思っている
 - 7 新聞・雑誌の健康に関する記事や健康に関するテレビ番組に興味がある
 - 8 外食や弁当を買う時、メニューのカロリー・バランスを考えるほうである
 - 9 健康であると意識することはほとんどない
 - 10 ドクターストップがかかるまで生活を变えないでおこうと考えている
 - 11 病院にかかったことがないことが自慢の1つである
 - 12 健康を害しても大切にしたいことや、やってみたいことがある

- 問 60 健康を維持するために、取り組みやすいもの(実践できるもの)は次のどれですか。
(あてはまるものすべてに○)
- 1 バランスのとれた食生活をする
 - 2 間食をしない
 - 3 寝る3時間前には食べない
 - 4 腹八分目をこころがける
 - 5 朝食を必ず食べる
 - 6 薄味をこころがける
 - 7 毎日、ウォーキングをすること
 - 8 自分に適した運動を実践すること
 - 9 禁煙をすること
 - 10 深酒をしない
 - 11 週に2日の休肝日を実践すること
 - 12 ストレスをためない
 - 13 毎食後、歯磨きをすること
 - 14 年に1度は健康診査を受けること

- 問 61 「内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)」という言葉を知っていますか。
(○は1つだけ)
- 1 知っている
 - 2 聞いたことがある
 - 3 聞いたことがない

- 問 62 病気だと思ったら、まずどのように行動しますか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 大きな病院で診察を受ける
 - 2 医院・診療所で診察を受ける
 - 3 軽い病気は医院・診療所、重い病気は大きな病院で診察を受ける
 - 4 薬局で市販の薬を購入する
 - 5 インターネットで病気のことを調べる
 - 6 本(家庭医学辞典など)で病気のことを調べる
 - 7 家族、友人に相談する
 - 8 しばらく様子を見る
 - 9 その他 ()

- 問 54 健康診査の結果を受けて、保健指導や生活習慣病予防の健康教室への参加勧奨があれば、参加する意思がありますか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 開催日程が合えば参加する
 - 2 開催場所への交通手段があれば参加する
 - 3 一緒に行く友人がいれば参加する
 - 4 教室の内容によっては参加する
 - 5 医師や保健師の指示または勧奨があれば参加する
 - 6 参加しない
 - 7 わからない
 - 8 健康教室とは何かを全く知らない
 - 9 その他 ()

- 問 55 いままでに保健指導や生活習慣病予防の健康教室に参加を勧奨され、参加したことがありますか。(○は1つだけ)
- 1 ある
 - 2 勧められたが参加しなかった
 - 3 勧められたことはない

- 問 55-1 問 55 で「2」と回答された方にお聞きします。
参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 開催日程が合わなかったから
 - 2 平日の指導や教室は参加したくてもできないから
 - 3 開催場所への交通手段がなかったから
 - 4 ひとりでは参加したくなかったから
 - 5 指導内容等が面白そうでなかった、興味がなかったから
 - 6 保健指導や健康教室に関心がなかったから
 - 7 保健指導や健康教室は必要がないと思ったから
 - 8 過去に参加したが、効果がなかったから
 - 9 医師の指導以外は必要ないから
 - 10 その他 ()

あなたの健康意識についてお聞きします

- 問 56 あなたは、ご自身の健康をどのように感じていますか。(○は1つだけ)
- 1 健康である
 - 2 まあまあ健康である
 - 3 あまり健康ではない
 - 4 健康ではない
- 問 57 あなたは現在、健康的な生活習慣をおくっていると思いますか。(○は1つだけ)
- 1 思う
 - 2 思わない
- 問 58 あなたは、大口町健康づくり計画「健康おぐち21」を知っていますか。
(○は1つだけ)
- 1 聞いたことがあります、内容を知っている
 - 2 聞いたことはあるが、内容は知らない
 - 3 聞いたことがない

9

- 問 63 健康や病気についてどのように考えていますか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 自分の健康は自分で管理したい
 - 2 ある程度費用が高くてもよい医療を受けたい
 - 3 病気に関する情報を積極的に集めたい
 - 4 クスリに関する情報を積極的に集めたい
 - 5 その他 ()

あなたの歯の状況についてお聞きします

- 問 64 現在、ご自分の歯は何本ありますか。(○は1つだけ)
- 1 24本以上
 - 2 20～23本
 - 3 19本以下
- 問 65 8020(ハチマルニイマル)運動を知っていますか。(○は1つだけ)
- 1 知っている
 - 2 知らない
- 問 66 歯ぐきが腫れることはありますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ
- 問 67 歯がしみることはありますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ
- 問 68 かかりつけの歯医者がありますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ
- 問 69 歯の治療は早めに受けるようにしていますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ
- 問 70 歯ぐきから血が出ることはありますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ
- 問 71 歯みがきを1日2回以上していますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ
- 問 72 自分の歯ブラシがありますか。(○は1つだけ)
- 1 はい
 - 2 いいえ